



江戸名所圖會

十二



丘氏之記

今高田小属す古ハ此地の惣名とす北条家の分限帳

恒岡彈正忠牛込少之富塚の地を領せり

富と戸を改むると云云或人云田岡本氏其の邸の地は古き塚ありて白狐の窟と

戸塚ハ狐塚を誤りて唱ふべし又此辺昔古塚多くなり一カ所十塚と呼

へしと云り按ハ狐塚とのハ水榭荷の社の傍にあり塚のうらと云ふらん高田雲雀

とら草紙ハ戸塚の祠ハ宝泉寺あり此ハ狐の形の石の扉あり其背あり戸塚といふと

百八塚 今其所在と云ふらん里老傳へ云往古昌蓮といふ富氏

佛小供養の為此高田の辺より大久保迄の間と云ふ百八負の塚と

築くと今ハ悉く其所在と云ふ

按ハ中野村熊野十二所権現の別當ニ成願寺と云ふ禪林あり其寺記ニ終本

莊司重邦の後裔鈴木九郎といふ者あり紀州藤代より一應永の頃武州

小来り中野の地に住す其家大富と云ふなり其の法号正觀を以て寺号とし自らも

九郎大富歎き居宅を壊ちて精舎とし女の法号正觀を以て寺号とし自らも

又名と正蓮と改むるは或云今馬場下町を供養塚町と唱ふるも其州稱の殘

造立せし云云再ハ業云此地を昔富塚と号けり富民の制はるあるハ彼供養

塚と富塚と唱へる中古より美の一字を帯て登律かといふ唱あま

高田天満宮 同所ハ幡宮より馬場の方へ行道の左側より別當を

早内王多

真言宗中々真定院と号し神幹ハ菅神手造の靈像也

一寸八分ありと云相傳ハ寛永の頃 大樹此神像と大橋立慶

賜ハ息男大橋長左衛門重政家流りて一家を興ふ是世前ハ所傳大橋

流と稱す依り立慶當社を建く神前ハ懸る所の戸帳ハ其旨

趣を記し置とつる 當社の旧地ハ牛込海松寺の辺り今天神町と唱ふる地

記せし次ハ祐筆大橋立慶ハ高田大友の屋敷を興ふ又菅神の真筆の佛徑

とありて此地ハ天神の宮ありと記せり証とす 昔此地ハ徑藏あり一頃守護の爲ハ造立せしと云

昔此地ハ徑藏あり一頃守護の爲ハ造立せしと云

按ハ當社の傳ハ大橋立慶 大樹よりたす所の昔神の像と一社ハ奉せ

とありて旧地ハ天神町と号し土人清松寺の地昔ハ大橋氏の宅地なりと云ハ南向

亭茶話云大友宗五郎義延自らの宅地ハ大宰府の天満宮を造りて其の傍

地ハ天神町と号し後高田ハ移りて大橋長左衛門重政の三十六歌仙の傳

と云ハ今猶存あり再び按ハ元禄二年剛枝の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ぶ

とありて依りて大友義延ハ文祿の頃の人と云ハ其の神像とすの社ハ安置し

と云ハ大橋氏ハ寛永ハ寛政の今に至りて未二百年ハ及ぶ

高田馬場 同一北の方ふあり追廻一と稱し二筋あり堅ハ東西ハ

六町小横の幅ハ南北へ三十余間あり相傳ハ昔右大将頼朝卿隅

田川より此地ハ至り軍の勢揃あり一田路なりと云ハ土人の説ハ

慶長年間越後必將 忠輝卿の沙女堂高田の君遊望の殿とて閑を

らりて芝生なり一寛永十三年ハ至り今ハ馬場と稱しせ終ハ

弓馬調練の所と云ハ一のりなり

たりと云ハ又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条家を攻り時馬を試り

たりと云ハ一のりなりと云ハ北の松の列樹ハ享保の頃 合命より風除れ

贈的ハ小的騎射ヲ外能難子土佐外記故下の類也ハ類ハ此地ハ一

大將軍家御代の始ハ國家安全の沙祈禱の爲ハ嘉例と云ハ

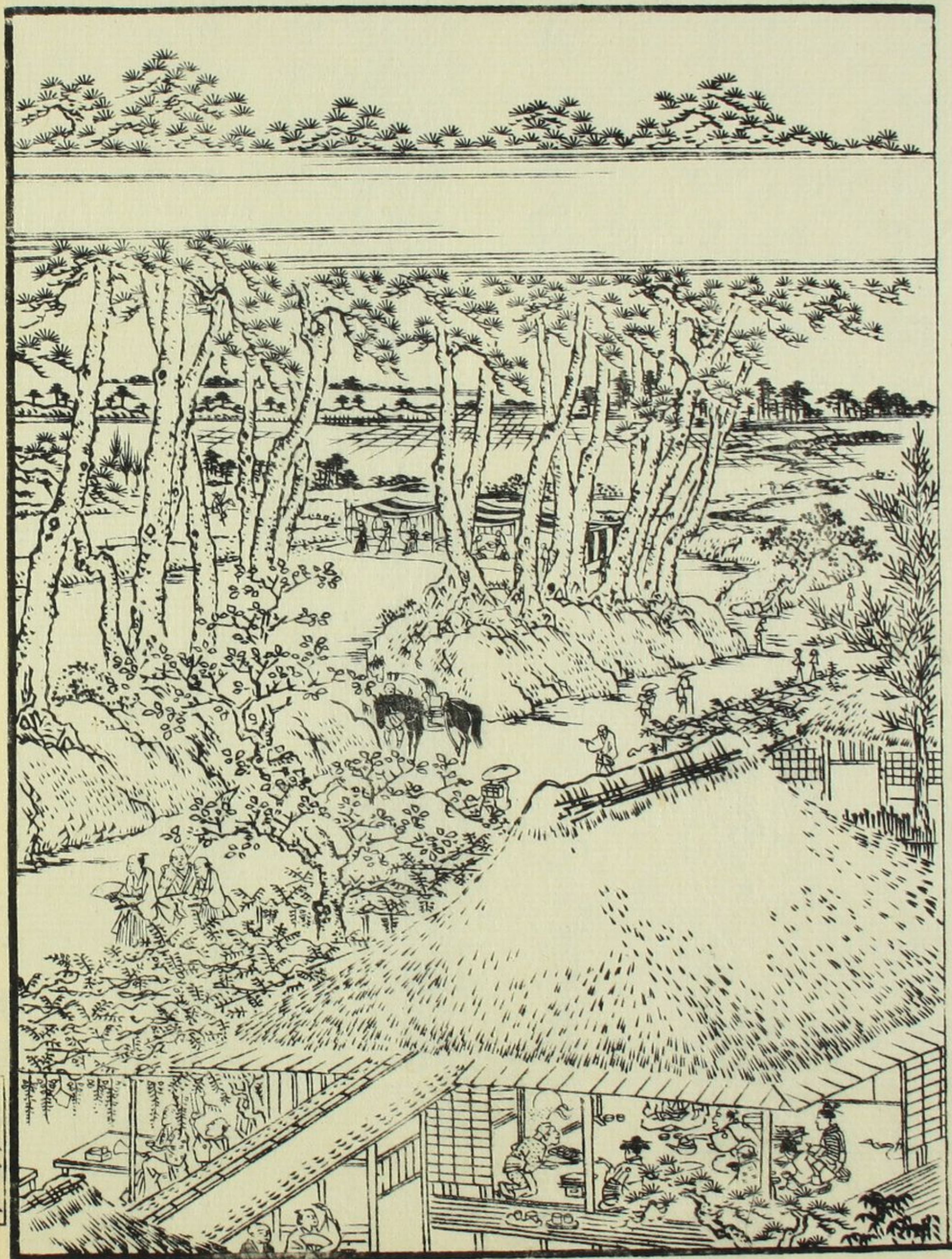
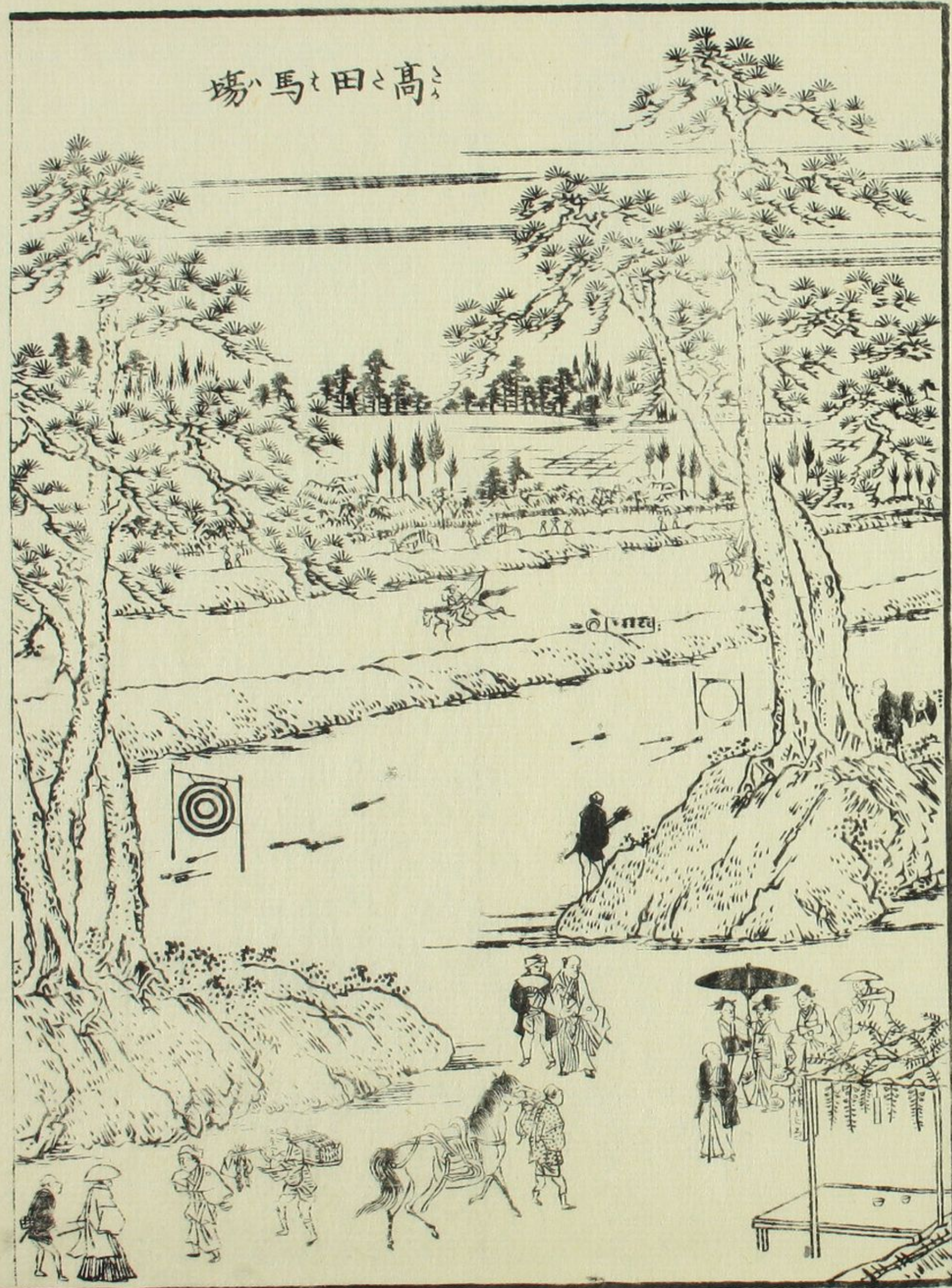
此地ハ小於く流鏑馬の式あり形装善尽ハ美を尽せり其式の図説ハ

穴八幡の別當放生會寺ハ收藏せり文章ハ神田白童子撰む

雨なり

按ハ此地ハ高田と唱ふるハ一のりなり

高田馬場



和田戸山 尾陽君彦館の地なり是を戸山彦郎と云戸山彦郎は土人相傳ふ此地ハ往昔和田戸何某と云ひ武士の住し外山彦郎右

大将頼朝卿隅田川より此地に至り今此地ハ和田戸明神高田馬場の

芳を休められしことありしと云今此地ハ和田戸明神高田馬場の

南尾州山屋鋪へ行方今此地ハ和田戸明神の道あり里老傳へて

上古の鎌倉海道なりしと云

荒蘭山 同所戸山と大窪諏訪の森との間をいひ此ありハ

雲雀の名所なり

山吹の里 高田の馬場より北の方の民家の辺をある唱此地

向歌利相傳太田持資江戸在城の頃一日戸塚の金川辺今

放鷹を時携ふ所の鷹今飛去られ今追ひ今

ら来る今急雨頻今あれハ傍の農家入る今簞を乞ふ今肉あり

小女出盛なる山吹の花を今むら今是と持資今捧く今され今

詞を今持資今意を悟今り今得今し今却今く今憤今を今含今み今家今小

帰今近今臣今小今事今の今あり今と今物語今中今小今人今進今む今云今く今是今ハ今簞今の

な今き今と今い今ふ今ら今ん今古今奇今よ今

七今き今い今ふ今ら今ん今古今奇今よ今

かく詠今せ今和今奇今の今心今を今と今く今答今へ今なり今あ今ん今と今く今れ今持今資今

深く恥今後今和今奇今の今道今と今慕今ふ今と今云今く

此今七今重今八今重今の今和今奇今ハ今後今拾今遺今集今小今中今務今卿今兼今明今親今王今の今詠今と今い今ふ今言今葉今表今に今云今く

小倉の家今住今ま今り今る今頃今雨今の今あり今る今日今暮今る今人今の今ま今り今る今れ今ハ今山今吹今の今枝今を今折今て

と今い今ふ今ら今ん今古今奇今よ今

按今此今山今吹今の今里今の今ハ今和今漢今三今才今因今會今わ今り今俗今説今弁今艶今道今通今鑑今等今の中今ハ今此

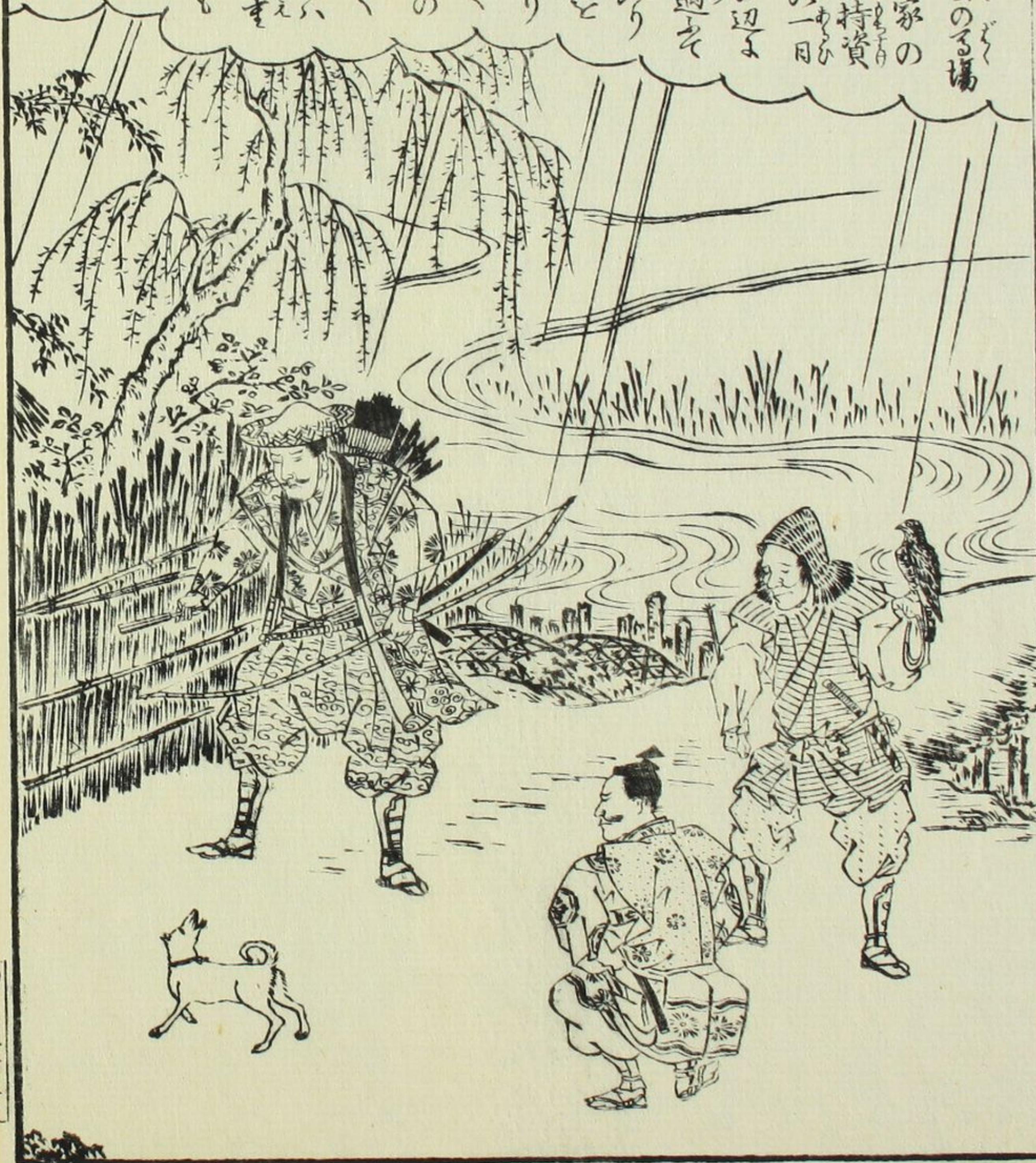
神奈川今の今今今皆今實今を今い今ふ今ら今ん今古今奇今よ今

流今小今溝今を今今今蟹今川今の今昔今ハ今加今牟今川今と今唱今へ今る今と今あり今是今先今の今ハ今此

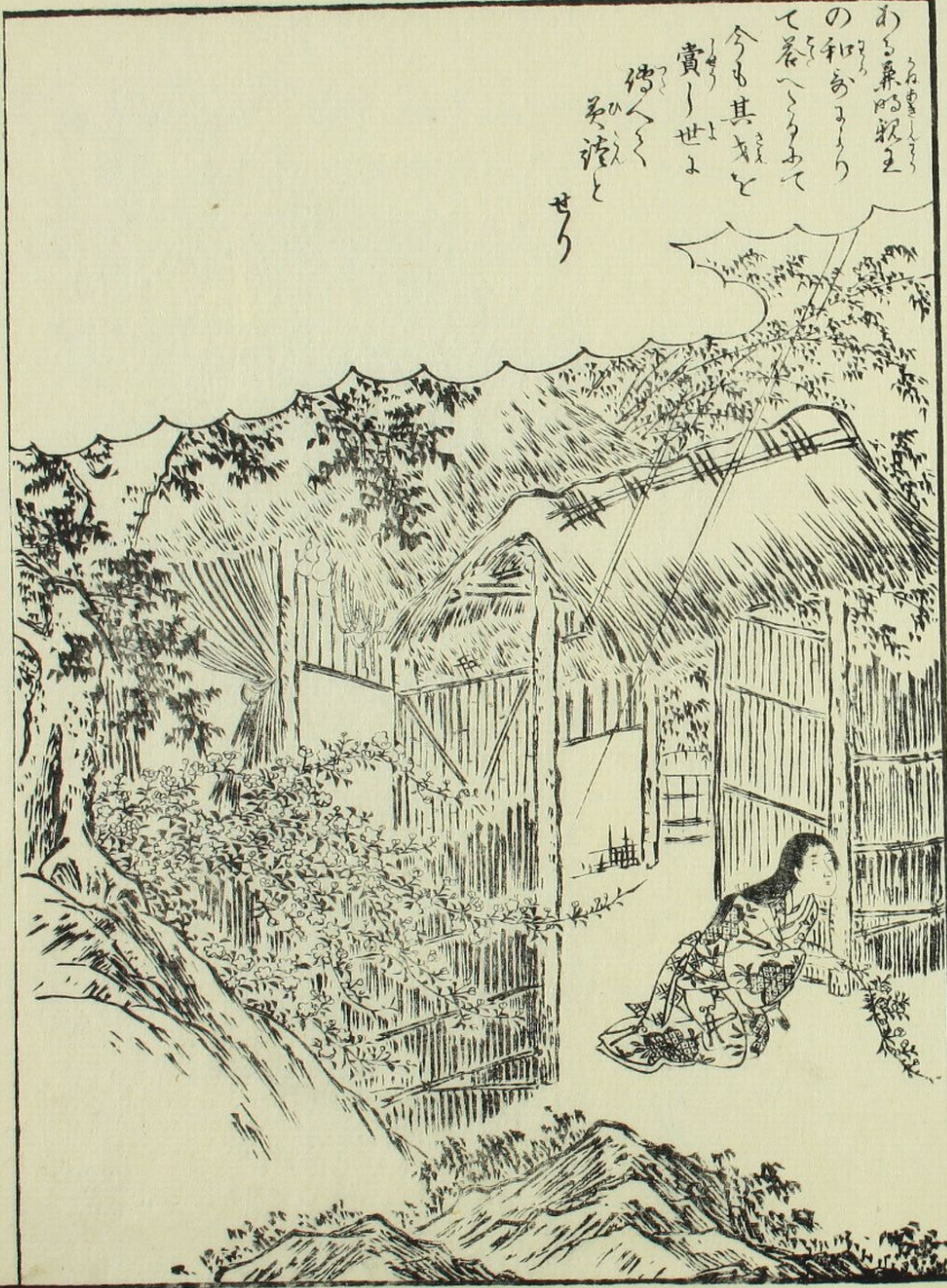
三島山 同所民家の後園今あり今古今松今四今五今株今繁今茂今せ今る今樹今蔭今ハ今三今嶋

明神今の今禿今倉今あり今相今傳今ふ今右今大今將今頼今朝今卿今此今高今田今の今地今小今軍今兵今勢今揃

山吹の里ハ高田のる場
 より北の方民家の
 辺といふ昔々田持資
 江城ありし日一月
 此戸家の金川の辺に
 放鷹以急雨に遇を
 傍の農家小入り
 簑とあしんると
 もふ時小内より
 小女出て初は多く
 驚りたる山吹の
 花一枝とてもく
 持資小捧くあは
 後拾遺集小七す
 八重花さひもも
 山吹のものひの
 くらなまきと
 うらまきと



あは兼助親王
 の和あまより
 て答へらあて
 今も其姓と
 賞し世よ
 傳くく
 英治と
 せり





山吹の井

ありし頃此御神を勧請なりしと云々此山岸より火くもくもの
 甘泉あり是を山吹の井と号し土人或ハ三島明神の浄手洗又
 頼朝卿の馬の冷し場なりともいひ傳へたり

高田七面堂

同所道より左如意山亮朝院と号する日蓮宗の寺

安を山脚本尊七面大明神の像を身延山の七面堂と當寺開山

日暉師感得ありし靈像なりとの縁起云延山第二十六世日境

上人靈告再三及の後亮朝院日暉師是を授与す依

日暉師此地五明村に草庵を結ひく此本尊を安を然る小

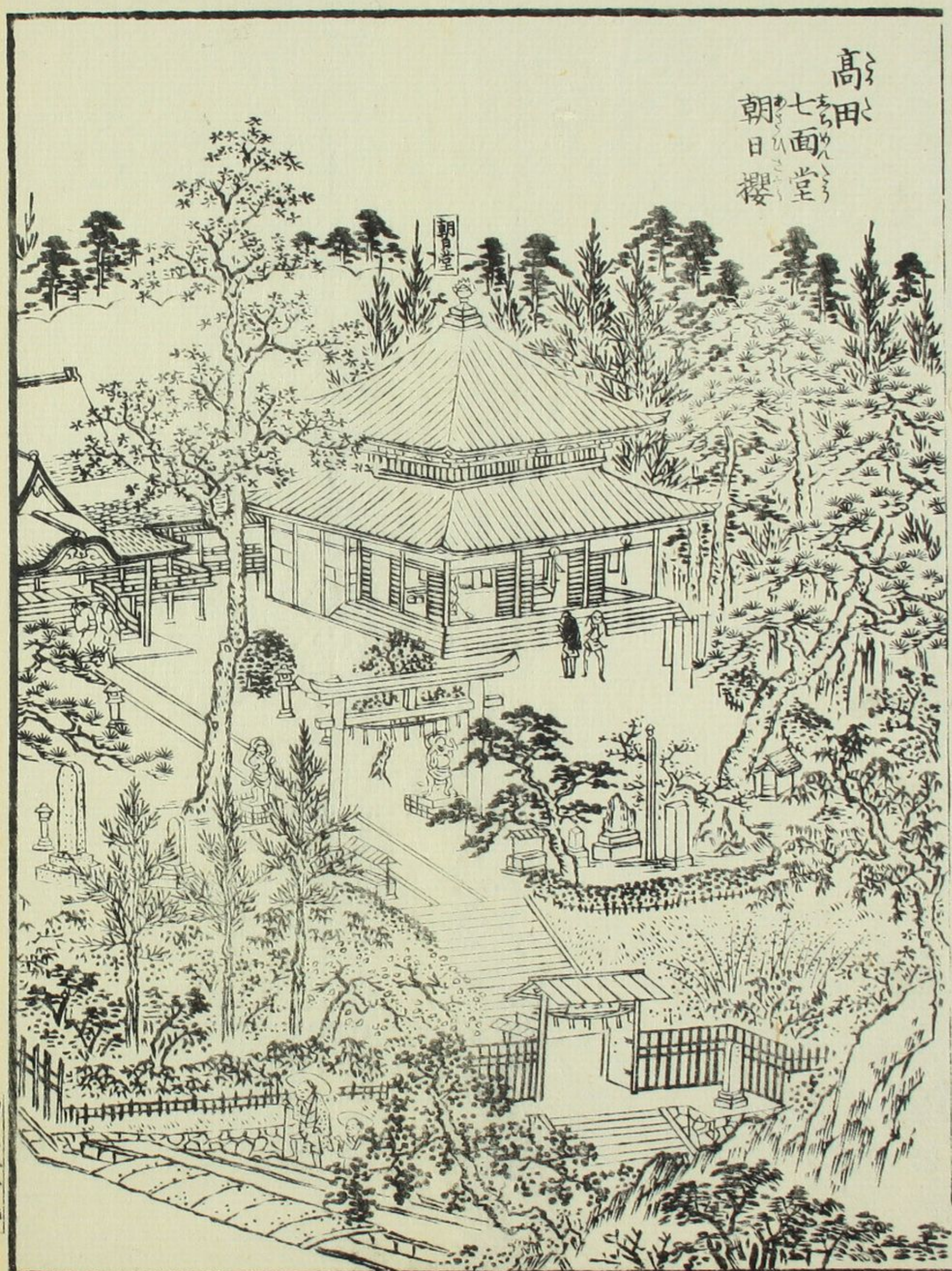
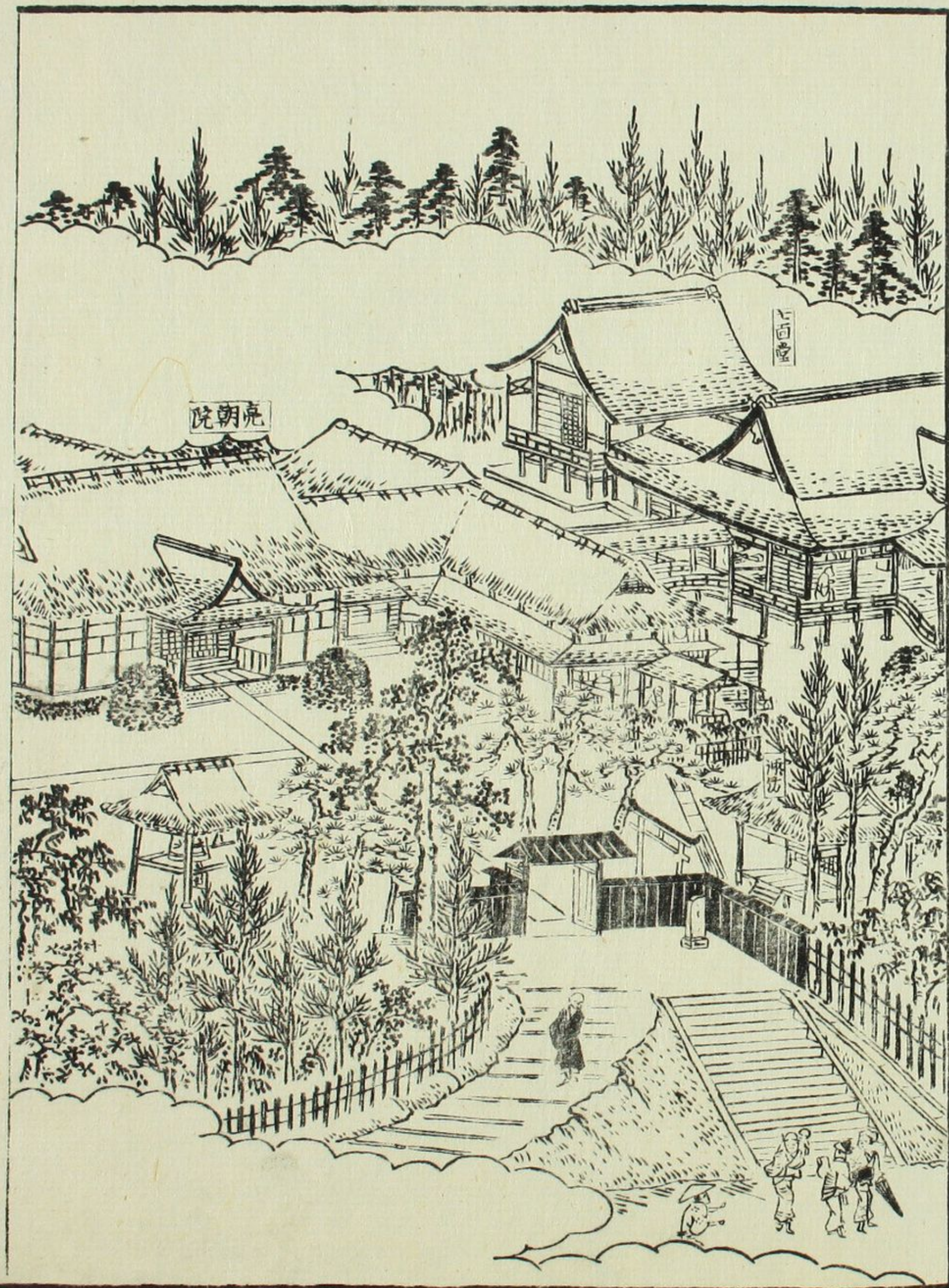
慶安元年の春荒蒲山小松社地を賜ひ七面堂を造営せ

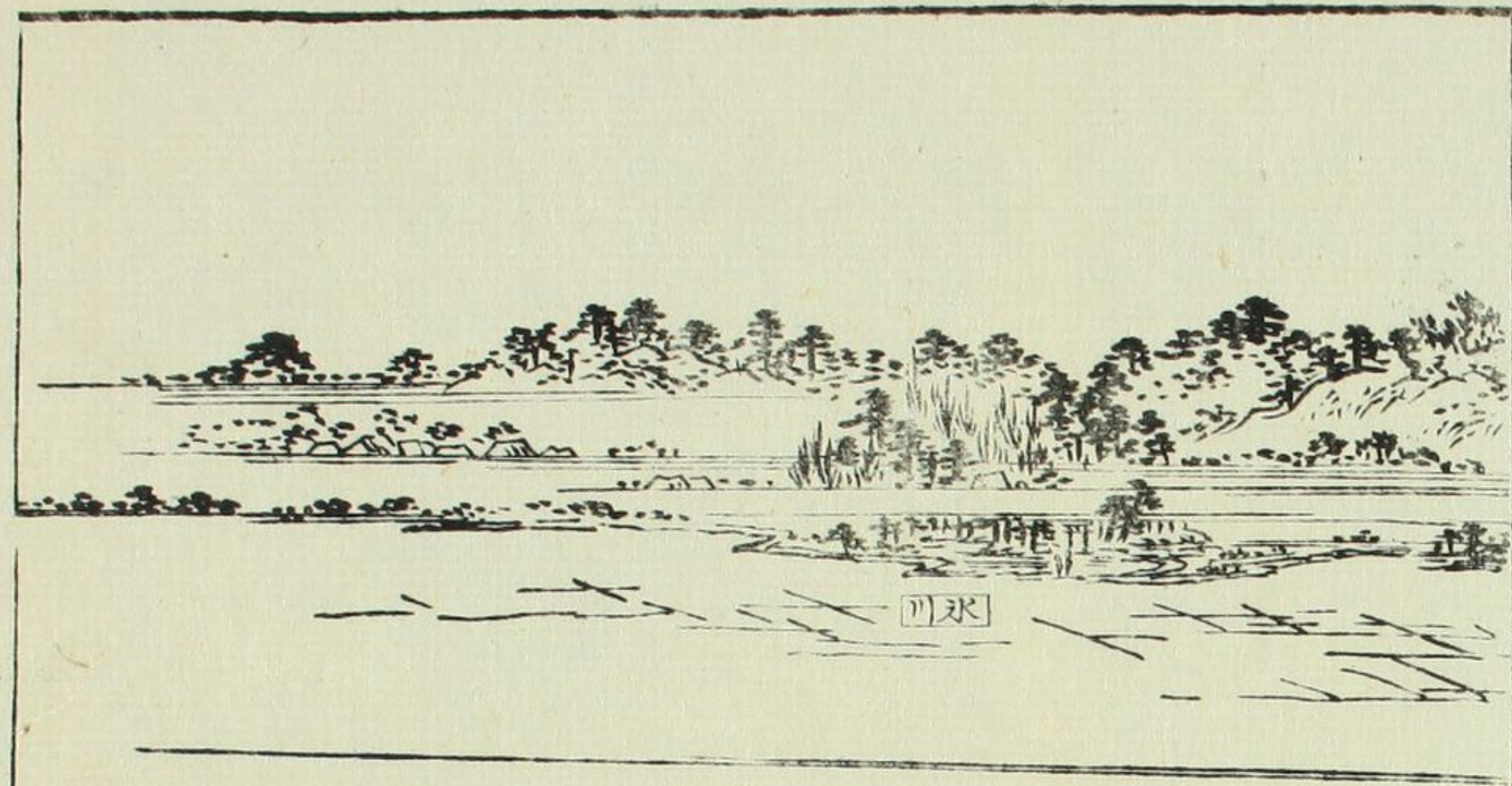
し御武運長久國家安全の祈禱所小命せり寛文十一年荒蒲

山の地ハ尾陽公の山莊と号し同二年日光御社泰ありしと云々

浄護りありし一部一卷の法華經を獻し浄守刀

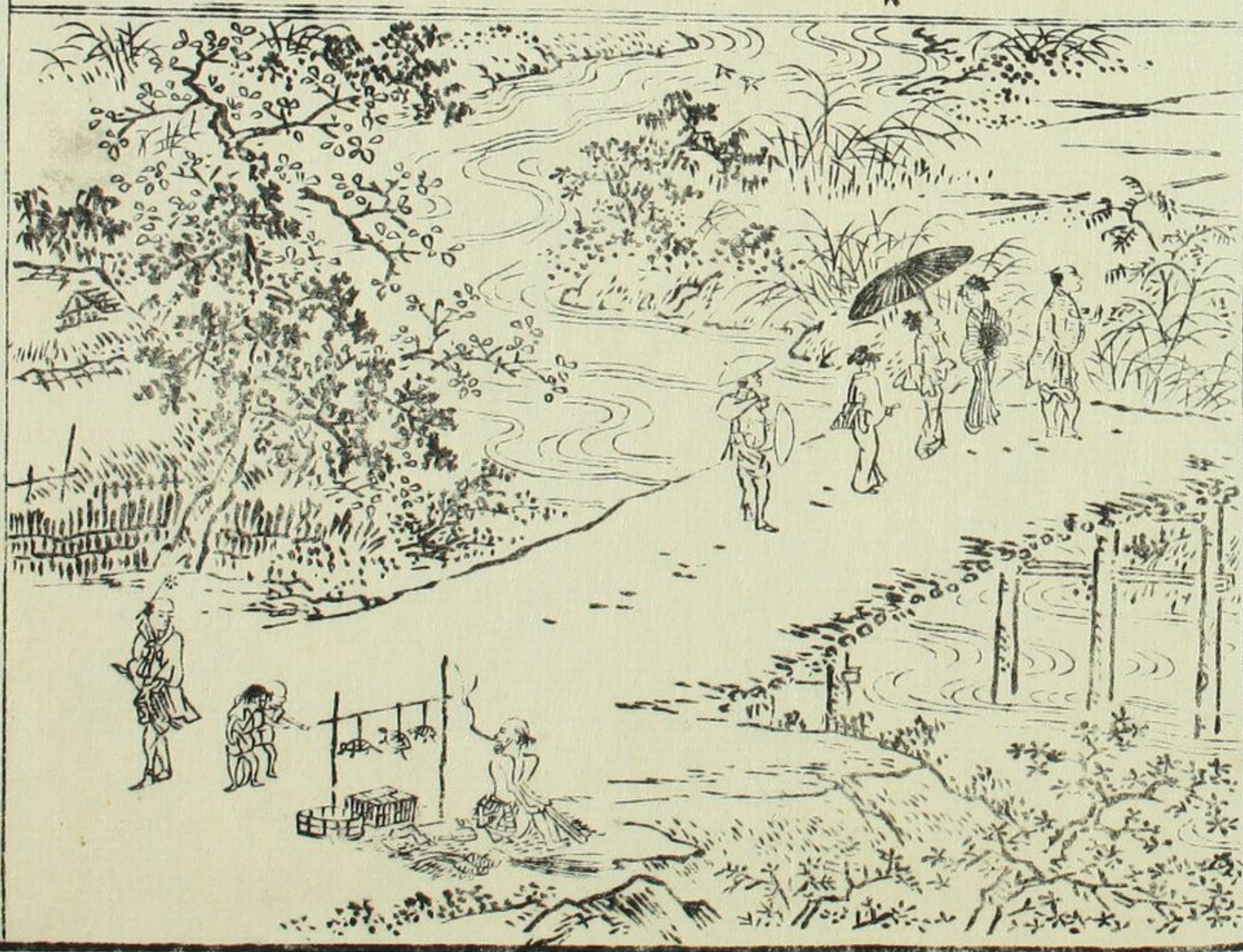
題目の七字を彫し浄婦城の後泰く浄経の表



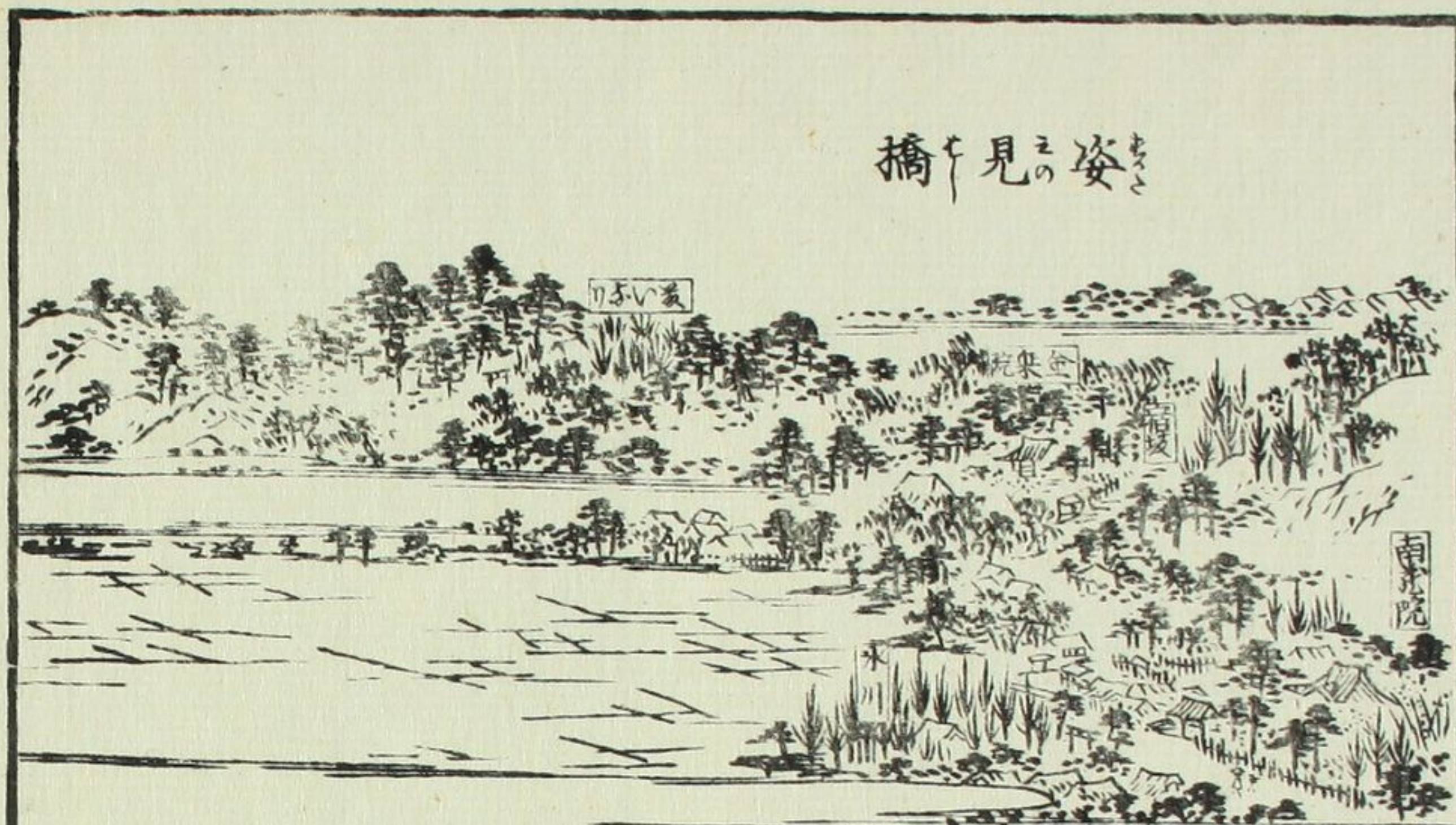


川水

しとの傍

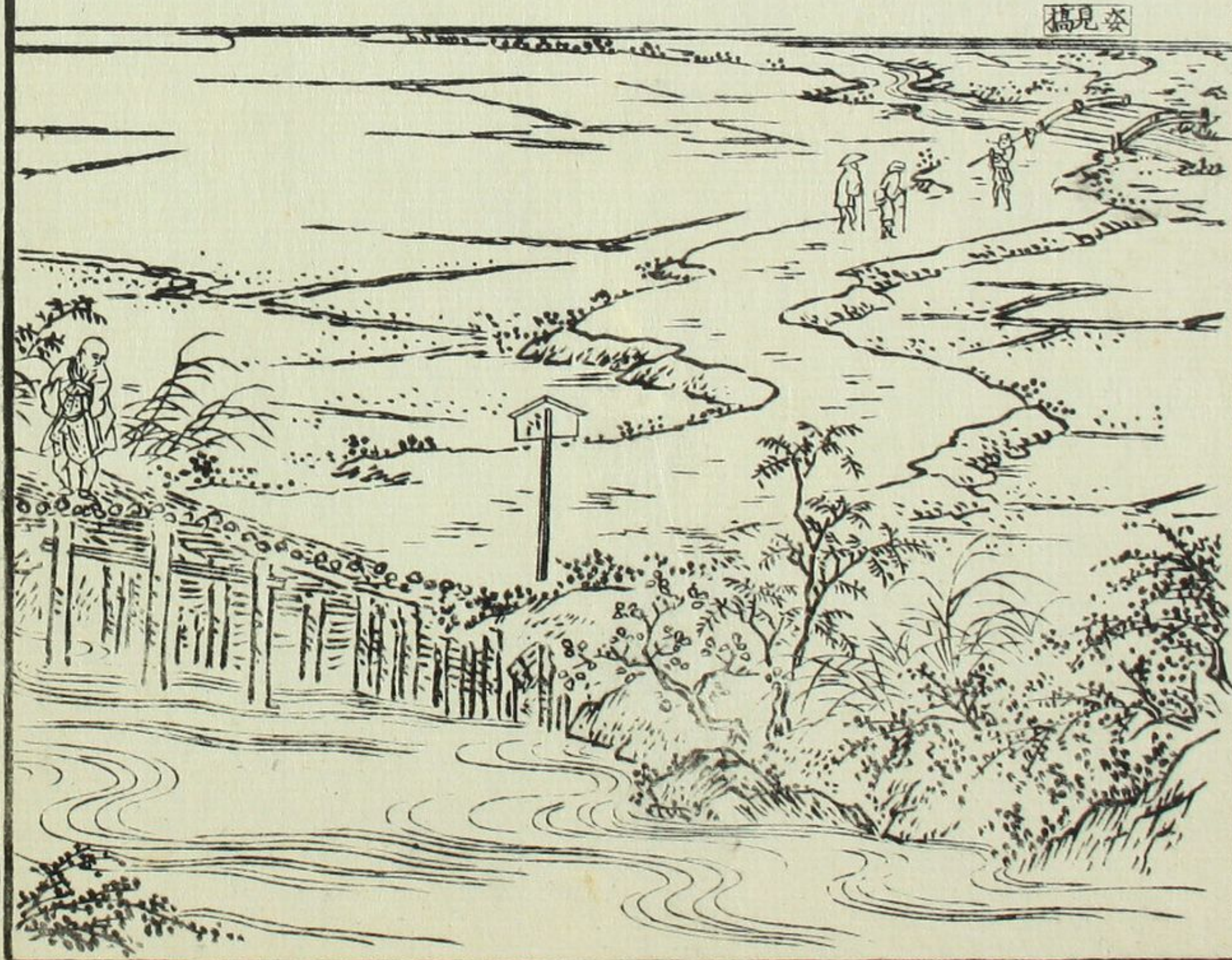


橋を見の姿



川水

橋見姿



紙の裡に七面大明神と沙深筆ありて沙諱とて書添られ

當寺小ああり今猶ほく當寺三種の

世尊堂堂内小釈迦如来

朝日堂朝上人の像を安せ此堂内小松修持する所の常題目法善院

乘院日了上人常は眼病を患ひて朝上人の寄願し平愈せりを得

うの後冥途を感せりありて宗祖日蓮大士の像を朝上人は作らるる

朝日櫻朝上人の愛樹ありといひ

傍の橋同北の方上水川小架を長十二間余あり昔ハ板橋あり

近頃ハ土橋とあり此橋を姿見の橋と思ふ此辺の螢ハ形大よ

姿見の橋同北の方上水川小架を長十二間余あり昔ハ板橋あり

ありて其水流る流る故に行人視れば鏡の面小相對する

ゆく水面湛然とる名不名とて或ハ寛永の頃

大樹此地へハ放鷹の時鷹翦るる此橋の辺少く見出

ありて台命ありて此名を呼せり也里移小云は又土

鏡山南蔵院 砂利場村あり真言宗中々大塚の護國

寺は属せ當寺を大鏡山と号す昔此寺前ハ大池ありて鏡

池と唱へしありて此名ありしと云り此地ハ姿見傍ありて昔

佛ハ聖德太子の作中々立像三尺四寸あり此靈像ハ秀衡の

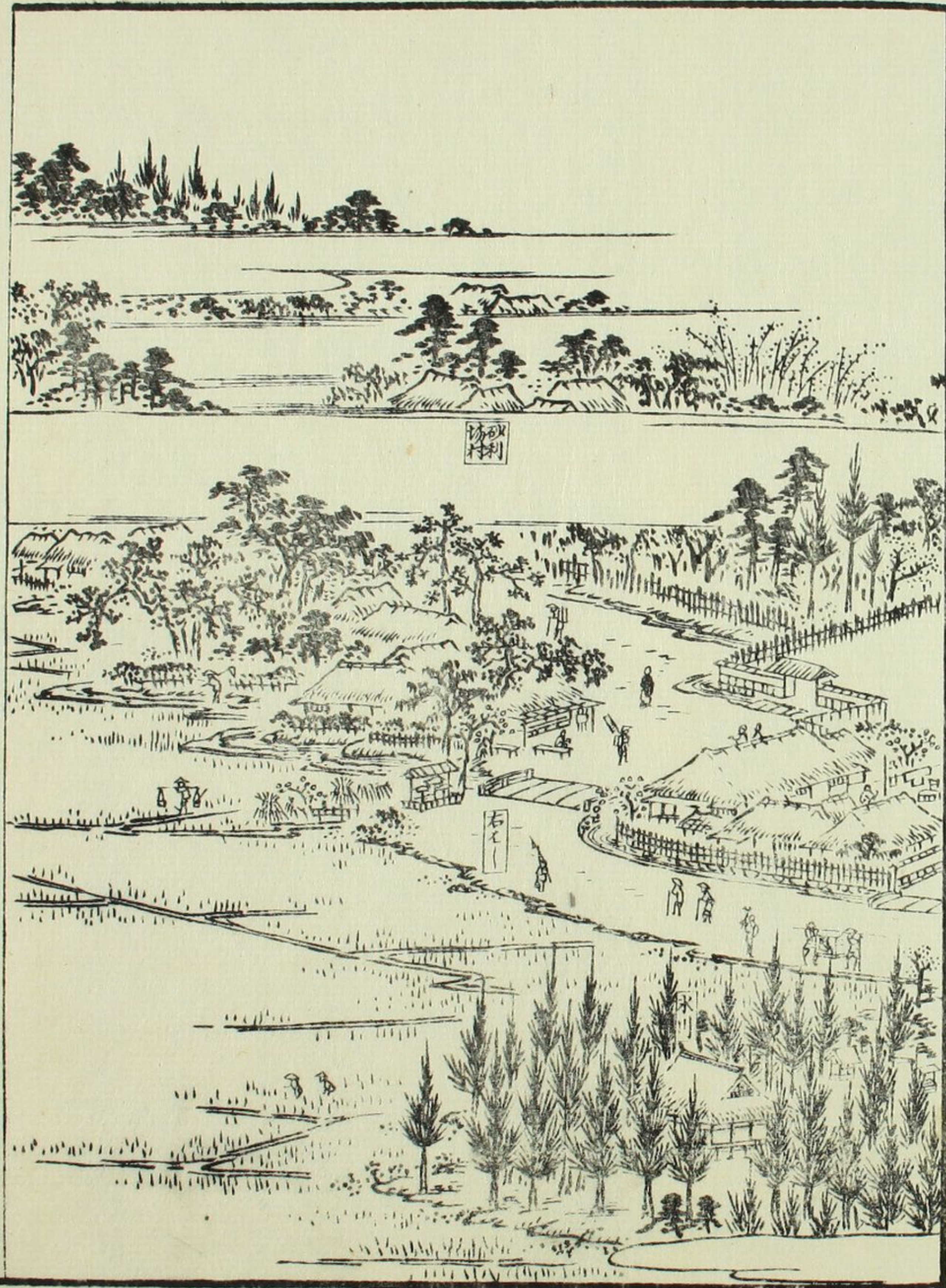
念持佛なりとて養和年間頃迄ハ奥州平泉にありしを

圓乘比丘諸國遊化の時靈夢を感し彼地の農家に

して是を得て此地に安置せり本堂外陣は掲げ

たる薬師堂三大字の額ハ蓮華光院大僧正道恕の筆あり

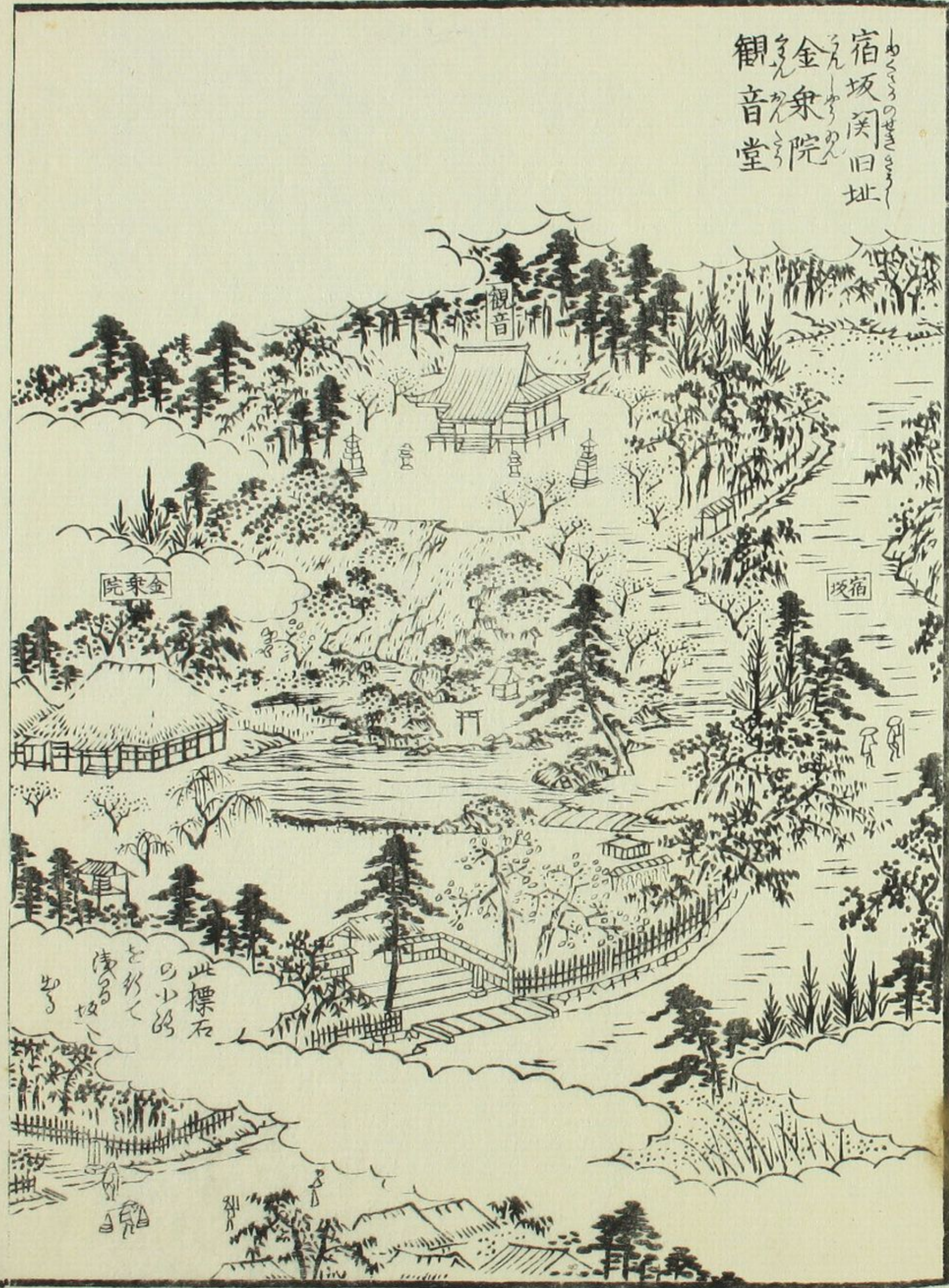
徳門の額ハ大鏡山と書せり同筆あり當寺某師堂の



高田
南蔵院
鶯宿梅
氷川社
右橋



宿坂関旧址
金衆院
観音堂



後小大橋立慶の別荘の旧跡あり寛永の頃ハ
大將軍家度々此小入らせありしと云々假の沙塵なるも
構へ重れしとあり昔ハ此地小嘗宿梅と云々
大樹沙手自裁あり梅樹ありし後枯ると云々今ハ
此地ハ昔鎌倉街道の通路なりと云々鎌倉街道の楓樹と号
すとの今その境内ニ存せり

氷川明神社 同寺前道より左ニあり下高田村の産土神ニ
し南藏院の奉祀なり祭神ハ素盞烏命にして是を土
俗男躰の宮と称す落合の氷川明神ハ稲田媛を祭れり女
躰の宮と稱し當社と合せり夫婦宮とす
毎歳正月十日祭礼すく奉射の式あり甚質掛りと云々古
雅あり此の所の川の川より麩子大黒砂と唱ふ所の産を此砂ハ
水中に住る虫の化せる由迎江古繁先生の雲根志より
右橋 南藏院の前ニ架せ石橋を号く往り還りゆと右の方小
るより名をも旧名を藁塚橋と号す

氷川明神社 同申酉の方田島橋より北杉林の中よりあり祭神奇

稲田姫命一座なり是を女躰の宮と稱せり同所某王院此

持なり 高田の氷川明神の祭神素盞鳴 婦の宮に土俗あり在原業平の二条後の靈を祀る其北あり

七曲坂 同所より麓山の方へ上る坂をのり曲折ありたふ名と此辺ハ

下落合村に属せり

落合土橋 同所坤の方上落合より下落合へ杉道は架け土人云

田島橋より一町を上る玉川の流と井頭の池の下流と會流

此あり此あり此あり此あり此あり此あり此あり此あり此あり

此地ハ強小名あり形大中々光りも他は勝れり山城の宇治近江の
瀬田も越々玉の如く又星の如く乱と飛く光景最奇と夏
月夕涼多し

奥州橋 同寺の乾の隅に架を土橋をいへり往古の奥州海道ハ

水神の社の上通り黒田家の邸園は今も松の列樹あり

其旧跡なりといへり

宿坂関之旧跡 同北の方金乘院とて密宗の寺前を四谷町此

方へ上る坂口をのり同寺の裏門の辺に絶の平地あり土人云

てそとをいへり此地ハ昔の奥州街道中々頃関

門のあり跡ありといへり

木花岡耶姬社 同所小坂の中腹にあり

此坂を清玄坂といへり其富士茂間宮の祭神ハ木花岡耶姫と云

當社の額木花岡耶姫命の六字ハ水戸黄門光國卿の親筆

なり今別當金乘院に傳ふ

藤杜稻荷社 同所岡の根に傍りあり又東山稻荷とも稱せり灵驗

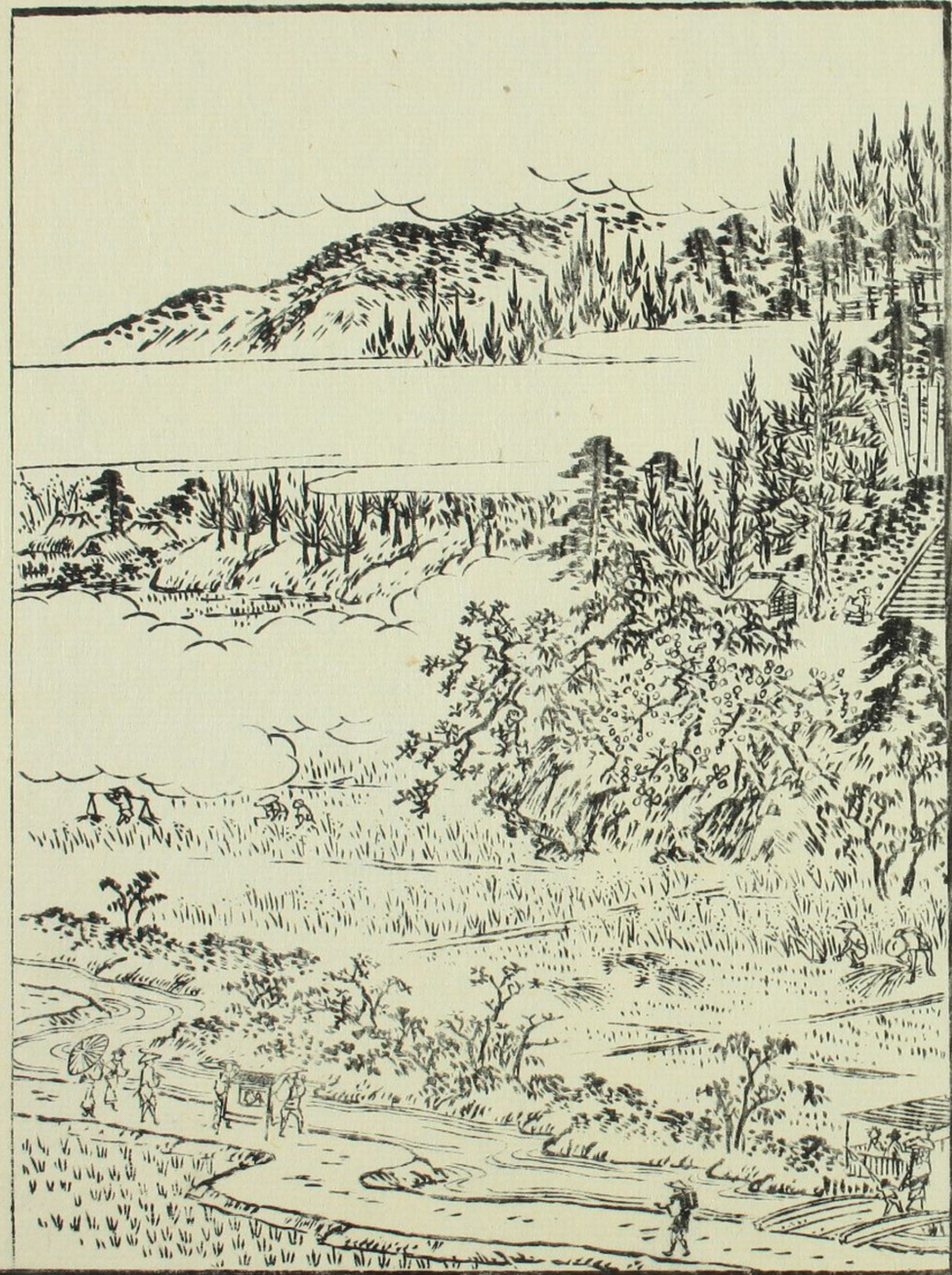
あつかりとて頗恭詣の徒多し落合村の某王院奉祀也

泰雲寺
古事



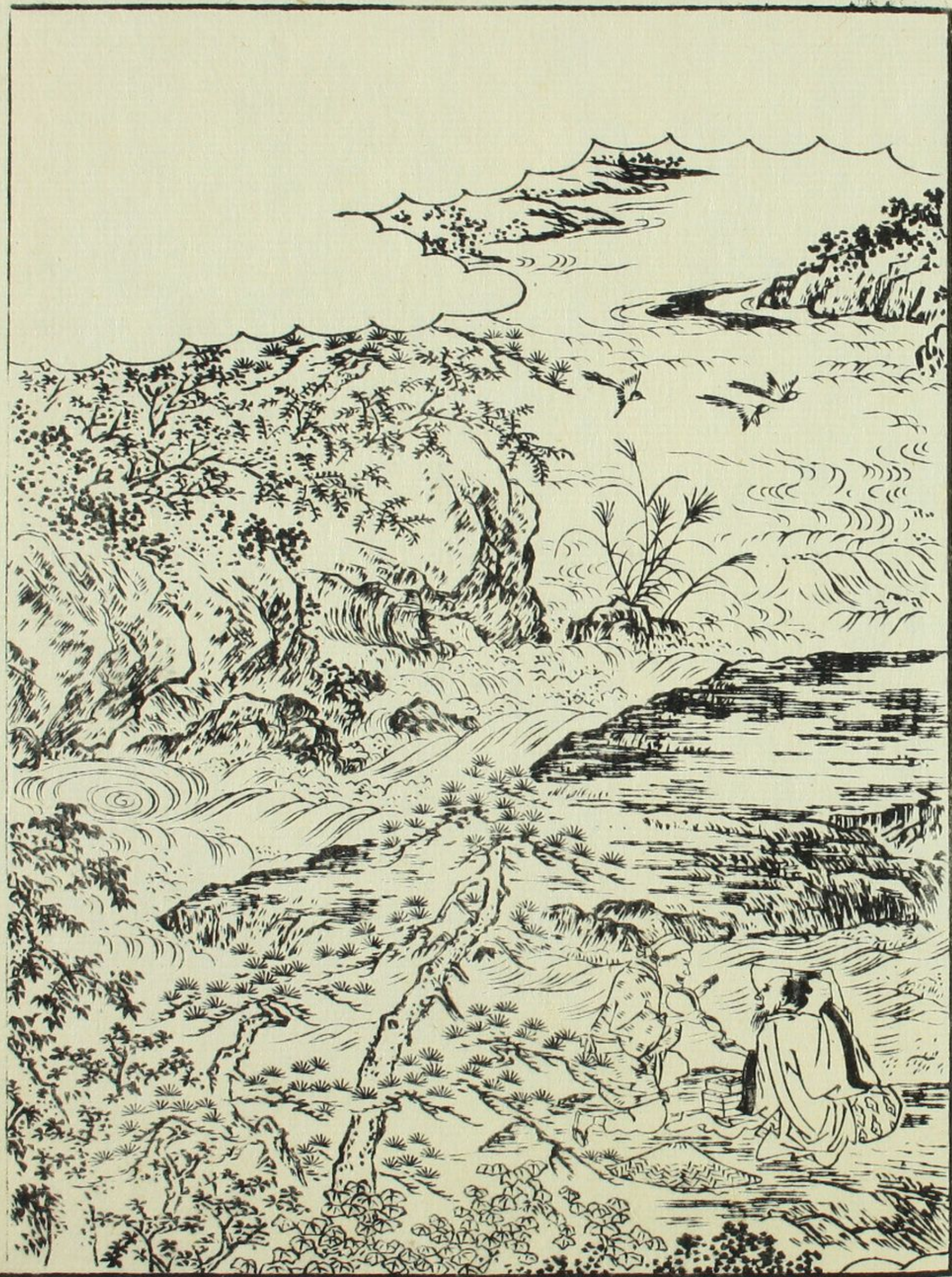
黃龍山泰雲寺

同所上落合より黄檗派の禅林あり花洛
 萬福寺より屬を本寺如意輪觀世音の像天然の石仏あり
 當寺の土中より出現ありと云ふ開山の白翁道泰和尚と号し
 本庵和尚の法嗣中々二世ハ了然尼あり其後法雲院元光尼
 了然尼の師なり
 東福門院の侍女なり 當寺を興復し十山和尚の師鐵禪和尚
 鐵禪和尚の法弟とあり 當寺を興復し十山和尚の師鐵禪和尚
 を中興の師祖とせし徳門小掲く其の額に泰雲寺とありと黄檗
 本庵老人の書なり當寺第二世了然禪尼ハ泰雲院元徳和尚と
 号し性ハ葛山氏駿州富士の大宮司葛山十郎義久の子同長次郎
 とのつゝ女なり 長次郎ハ京師泉涌寺の前住居茶事を好み古画を
 叢話小尾張國人とあり又了然ハ植山始大内小住と名を寄生
 十菴とあり儒臣の母ありとあり可考 始大内小住と名を寄生
 後仕を辞し家小歸る 江戸砂子ハ了然尼ハ東福門院小住と名を寄生
 人あつて婚儀を整へ松田何某といふ醫生の許に嫁せしむ
 江戸砂子ハ松田 男女子三人を生り 新著聞集ハ三十余歳の時男三人の
 晩翠とあり 子を産せしとあり長男後小葛山長十郎と



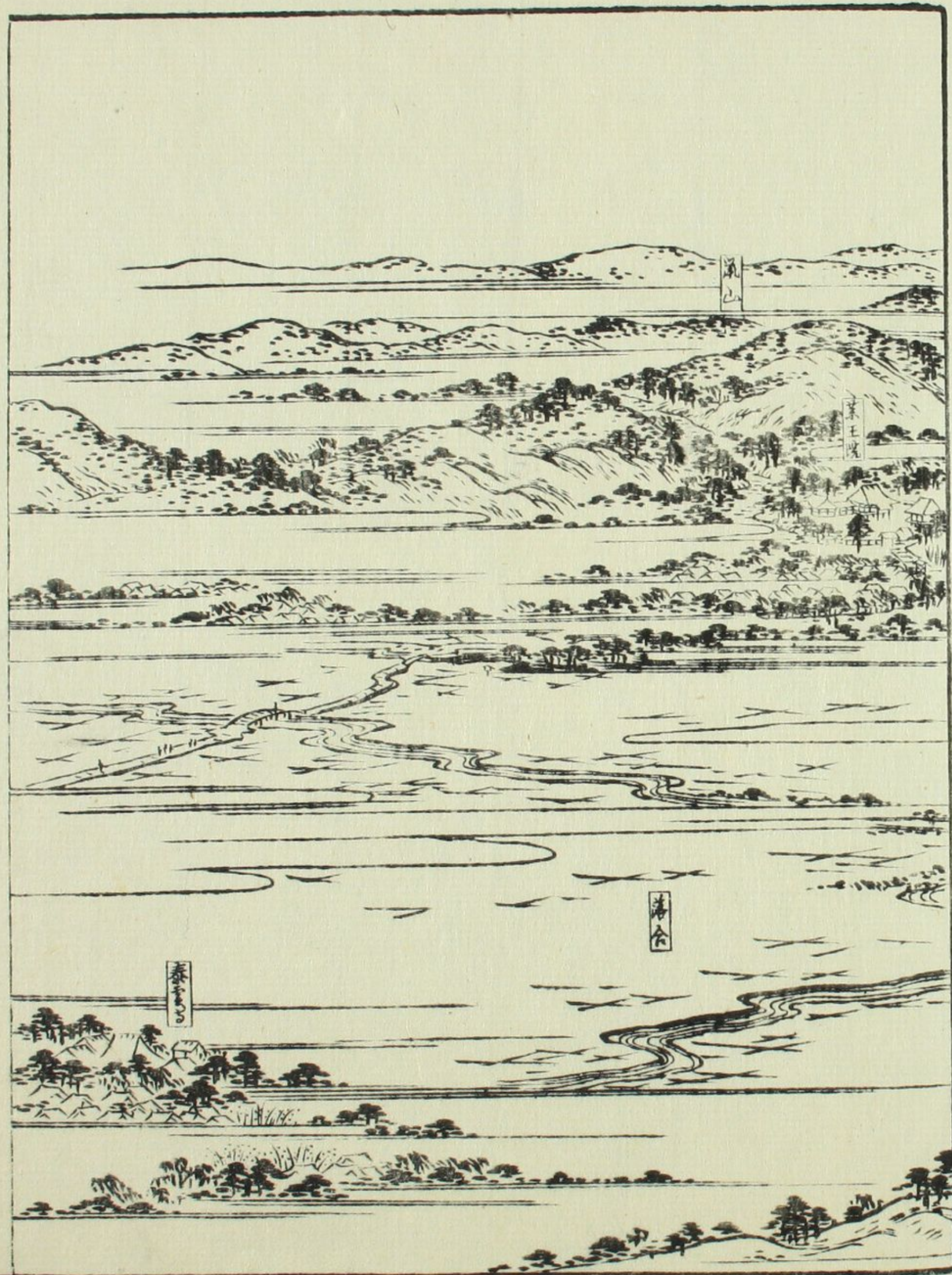
藤森
稲荷社
東山
のり
のり



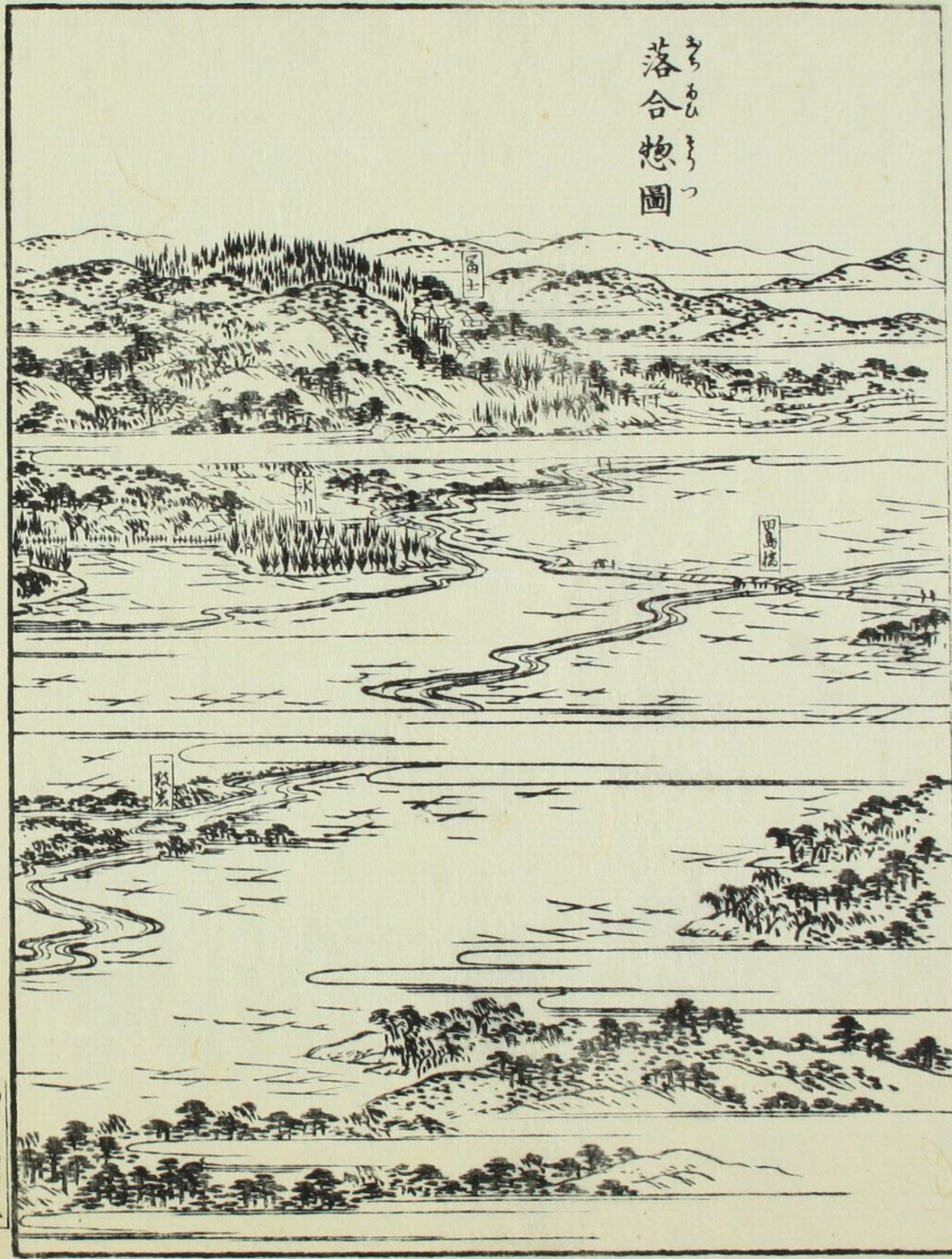


一枚岩

落ち合の近傍
 上水の白濁
 岩水面の巨
 藍水 巖頭
 此水流入鳥居
 淵岸の淵等
 その隙小名多
 此をハテ
 月の名
 秋夜
 出題
 あり



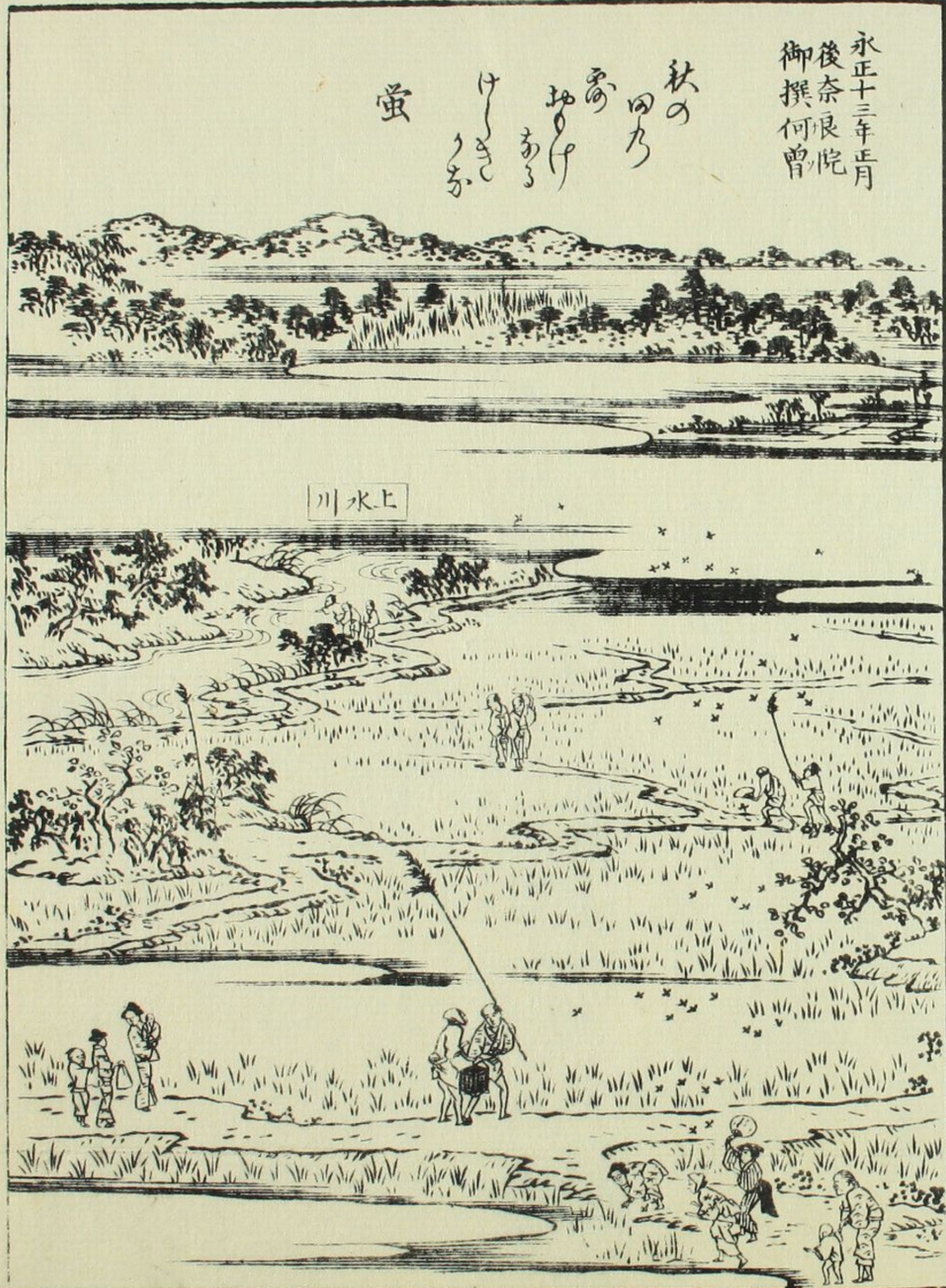
落合惣圖



永正十三年正月
後奈良院
御撰何曾

秋の
阿 田乃
あ ぢり
けしき
あ
あ
あ
あ
あ
あ

螢



川水上

落合螢

此地の螢は区種の
秋より夏に成る
此と螢とは異なる
そらよる月あはれ
飛ぶるあまのつ星
るもあやまの川
游人多くとて
あに道通し
壯観とす秋涼
引も人定り風
清く月明か
あはれとす
政略とす
事成ふは
一無とす
いん



永川

田嶋橋

各つく林家の門人なり博覧の 後夫ふ吉く菴深く臨濟黄檗等此
諸禅林は入く泰道怠り多く務竟り天和元年辛酉の冬大江原
下り白翁和尚見え法を求めんとせんとも 新著聞集小白翁和尚
和尚其美貌なるを以て許
尼の懇志を感し大法残り多く附与せしむる時頌を賦し
和歌を詠は

昔遊宮裡焼蘭麝
四序流行更無跡

今入禅林燎面皮
不知誰是箇中移

けふ世ふまきそそりあやうくは 途の影と地とをりせは 了然

かく後大悟し晩年より當寺を草創し白翁和尚化寂の
後遺骨を當寺に収め石塔を營て建く自ら銘文を製し
和尚を以て當寺の始祖と称は 白翁和尚の肖像ハ此の左に

自ら二代と称せり

尼寺の前ありと云ハ當寺のり云云 竟正徳

元年辛卯九月十八日飯寂を 當寺に石塔を築く新著聞集大江原

建寺の額此尼の跡なりとあり共小違り猶考ふべき

関山白翁道泰和尚墓 賜紫木庵老和尚嫡子也

宗説共通機用殺話孤危峻不可湊泊一朝因事

化實天和二壬戌年七月朔三日也 總等不堪悲歎

如法茶毘但恨無閑山所因伸早誠於官家終蒙

許可再興慶院改黃龍山建骨塔遺萬世皆宝永八年

奉酬法類之恩之令也 建骨塔遺萬世皆宝永八年

卯年七月初三日 當山弟二代傳法弟子了然元總百拜識

蘭基井先生之墓

同明塔の中あり井上氏名通照字子叔 嘉善と稱を岡山侯の儒臣より

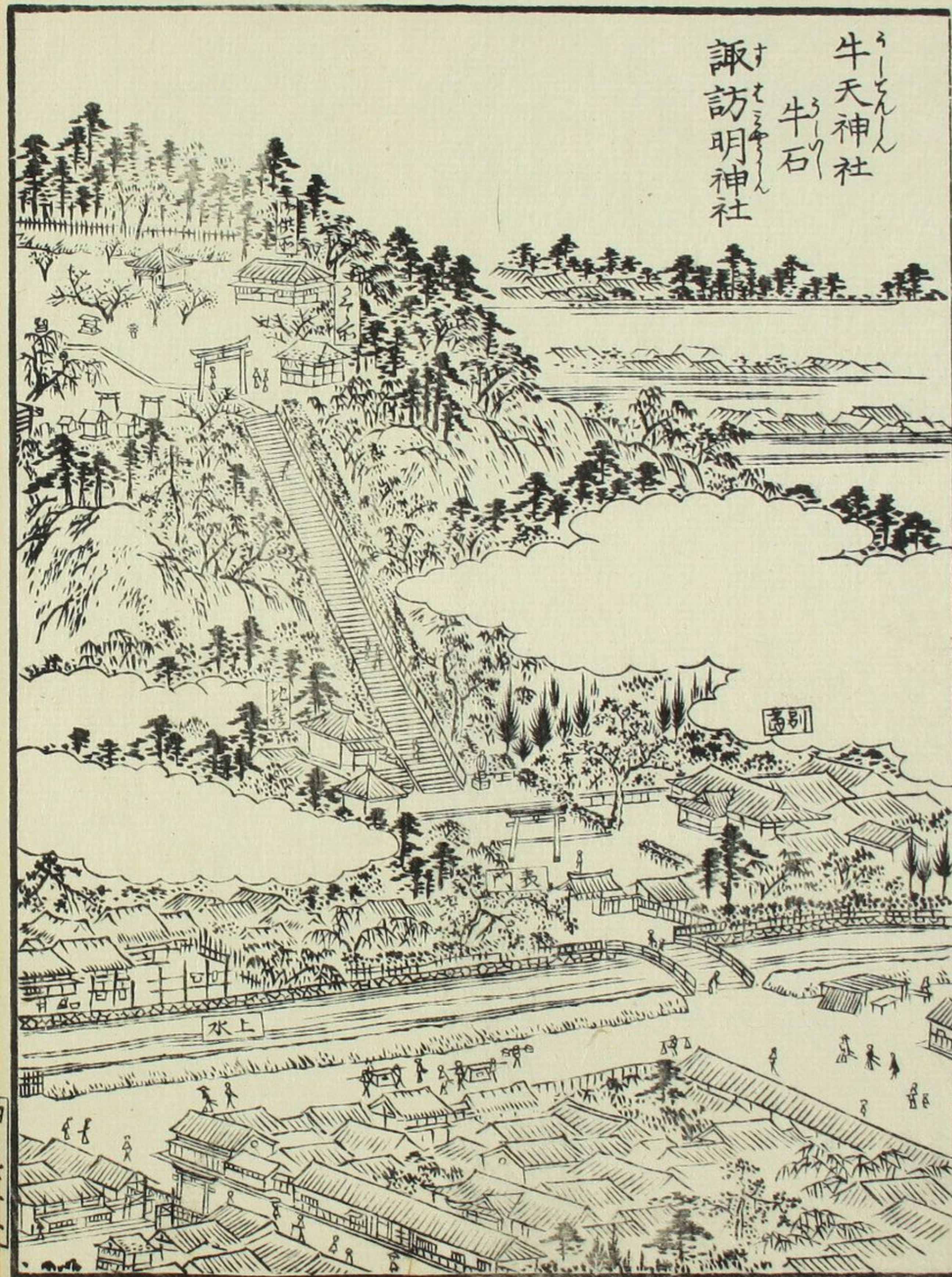
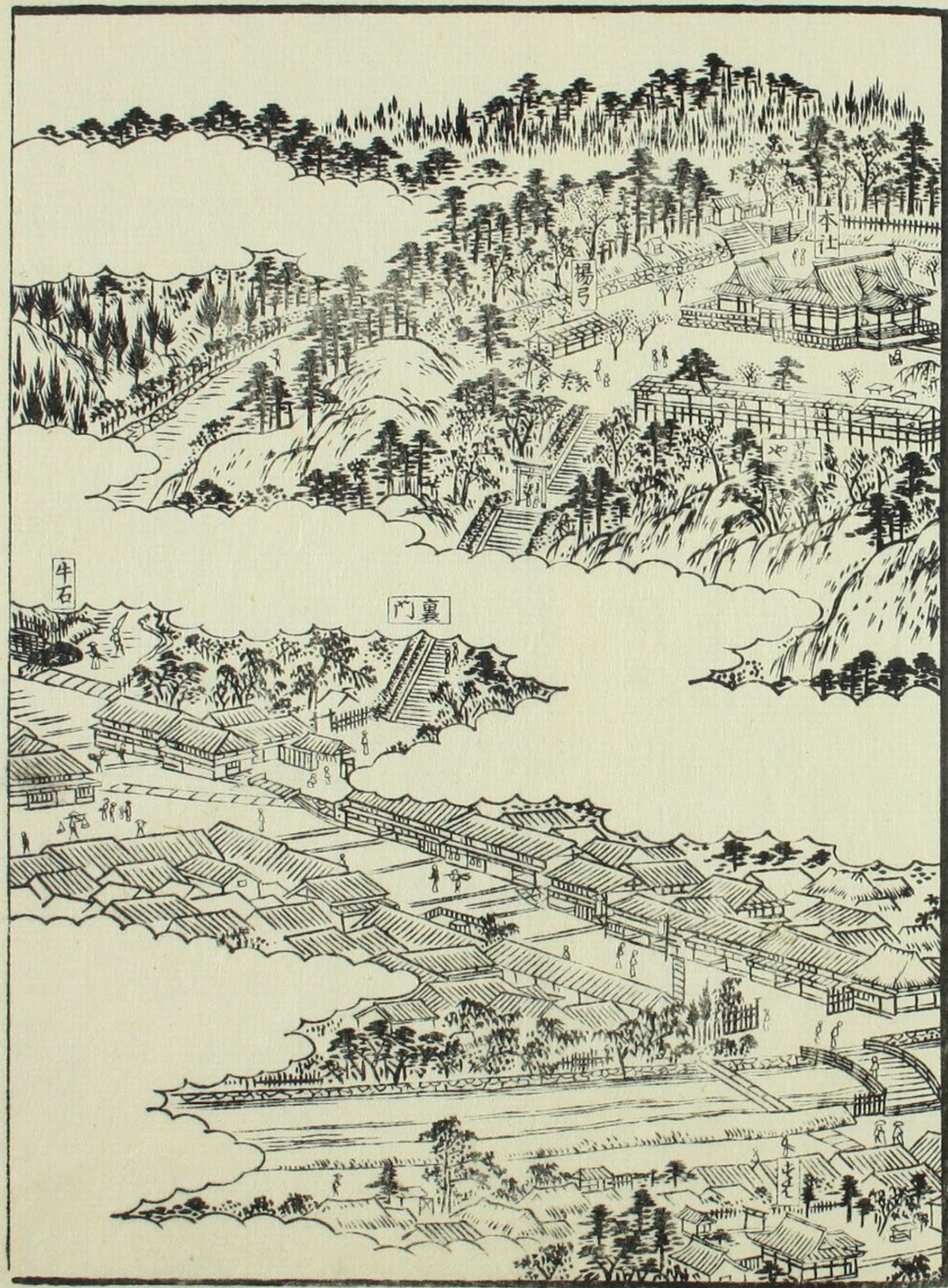
牛天神社

小石川上水堀の端あり一木金杉天神と稱此地を

金杉と唱ふ

ふよりくあり号く 金杉古ハ金曾木小作小田原北条家

の条下の詳あり 別當天台宗より泉松山龍門寺と号し神跡



牛天神社
牛石
諏訪明神社

菅神自ら彫造し、のふといひ傳く、伊長六寸あり、當社の旧地ハ社地より東のガ今

水府君の邸中より入り神木

降魔狗社壇に収む鎌倉佛師運慶の作ありとのハ往古

華表鳥居の額ハ額常額 天満宮 近衛内大臣家熙公筆

牛石裏門坂の下リ口隔の方ありは巨石をさし名づく次の社記の条下ハ

社記云往古壽永元年壬辰の春右大将頼朝卿東國追討の

時此所の入江の松小船を繫ぎて、和波を待み、此辺上古ハ入江也

入江のありへ續きありしものハ天神の外の坂を佃干坂と其間夢ハ

菅神牛に乗し、頼朝卿ハ二つの幸ありしと云ふ、武運満

足の後ハ必小社を営み報せしと託し、頼朝卿夢覺る後

傍を顧み、ハ一の盤石あり、夢中菅神乗しありしハ牛ハ

髣髴し、依る是を奇異とせし、果しく同年の秋頼家卿

誕生あり、又翌年癸巳の夏ハ動く、平家悉く敗るハ其報

賽としく、元暦元年甲辰此所神を此地ハ勸請あり、神領等

寄附ありしと云云、又江戸名勝志といふ草紙ハ北条氏康兵と起され、

諏訪明神社 同所上水堀より南の方、諏訪田あり 祭神ハ健御名

方命なり、相傳ふ、明德元年庚午牛天神の別當梅本坊衆觀

法印靈告あり、勸請なりしと云云土人云此地旧名を忍

ぶの森と云ふ、梅本坊ハ今の竜門寺是なり 祭礼ハ毎歲正月と

慧日山金剛寺 同所上水堀の端ハあり、曹洞派の禪刹あり、駒込

吉祥寺ハ屬せり、昔ハ臨濟宗なり、永正

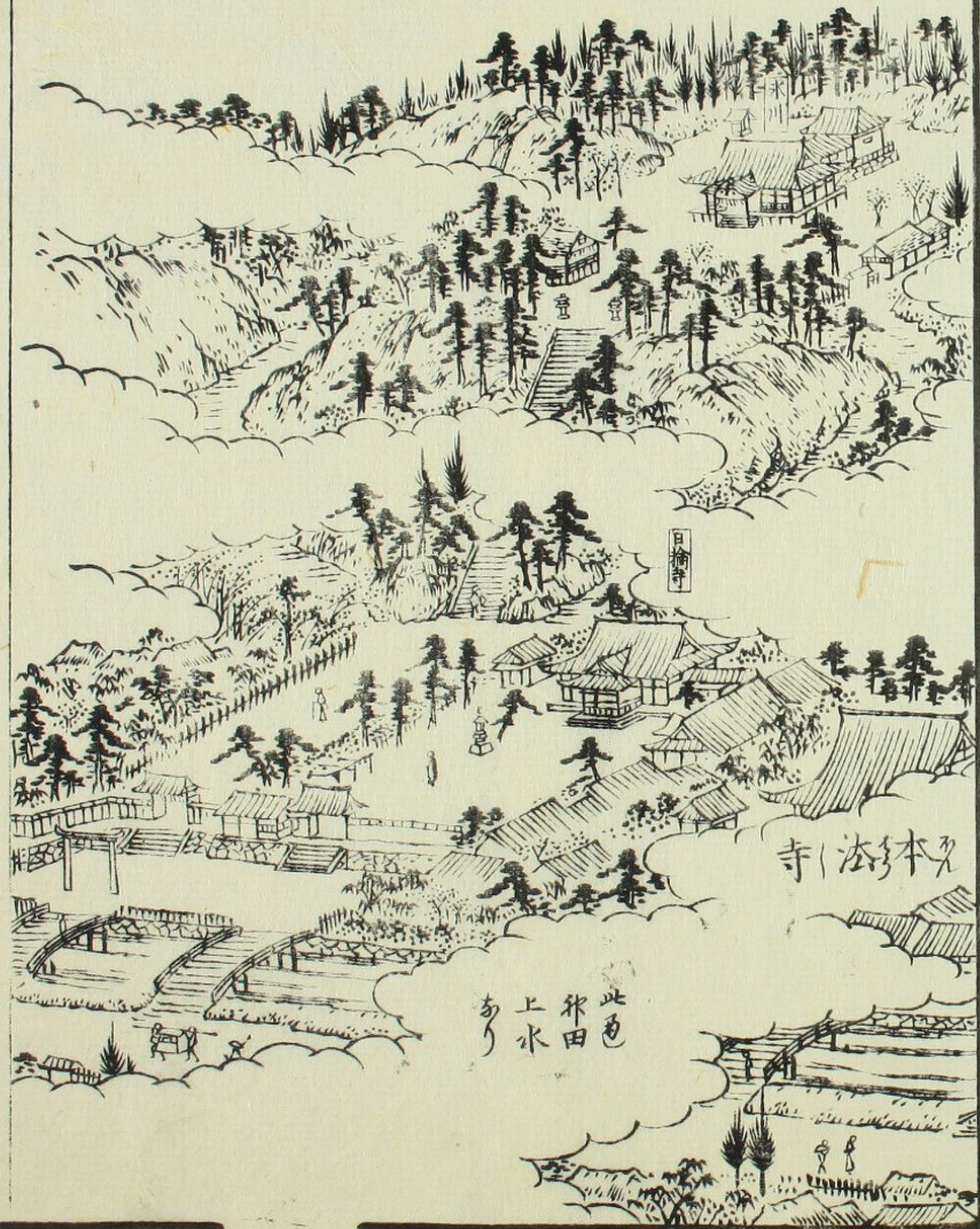
天目忠峯普應國師中興ハ用山和尚とのハ、本寺ハ釋迦如来開山也

鎌倉右府將軍實朝公碑、後山の半腹ハあり、永正の頃造立

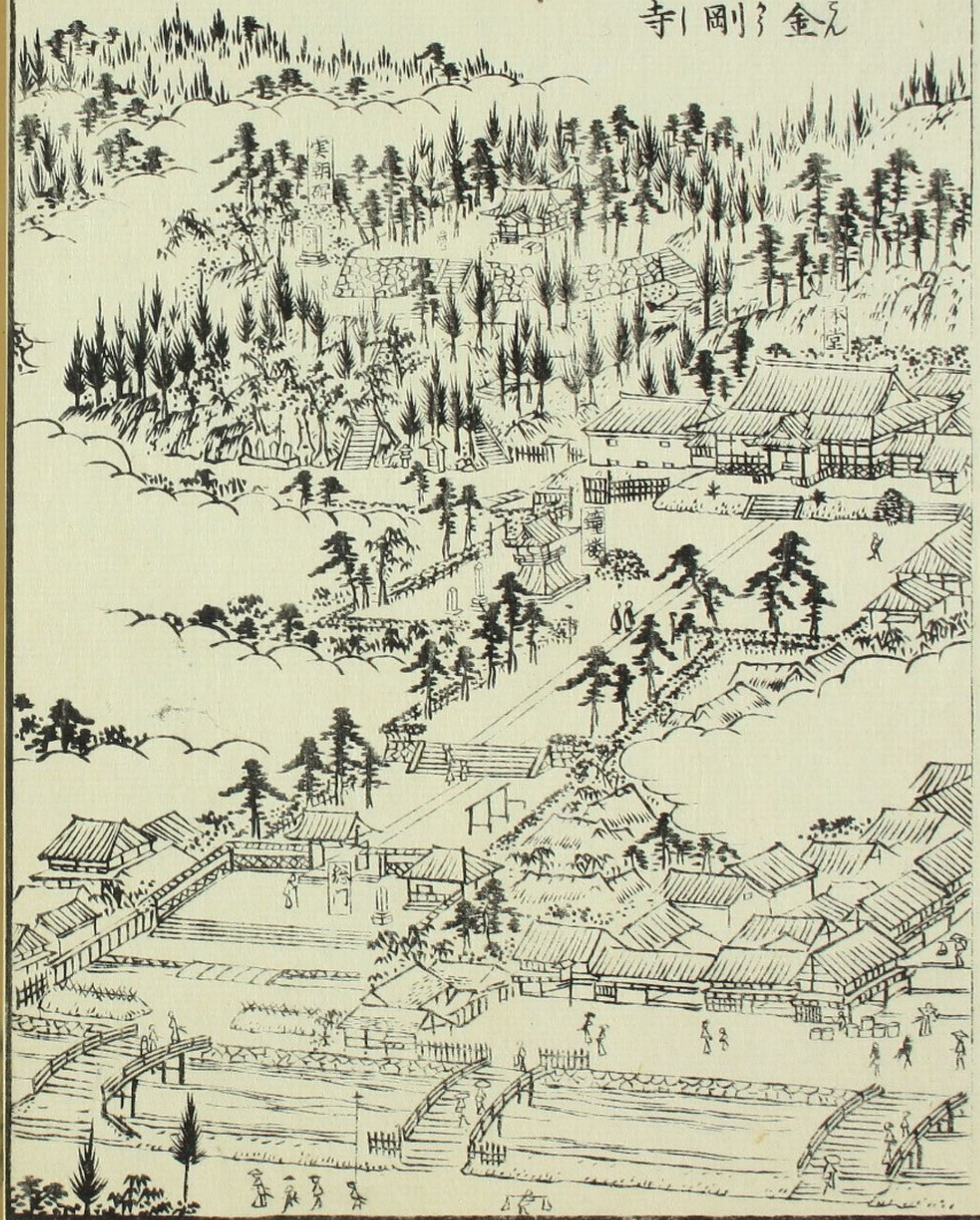
惠日山金剛禪寺者始、波多野中務忠經為鎌倉右

府將軍實朝公菩提、長二庚戌年建立、相州波多

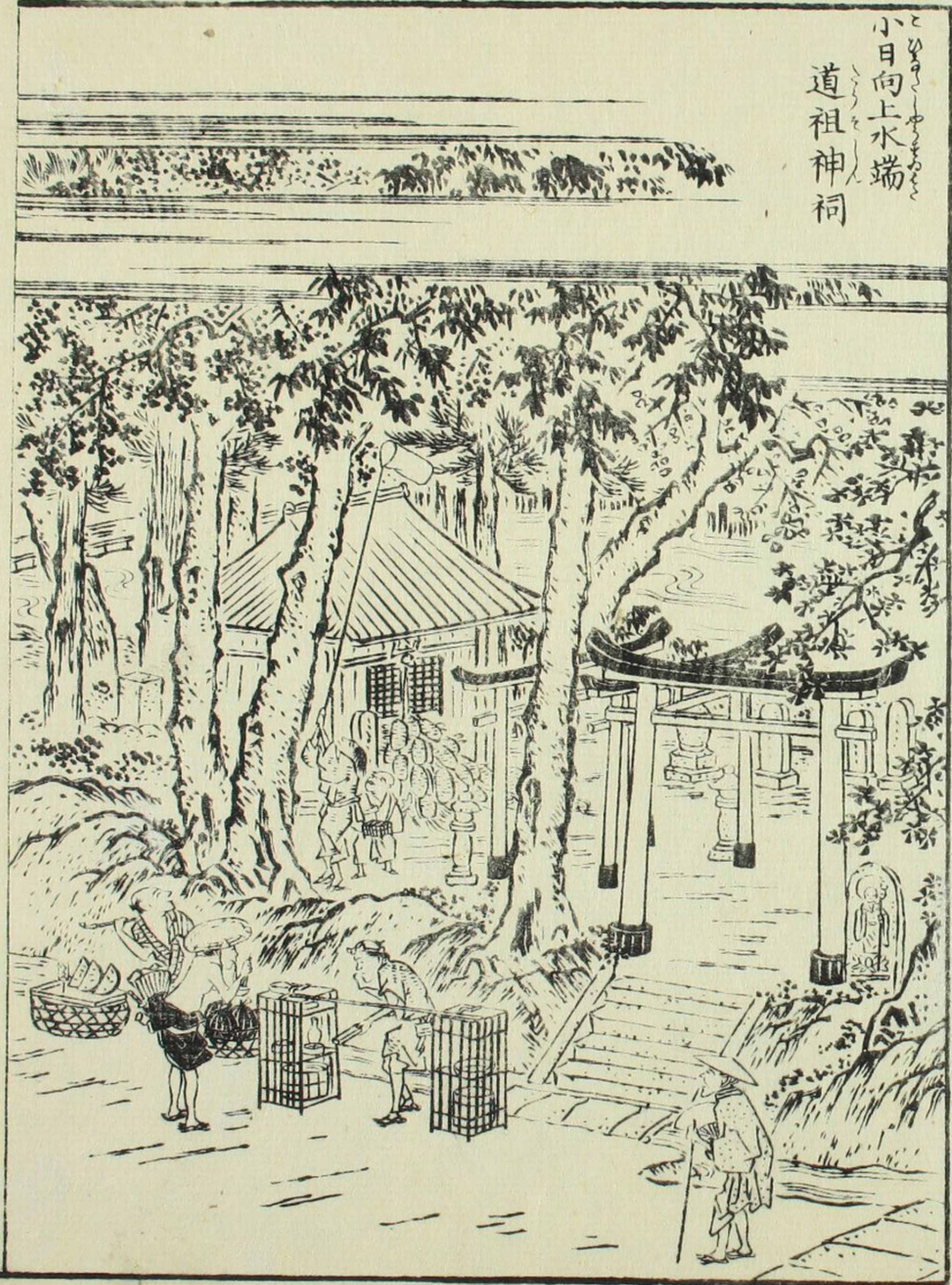
氷川明神社



金剛寺



小日向水端
道祖神祠



野莊田原村後江戸下野入道心移寺於武州江
戸莊小日向御金杉村亦其後文明年中太田左衛
門入道静勝軒春苑道灌重興焉肯日首臨濟宗也
其時之開山普應國師二代巨舟和尚中興叔悅禪
師永正六年己巳年改曹洞宗者也維時永正十癸酉
年七月十日金剛現住比丘實山史記之

金剛寺殿鎌倉右府將軍實朝公大禪定門

兼久元己卯年正月二十七日

地藏堂 同山頂あり許天竺佛中頼朝御鎌倉四覺寺此
地は移し置あり後金剛寺と共此地は持し宇を建立あり彼

當寺ハ波多野中務忠經棟鑑中務丞忠經と云各あり諸家系圖不
改志徑よ鎌倉將軍實朝公の菩提を弔ひつゝ為建長二年

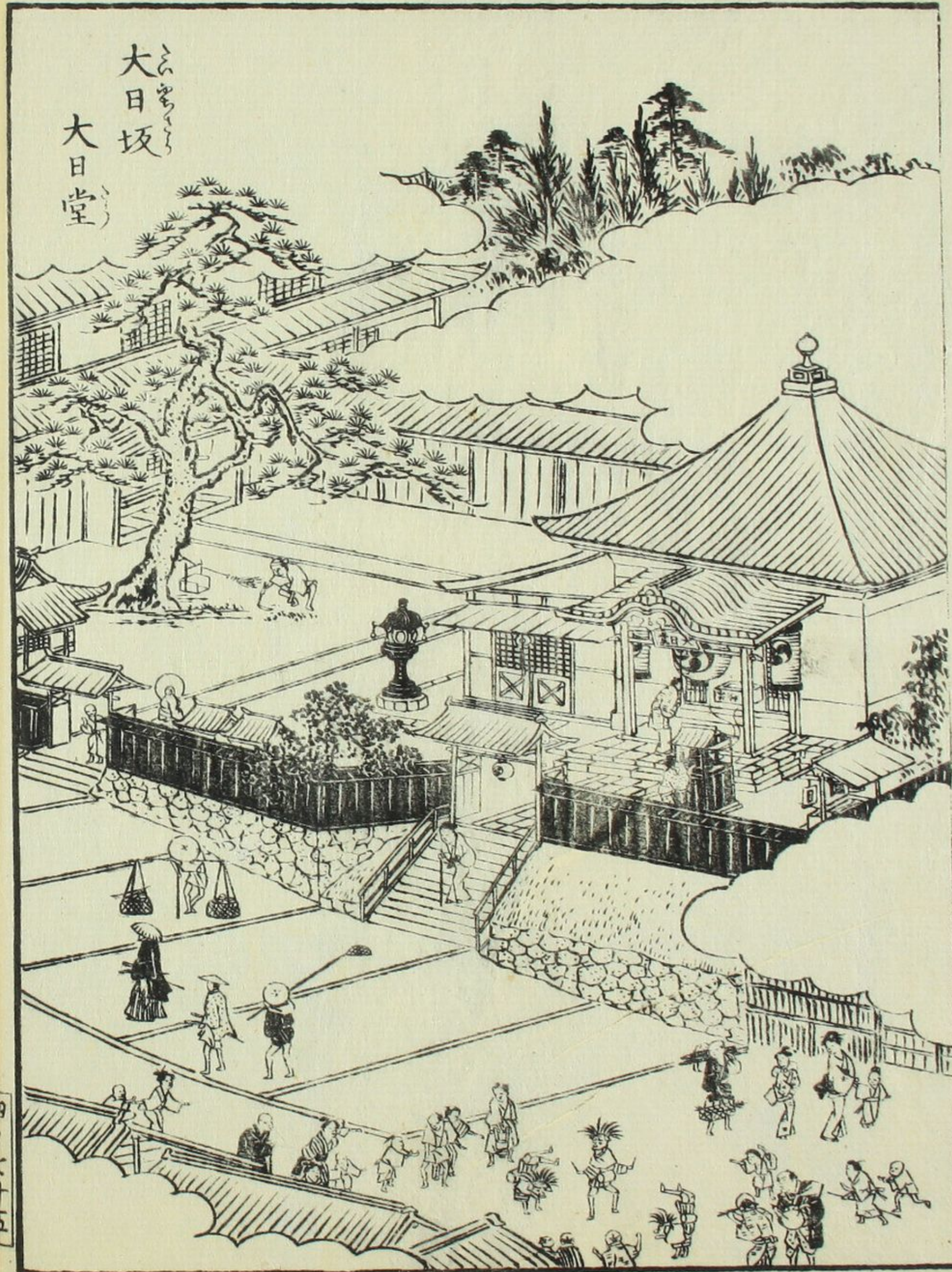
庚戌相州波多野莊田原邑に造立せし所の精舎わく後江戸

下野入道心佛今の地は遷せし又文明年間太田道灌當

寺を重修し叔悦禪師を住持しむ梅花無尺藏傳長
老の注し叔悦禪師

八道灌の伯父故不實朝公及び道灌の靈牌ありし肖像等を置

徳門の額よ慧日山と書せしハ黄檗即非の筆あり白石先生云く
梅花無尺藏



大日坂
大日堂

文明十七年己巳東遊の詩の注は芳林院は其の李太白の墨蹟と看る同く
 其下は芳林院今金剛寺と号しあり

概は北条家の院限帳小島津孫四郎北品川小石川及び金曾木内法林院
 金剛寺の地と領せしと記し又小田原実記に
 大永四年正月十三日北条氏綱上杉修理大夫朝興とたりひ勝江の城に
 うる茶下は其項當所芳林院の孤舟和尚來りて萬里居士の江亭記を
 捧るとまゝ孤舟和尚後ハ金剛院に住せしと記せりこゝ不因る考ふれば
 金剛寺と法林院ハ別なるべし

當寺往古ハ境内廣く寺院巍々として首座主閣侍者沙弥喝
 食維那約所行者火番ありて祈禱上堂參禪の式勤め怠
 らせし堂塔も壯麗なりとあり

道祖神祠 同上水堀の端金剛寺より二町を西にあり 明德
 年間の勸請ありて別當竜門寺に當社勸請の碑と称
 せしものあり

氷川明神祠 同西の方二丁餘を隔て是も上水堀の端慈照山
 日輪寺といふ禪林もあり祭神ハ當國一宮も同一勸請の始久
 しくとありて中古太田道灌の再興ゆゑ小日向の鎮守

なり祭礼ハ五九九月の十七日あり

當社元龜の年号あり
庚申侍供養の古碑あり

大日堂

同西の方大日坂あり天台宗なり覺王山妙足院と

号に相傳ふ本寺大日如来ハ慈覺大師唐より携來す亦の靈像

なり往古ハ叡山の中安置あり一と元龜年間織田信長念門

を襲つて頃堂宇悉く兵火罹りて灰燼とあるとこれと此本

尊ハ火焰を道れ出近江國兵主明神の社頭深林の中に

移すもハ平後夜々瑞光を放ちあふ月々藤原氏某感

得し其家移しあのせ且暮供養せしめり怠りなり

然し此人嗣子あらずと憂へし此寺小祈求し竟一女子を

假く長きふ及んで紀伊亞相賴宣卿仕へたり後落飾して

法善尼と号に此尼靈夢を感するの後當寺を翻きあつに

安置しきりしとあり

大洗堰

目白の涯下あり兼應年間

嚴命より當國

多磨郡牟禮邑井頭の池水を江戸大城の下に通せし

む其頃此地小堰を築せしれ上水の餘水を分らし天明

六年丙午の洪水ニ堰崩れしり小於く再ハ堅固ニ築せ

られ古より壹尺たり其高さを減せ故小水嵩時其上を

越え流れ落しあ損も患なりとあり

龍隱庵

同所上水堀の端あり昔ハ真言宗なり安樂寺と

号く故あり元祿十年丁丑黃檗宗ニ改め洞雲寺の持と

なり洞雲寺ハ音羽町ハ平石和尚住持を有しハ正觀世音慈覺

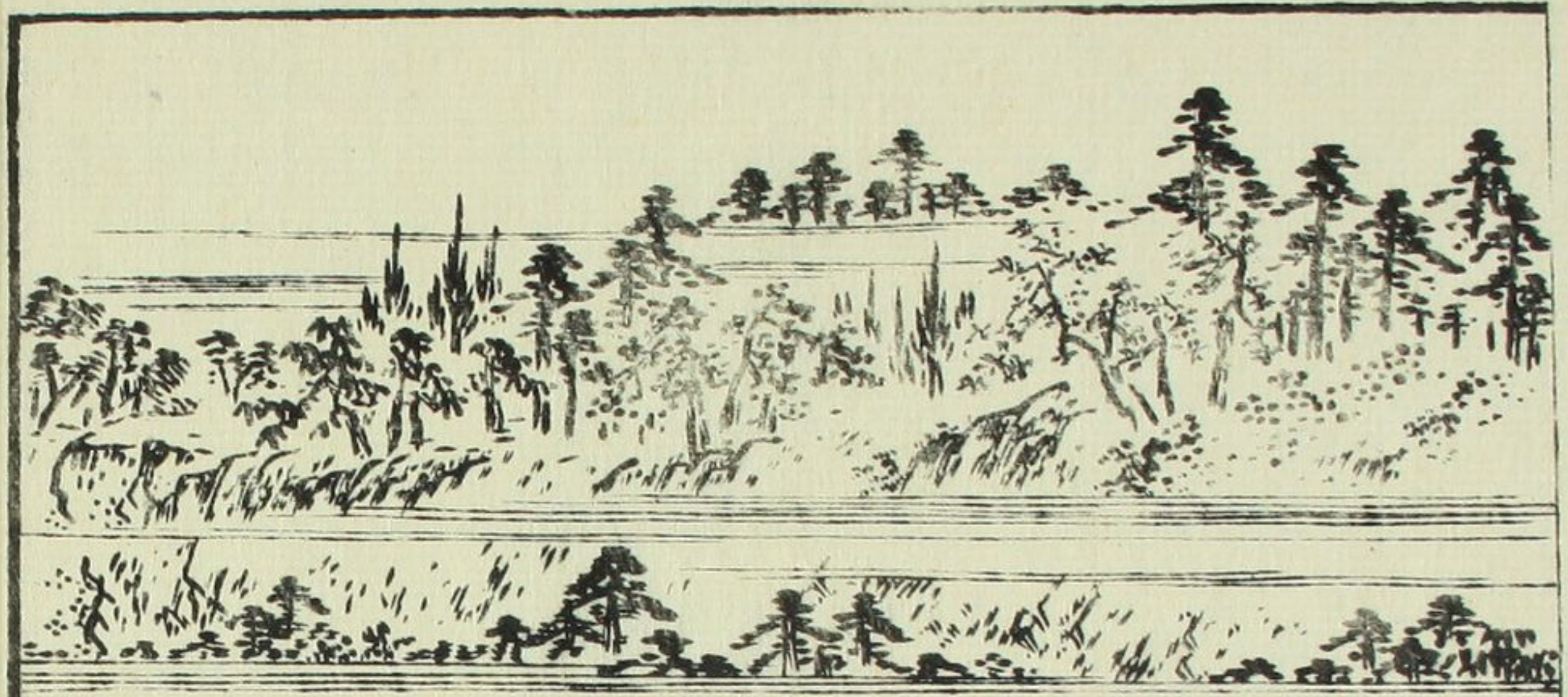
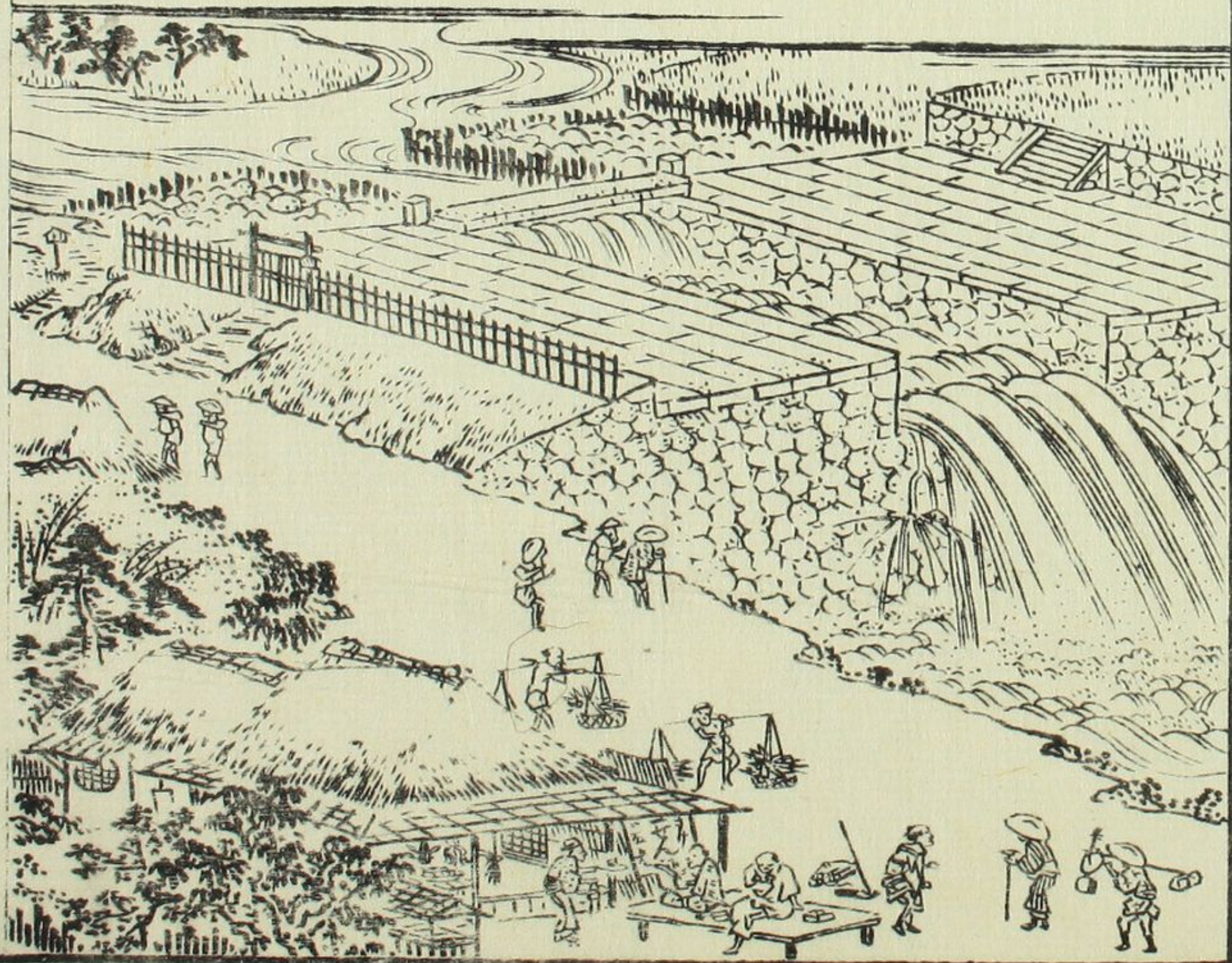
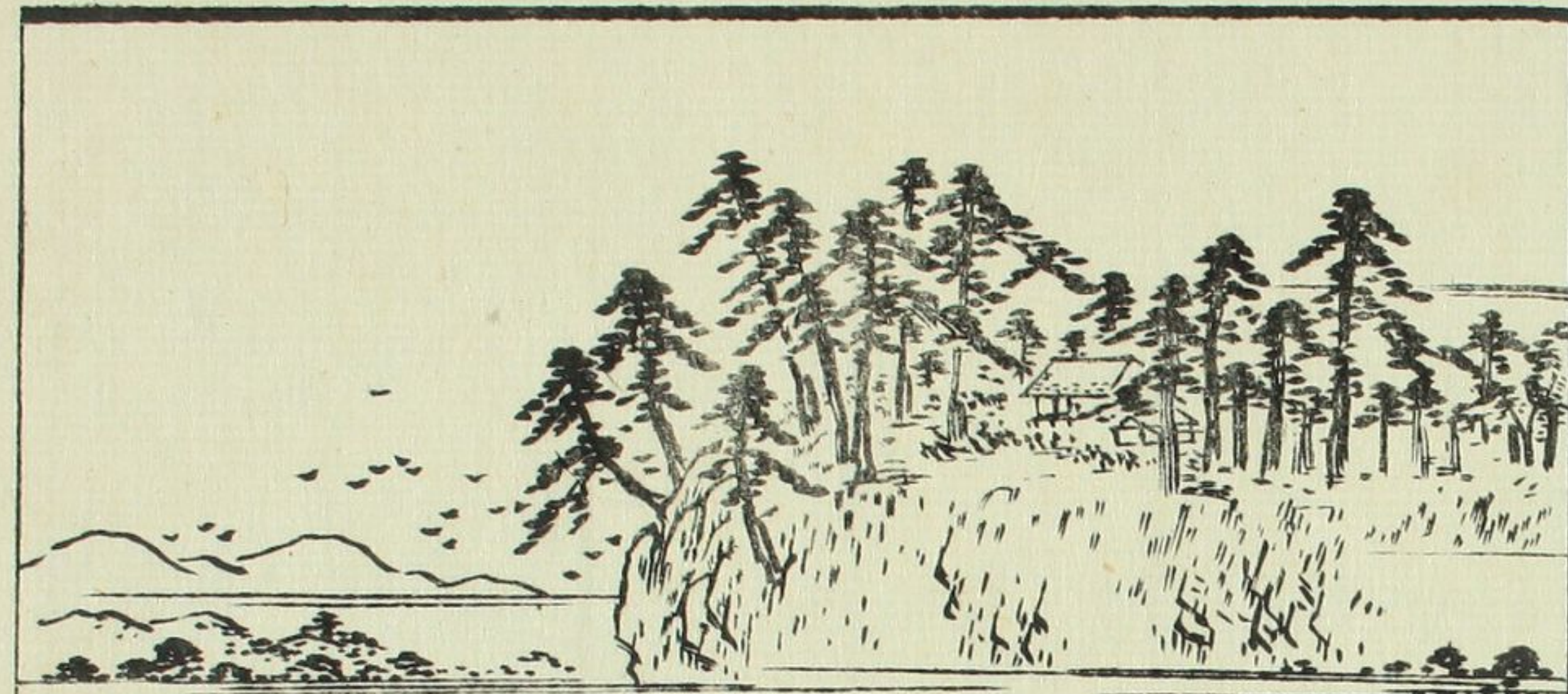
大師の彫造との庵の前ハ上水の流れ横たり南ハ早稲田の

耕田を望み西ハ芙蓉の白峯を顧る東ハ堰口中水音

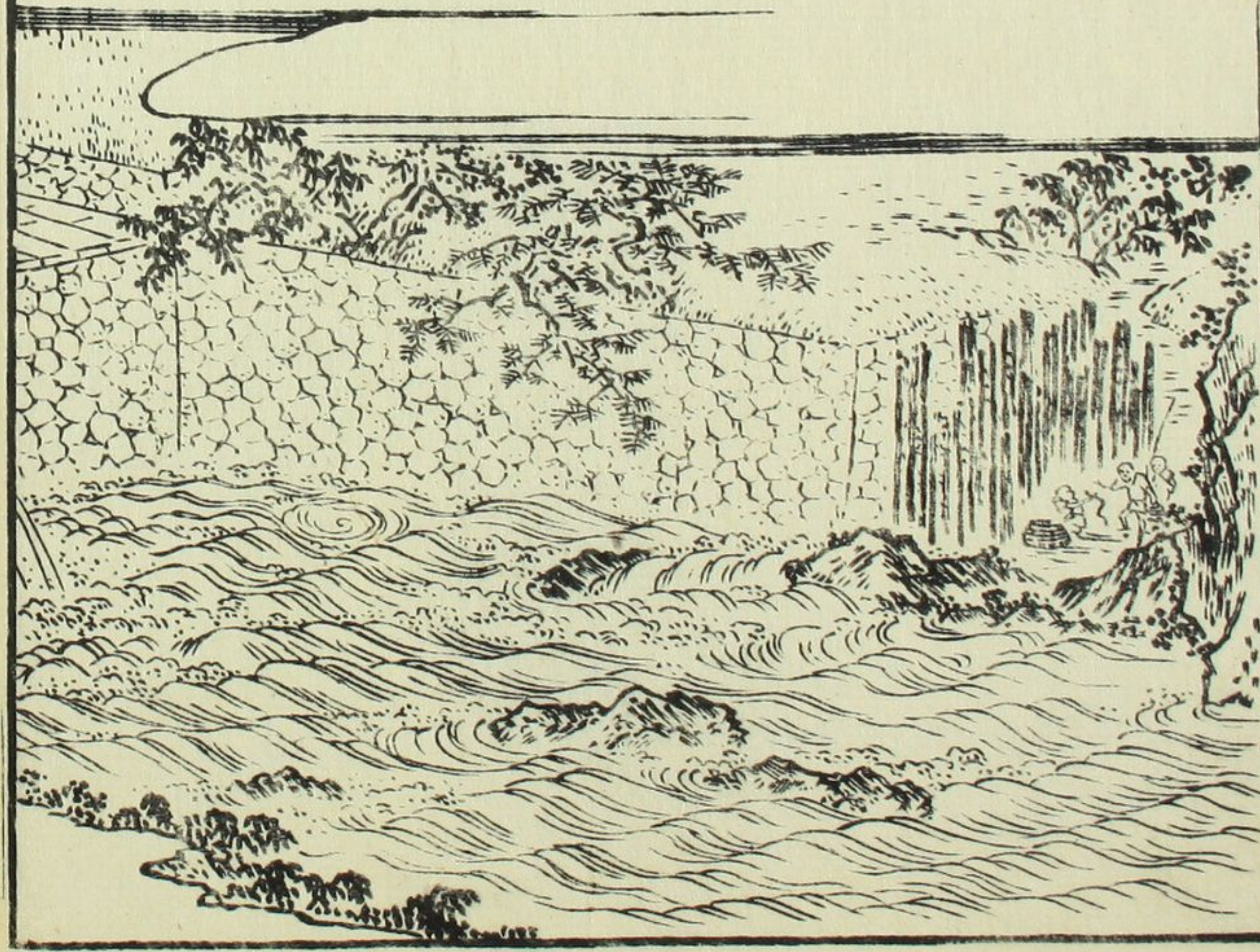
冷々として禪心を澄しめ後ハ目白の臺聳へり月の夕雪は

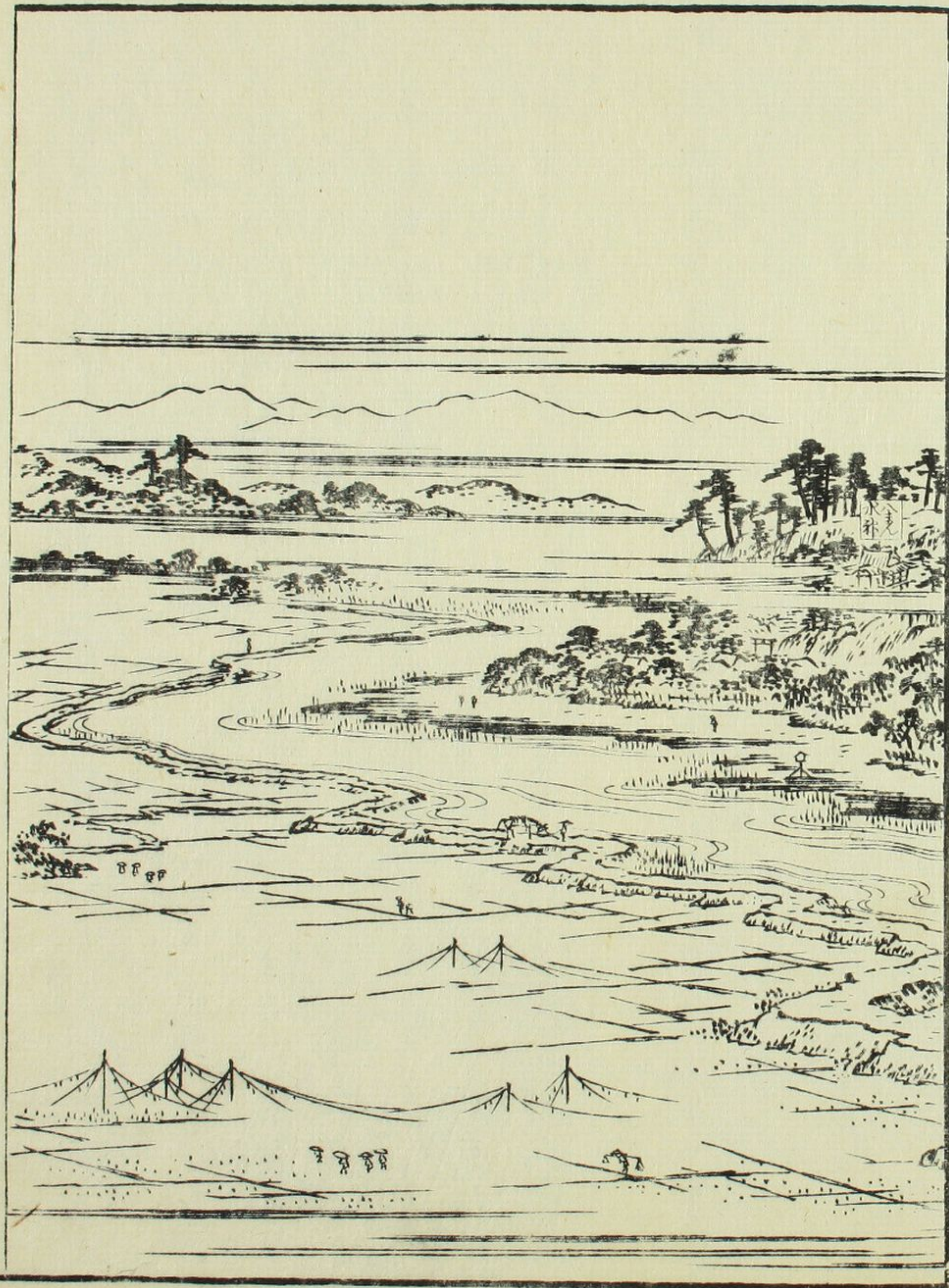
朝の風光も又佳なり昔上水開発の頃芭蕉翁芭蕉翁通称
松尾甚七郎と

甚七郎此寺を司し此上水堀割の時藤堂家へ普請の命を命せられし



堰洗大下白目





芭蕉庵
 五月雨塚
 駒留橋
 八幡宮
 水神宮



此地小遊つて後世其旧跡を失ひんを歎き白兔
園宗瑞及び馬光なりとて俳師此地の光景江州瀬田此
義仲寺の髣髴を記し五月雨塚と号し
の傍とて翁の短冊を塚に築き五月雨塚と号し
水神社 同所並み龍隱庵別當より上水の守護神を祀え
る北辰妙見大菩薩を安置を祭神の罔象女あり祭礼を

五月十五日あり

八幡宮 同社地あり往古ありの鎮座とて下の宮と称し椿山

八幡とも称せり 昔ハ椿多り八月十五上の宮と隔年ハ修繕を同雲寺奉祀を

駒留橋 竜隱庵の前上水の流ハ架を此水流ハ神田此上水

なれと玉川の分水の落合中々山吹の里ハ傍り流る故ハ
駒留橋の意を号けり又里諺ハ右大将頼朝卿此地ハ陣せ

られ頃雪の朝此川傍に駒留打乗りて眺望ありとて奥
尽く此橋の辺より帰るあり駒留橋と号くとも詳

なぐら 同所幸神の社記ハ駒留橋のあり

拾穂軒北村季吟翁別荘旧地 同所目白の臺松平大炊侯の庭中

ありとて山の井と称するもの今ハ埋むる名を存せり
俳書ハ増山の井とあり此翁此地ハ閑居ありて著述

あり故ハ此名ありとて此辺時鳥の名ありとて外よりと

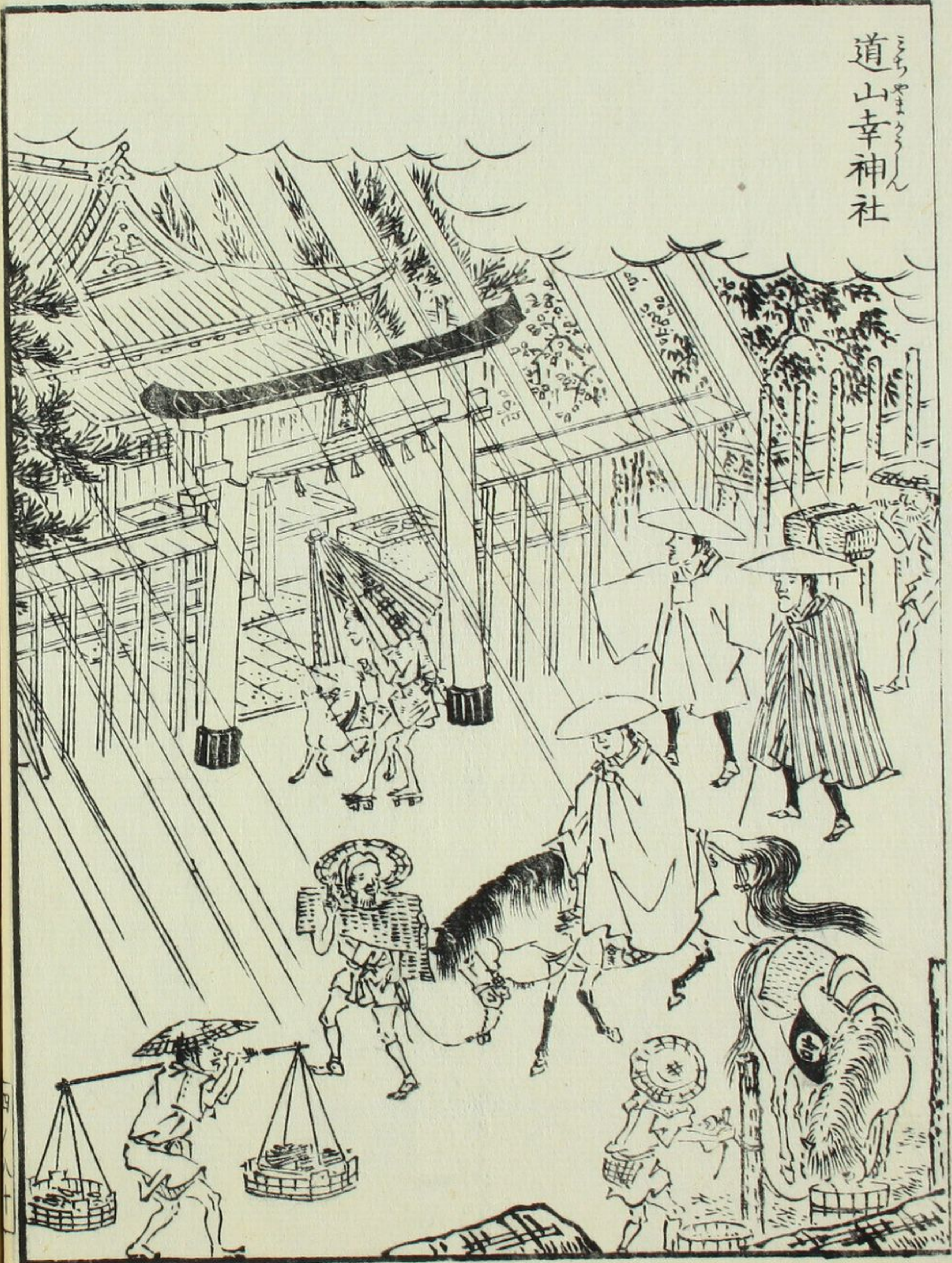
早くとあり 按ハ別荘のきを 季吟

幸神祠 同所東の方道を隔て右側ハあり一小道山の幸神

或ハ駒塚社とも号く祭神猿田彦大神なり庚申の日を以て

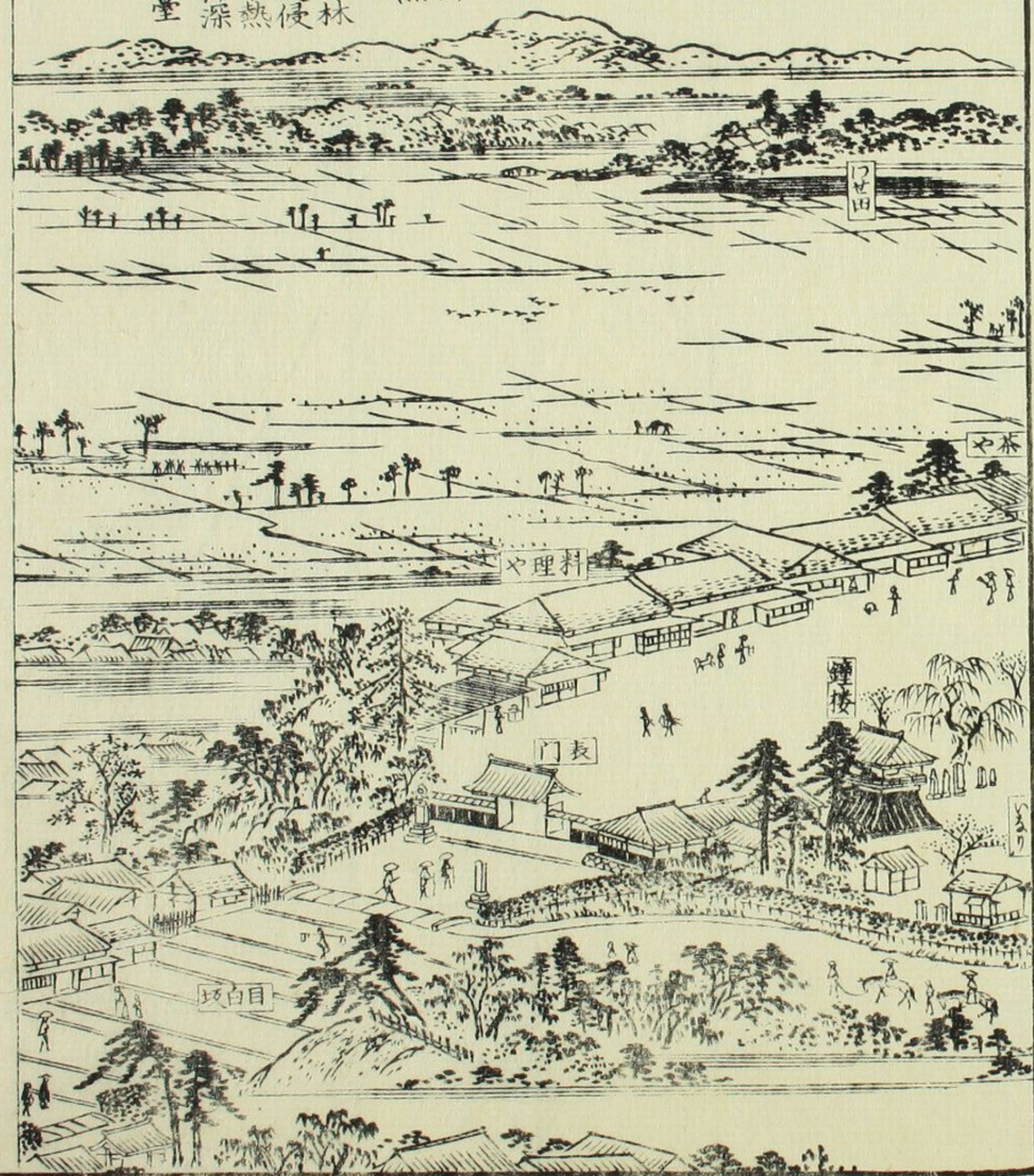
縁日とて社司ハ宮城島氏なり相傳ハ往昔此所ハ豪氏

道山幸神社



あり 今此辺を長金の駒と塚小築籠榎樹を裁くかといふ幸神を
 勸請す 當社の神体ハ昔此麓入江なり一頃其水中あり 古へ此辺鎌倉
 海道なり一故小道山の号ありとを中古大小荒廢一々神木の榎
 の下小徳の叢石の存せしを項の神主政泰なる者今のやく祠を
 宮と建るとの 里諺云延室の項金の駒の精ありと云く此辺の田畑を
 谷と唱ふ又橋の上ゆき其駒の移方をとく 数度なり進み時ハ山谷小隠る其谷を駒
 目白不動堂 同所東の方ありく堰口の涯小臨む真言宗中一々
 東豊山新長谷寺と号に 長谷小池坊の本多不動明王の靈像を
 長弘法大師の作徳門の額東豊山の三大字ハ南岳悦山の筆と
 縁起云弘法大師唐より帰朝の後羽州湯殿山に叢籠あり
 一時大日如来忽然と不動明王の姿に變現一滝の下に現れぬ
 大師小告て云く此地ハ諸佛内證秘密の浄土あるハ有為の穢火を
 故小凡夫登山せしりかき一今汝小無漏の上火をあき

早秋遊豐山
長谷寺偶然
成詠
偶乘秋景入山林
盡日曾無俗吏侵
巖下清流堪濯熱
况傾河朔酒杯深
春臺



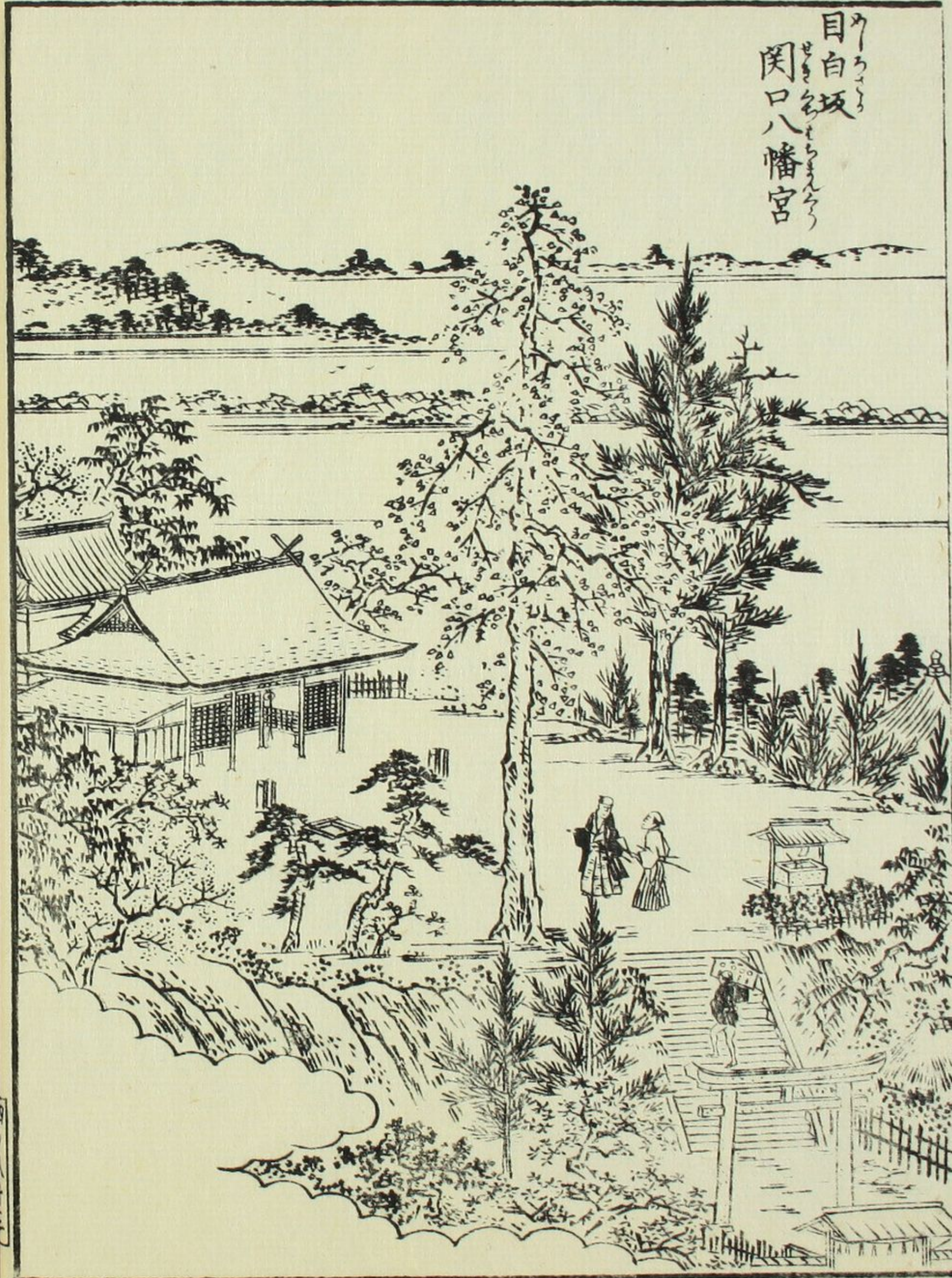
印白
不動堂
境內眺望
勝孔々々
雪景尤



乃と宣ひ持しあふ所の利剣をさし左の右臂を切りハ
靈火盛ふ燃ゆる佛身も充てり依る大師面前も出現の像二
軀を摸刻し一躰ハ同國荒澤に安置し一躰ハ大師自ら獲
持なりあふ後野州足利に住せし沙門某是を感得し
奉持せし一年靈感あるを以て此地の住人松村氏某もそ
かり竟し一字を闢る此本を移し安置なり
某古松村氏天夢を感じて不動明王を野州より此地にうつし
某途中中嵐のなかりあつたの袈裟當山の榎の枝にかりありし
縁の地を推知し地主渡辺石見守某へ此地を乞ふ石見守某は
藩邸の地を寄附ありしなり今の境内是なり袈裟掛榎と稱す
則此
當寺ハ元和四年和州長谷小池坊秀筆僧正中興ありし頃
大將軍 台徳公の嚴命あり堂塔坊舎皆建立ありし和州
長谷寺のなりしと同一木同作の十一面觀世音の像をうつし新
長谷寺と改む 大將軍 大猷公 目白の号を賜ひ元禄の始ハ

桂昌一位尼公御帰依淺く諸堂修理を加へし丈余此
地藏尊等を安置なすしめられし此地麓中を堰口の流を帯ひ
水流深くと日夜絶も早稲田の村落高田の森林を望み
風光の地なり境内賃食亭多く何れも涯に臨り
関口八幡宮 堰口目白坂の半服左側あり神躰ハ佛工春日の作
なりしこの當社を上宮と稱し下の宮ハ兼下 関口水道町鎮守ハ
祭礼ハ隔年八月十五日に修飾を當社も下の宮も同一く
洞雲寺奉祀し
大塚 小石川原町の辺より護國寺の辺迄の惣名なり 或人云古ハ
西小分つ 甚廣莫の地なりしとあり 難声 或人云今の水戸大塚の
窟の辺も東大塚あり此辺西大塚と稱せしと云 又南向亭云
藩邸古の奥州街道あり榎木の大樹ありハ平頂の一里塚あり
則大塚と云ハ是なりと 本傳寺田蓮大士像起し云く又南向亭云
安藤對馬侯の東の方森川氏の構の中ハ一堆の塚ありしと云

目白坂
関口八幡宮



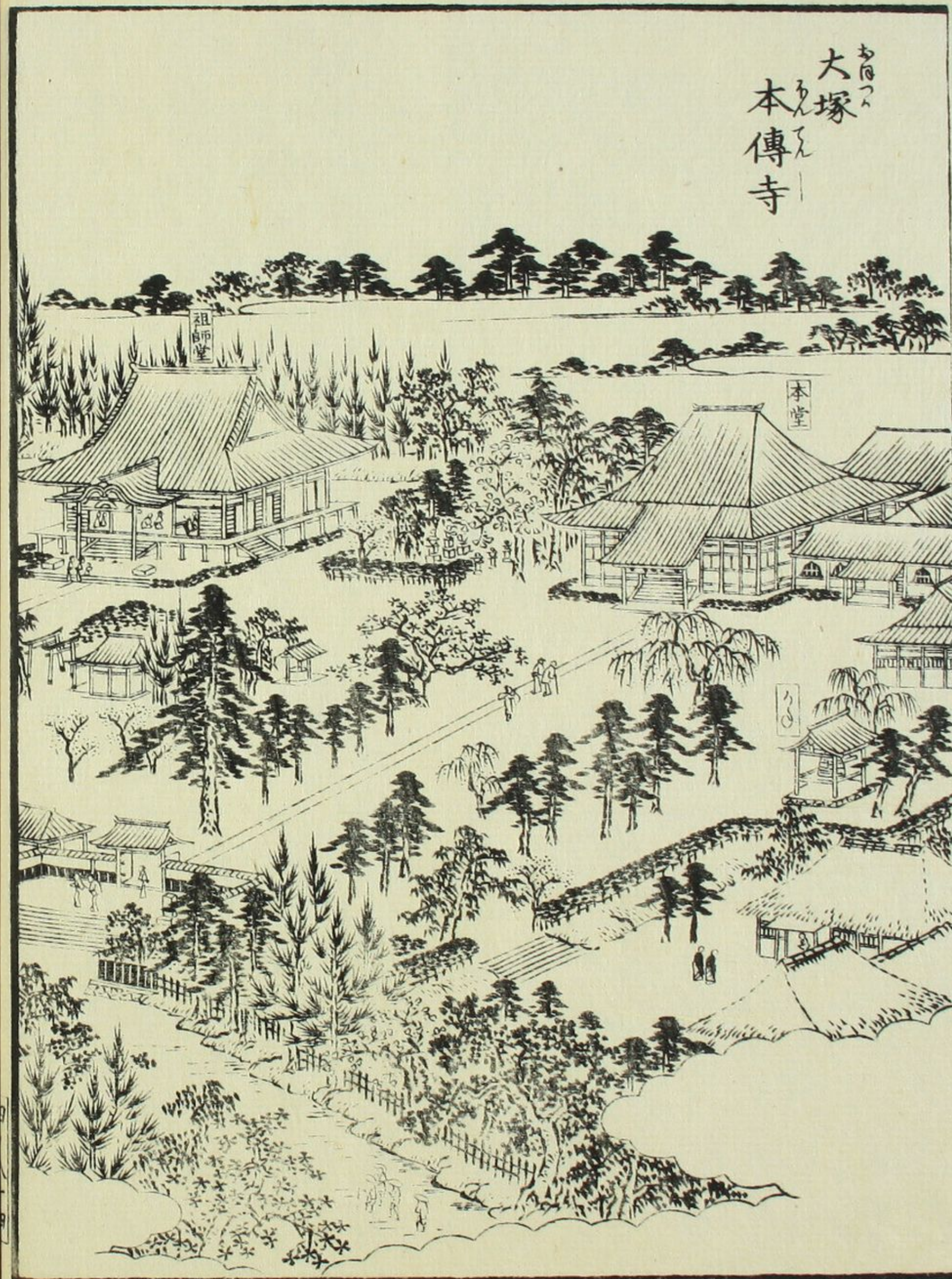
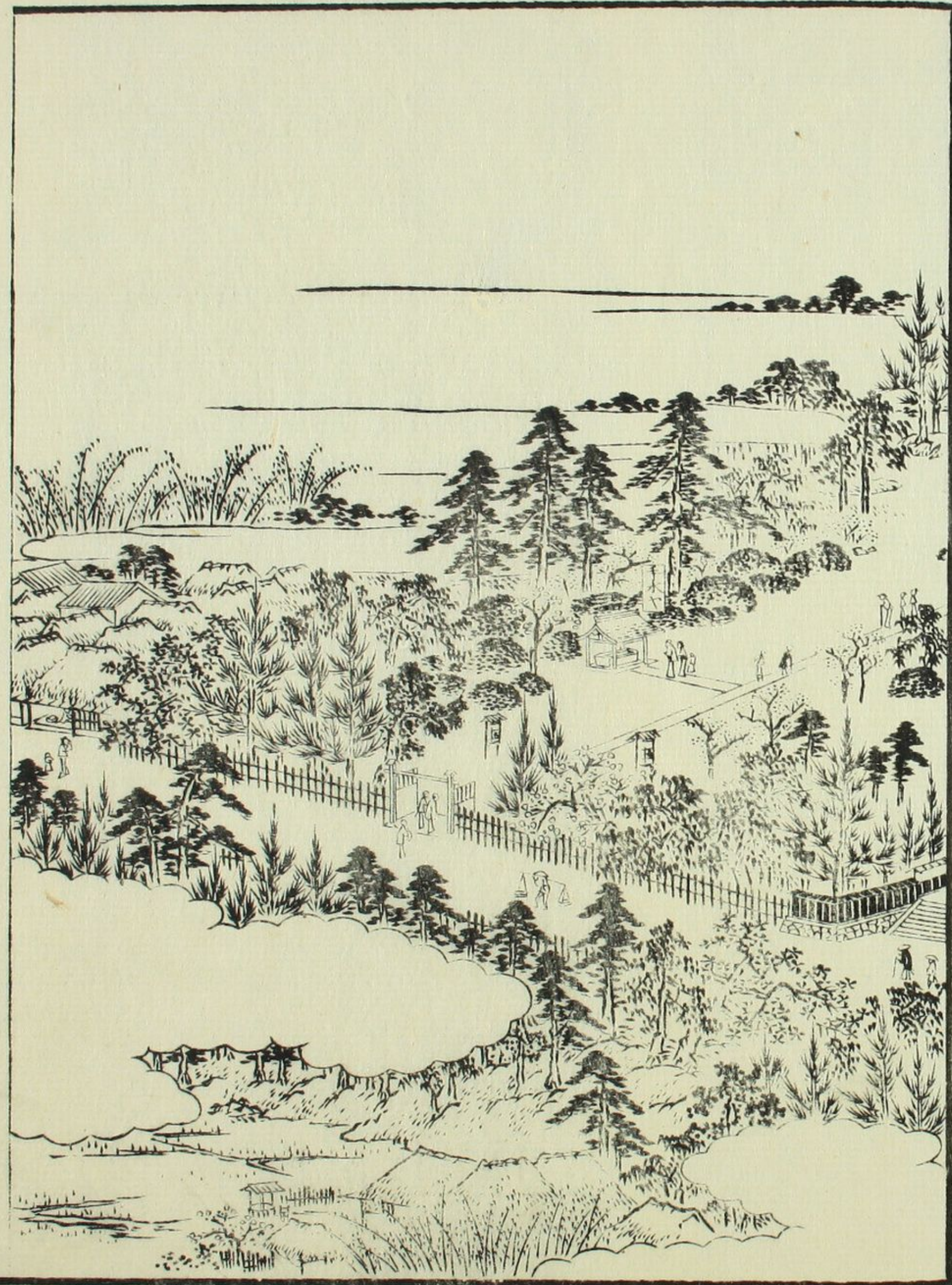
とも此紫の一本は塚の上より不動堂ありと河にハ今の波切不動寺此
地大塚と称せり旧跡あり相傳ふ太田道灌相國の狼煙を揚る
料小築く塚なり故小昔ハ太田塚と唱へると或ハ又鎌倉將軍
守邦親王乱とせし武州比企郡大塚村に逝去を其廟を王
塚と稱せり小大塚と号す此類なるんとし詳あり

大法山本傳寺

大塚町横小路あり日蓮宗中々駿州蓮

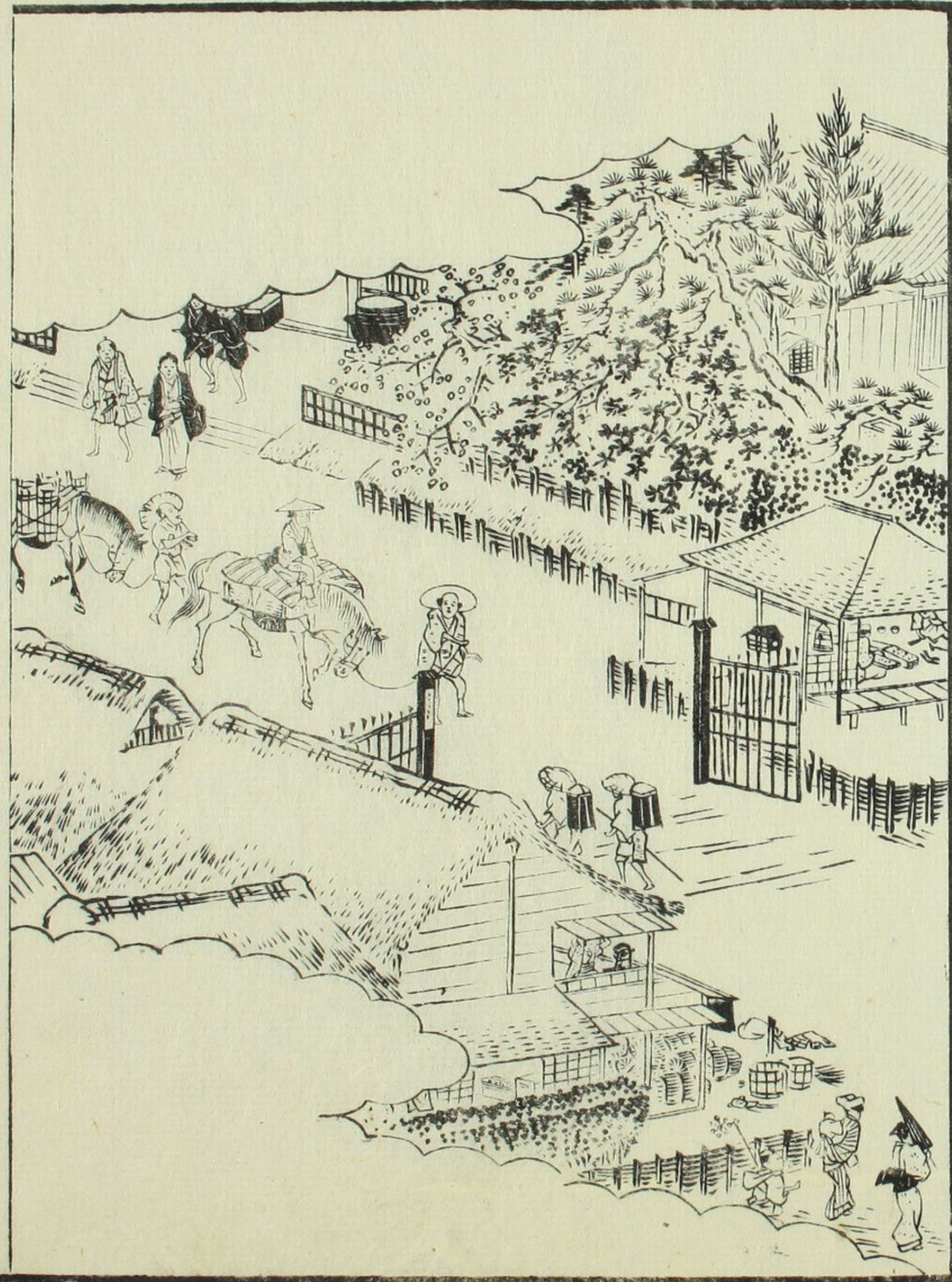
永寺に屬し昔ハ禪宗中々重光山善性寺と号し元和年
間瑞應禪師今の宗風を授け自の名を法仙院日行と改め
寺号をも本傳寺とす

經讀日蓮大士 縁起云く往古當寺中興開山日行上人始
瑞應禪師と稱せし頃蓮師の宗義を鑑み覺悟の要路ハ法
花小限を發明し宗風を授せんとせりもと心決し



かゝり依元和三年丁巳四月三七日の間不動明王の宝前ふ
おのゝ法花三昧の行を修へたるも同廿五日結願の夜の夢よ
明王姿を現し師告く云く汝前生ハ法花の行者たりし
臨終の期に至り唯空永滅の念を起ししを諍執ふ
因る空無の見ふ墮とすも今宿世の妙種あつては本
心は歸り速に権宗を捨てて実教に入らば我も久しく
妙法の醍醐味をあまんとせん事を教へし正ふ今一乗の法
蓮を開くとするの時至り社壇の良ふ當る基を開く
るに地必妙経讀誦の靈音ありて不測の像を感得す
へしと云く師終ふ此靈夢は依る心を決し同廿八日日遠上人は
謁し受戒し号を日行と改む日遠上人ハ駿州貞松山又靈心ハ
心性院の寺主なり
任せ同年六月一字を開くとす其地をトせし同十三日の
夜土中忽然とす妙経讀誦の靈音あり翌を待て地を

穿つる数尺果し此靈像を得りしと云く
此不動を世に波切
不動と稱せり此の
條下より一字の香堂を營はる是を安置せしと云く
此靈像何人ハ作
りしや
項日行上人一百日の間法花懺法を修へし靈像師の夢に告て曰く汝宿
縁むれし一人の信士あり明王の告ありて我を奉養し精進し教化を受て師檀の
約をなせり別は臨むの時堂前の松樹を以て我像と彫造して彼信士は
搥とせり汝が感得するの像と則これありと示ししを以て竟ハ大士の手刻
波切不動尊 同所大塚町の通王道より右より別當ハ日蓮宗通
玄院と号す
縁起云此本宮ハ始勢州一志郡小幡村大乘寺に安置あり然も
建長五年の春日蓮上人伊勢路を過るる霖雨あつて宮川の
水を渡らんとす渡るる時一老翁來りて云く
師川を渡らんとす我れ水を切の術ありとて則師を誘
引しきたりて水上を渡りしを以て大士是を奇
と翁の住所を尋るる小幡の山寺に住まるとの事



へく失去より大士夫より彼寺より翁を尋ねしに知人
〜〜依り寺僧より其故を告ぐ彼西を立出りし後寺
僧此寺を不審に及びし其寺より安置の不動尊を拜する
佛躰水に濡れし依大に驚き直小明王を負ひたり宗祖の
跡をあらひしをせられし其方とありし其後於東國に
〜〜本寺の靈示ありしを以て此大塚の辺に移し多し農
民其塚上松樹の下に一字の草堂を營建し是を安置し

普門山大慈寺 同所工西あり京師五山派の禪刹なり花洛

東福寺は屬を洞山ハ勅謚佛知大通國師 觀應二年辛卯中興ハ

萬古昔大禪師と号す 兼應二年癸巳 洞基ハ刑部卿の局あり

天壽院殿の侍女中法号を大慈寺殿仙林榮壽禪尼といひ慶長四年八十

餘歳に於て逝す則當寺に墓碑あり碑銘ハ 嚴命より品川東海寺

本尊葵正觀世音菩薩 座像中々長 南天竺毘首竭磨又ハ唐の

替文會替首勲の作なりとの

鎮守日吉豊國両社 社人内友氏奉祀す

造酒地藏寺 寺境見耕庵の本ま中々天竺佛より 寺記云此靈

原北条家の項品川の海底より出現あり 御當家より信教厚く當寺

大藏部禪師住持寺の項葵正觀世音大藏部護の爲見耕庵を造建ありてこふ

授けしより其頃或夜佛告曰く ありしを賜せられし種々威靈のあり

正法十歳在佛在世像法十歳遊龍宮海 嚴命はより稱せし

未法中救世衆生今世後世令離苦惱 祈願ありしを必酒を捧げし

縁起云葵正觀世音菩薩ハ昔時行教律師天竺より携来し

靈像なり 欽明天皇己未移し右大將賴朝卿及び足利

家より傳り夫より後代々の 將軍家崇信厚くあり中古

日向國志布施の龍興山大慈寺あり其後又花洛東福寺の

支院三好山長慶寺の本をりて
東照大神君沙崇敬まじりて
毎月十八日天下泰平比沙祈禱とて
らと殊更葵の一字をも附し多ひ天壽院殿も沙信心浅く
りりありり慶安二年當寺を創り多ひ刑部卿の局を開
基とあらされ此本を當寺に移り多めりり
と引く創基なりありり山号と下され又天壽院殿沙菩提のなる沙祠堂料を
附せられとなり

鳩巢室先生之墓 同所坂下町の北の裏少くは此山の上より傍ふ
息男忠三郎洪謨の墓もあり
先生姓室氏諱直清字ハ師禮鳩巢と号し通稱ハ新助翁と命じり
其先熊谷直実の裔なり備中國英賀郡小出つ考諱ハ玄撰草庵と号し
此ハ平野氏萬治元年戊戌江戸谷中邑小産す異質あり睿敏人小絶そか藩小倉
宮ノ業を木下野庵先生の門小受け京師小客たり討論の暇大學新疏を著り以て
章句の蘊を登心徳元年東臺の徴小應來つて江府小就く往復贈答の什積て
恭裝を成を應對流々々大東振古の多あり不て大東文明の美と耀り
邦國治平の盛を聲し其風海表小播り是と每窮小宣ふ不足り
有徳公允と傳く凌特小先生を撰り營中侍講を授く此職の設蓋此先生小

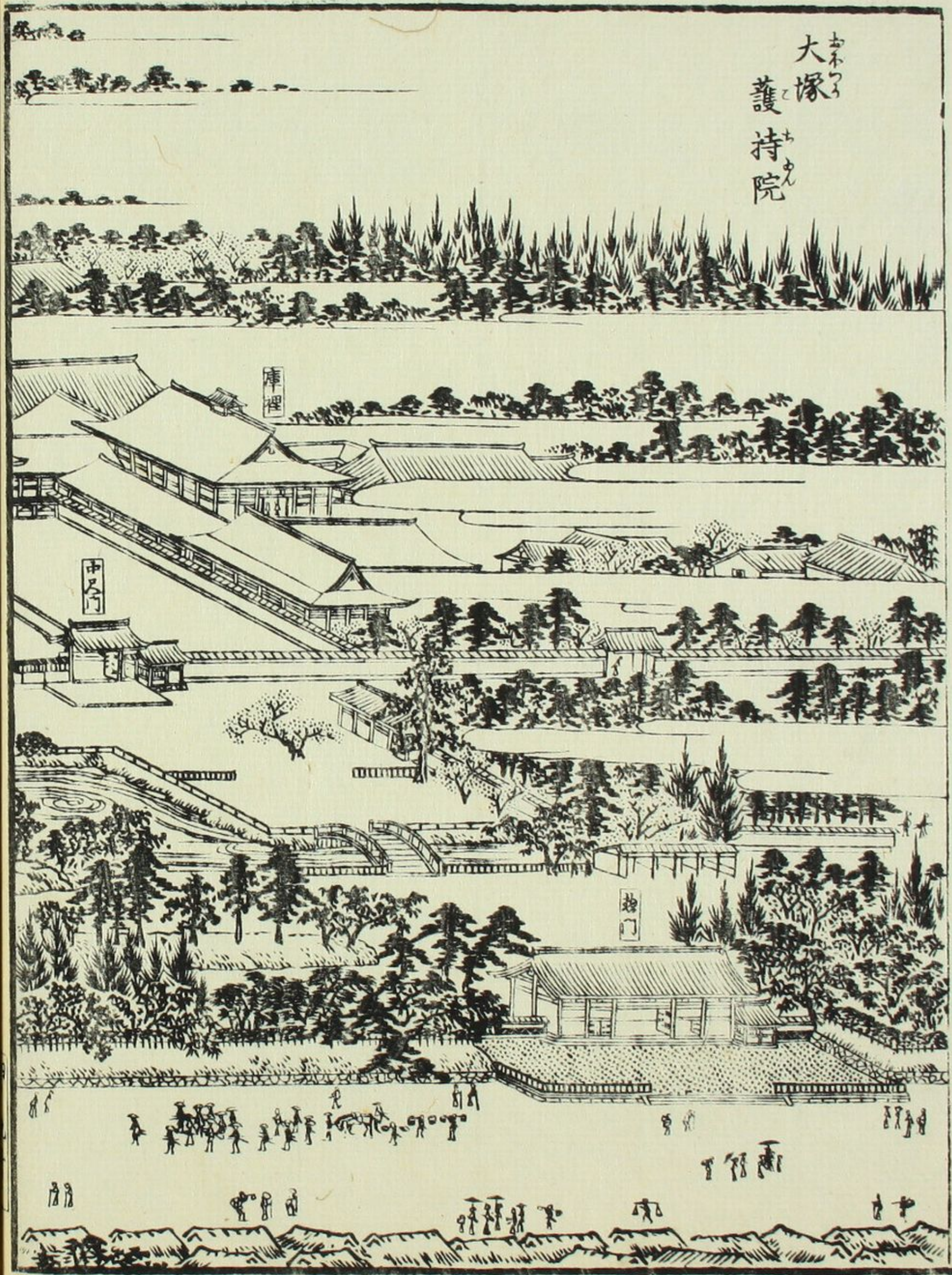
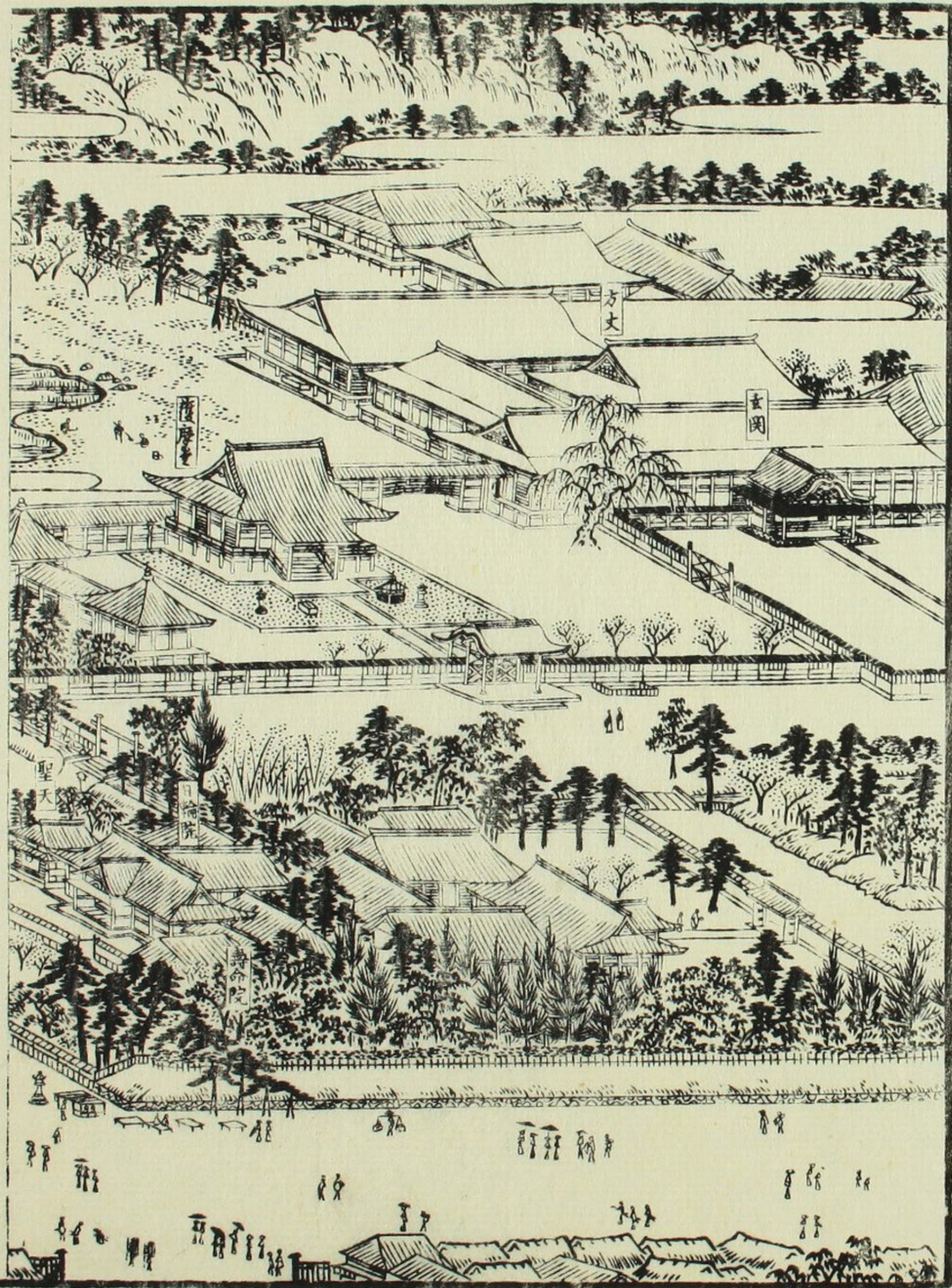
始る嘗て 鈞旨を奉り五倫五常の各義と疏記し小國字を以て書成りて
是と歳を又六論行義大意と述官命り 是と鏤め天下に布す是より先論孟
中庸及び易経廣義と著る考訂も及ぶ先災小罹りて終小以て愈も疾を陳
感し重ぬ稿と屬せりあつて侵淫日甚しく終小以て愈も疾を陳
病間駿基雜話と著す旨あり是を徵せ因りて泰と又大極圖述と著り
倫と成濂圃軒載の秘と必闡し後学を來せ小俟此乃先生の絶なり享保
十九年甲寅八月十二日駿基の賜弟小卒す年七十八州の豊島郡大塚里に葬り
以上鳩巢文集前編伊東貞薫林の
叙り其要を摘り記す

筑波山護持院 音羽町の北あり 眞言宗より和州長谷の

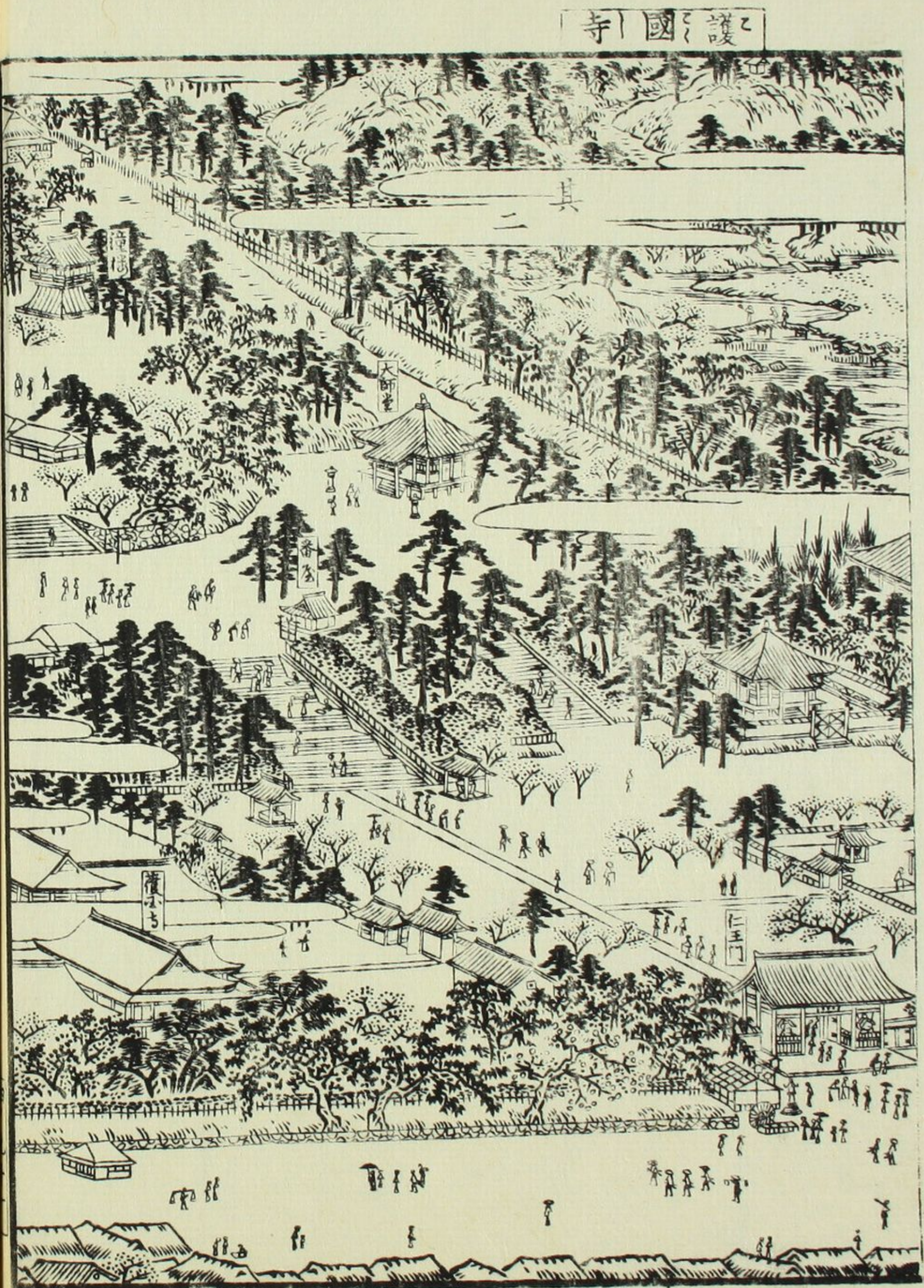
一派なり寺領千有五百石を附せり
本堂本尊不動明王 作不詳往古ハ本尊小
秋迦佛と安せりと云
歡喜天 庭前の池とて當寺建立あり此地の名とせり
推現山 又せりと云 昔此あり茶師の像あり
當寺祖權僧正光譽ハ和州初瀬寺の西藏院に住職あり
に沙帰依浅く江府小召れ常州筑波山の宿寺を下り
其始知足院省俊ハ下野國筑波山中善寺を兼

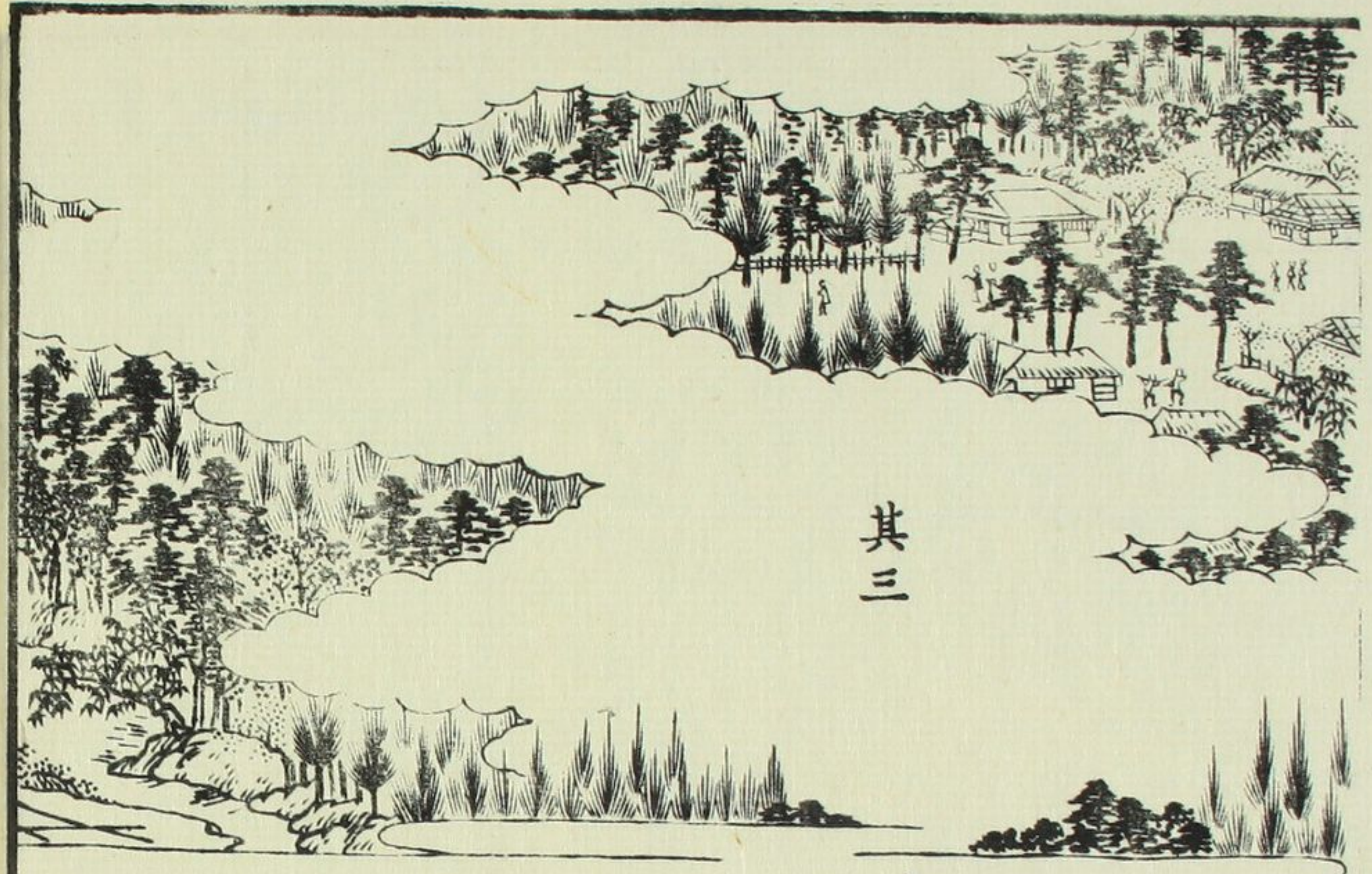
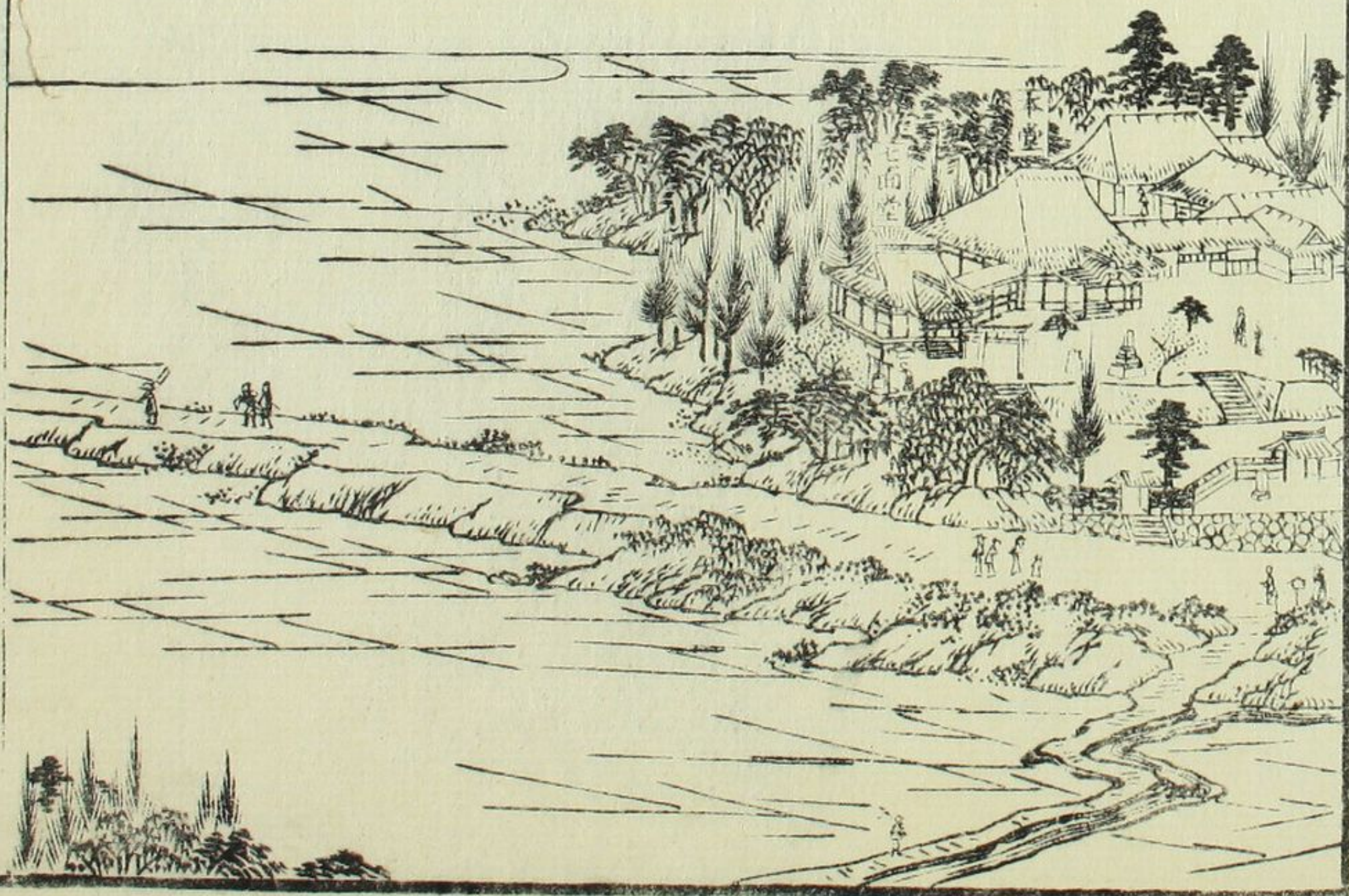
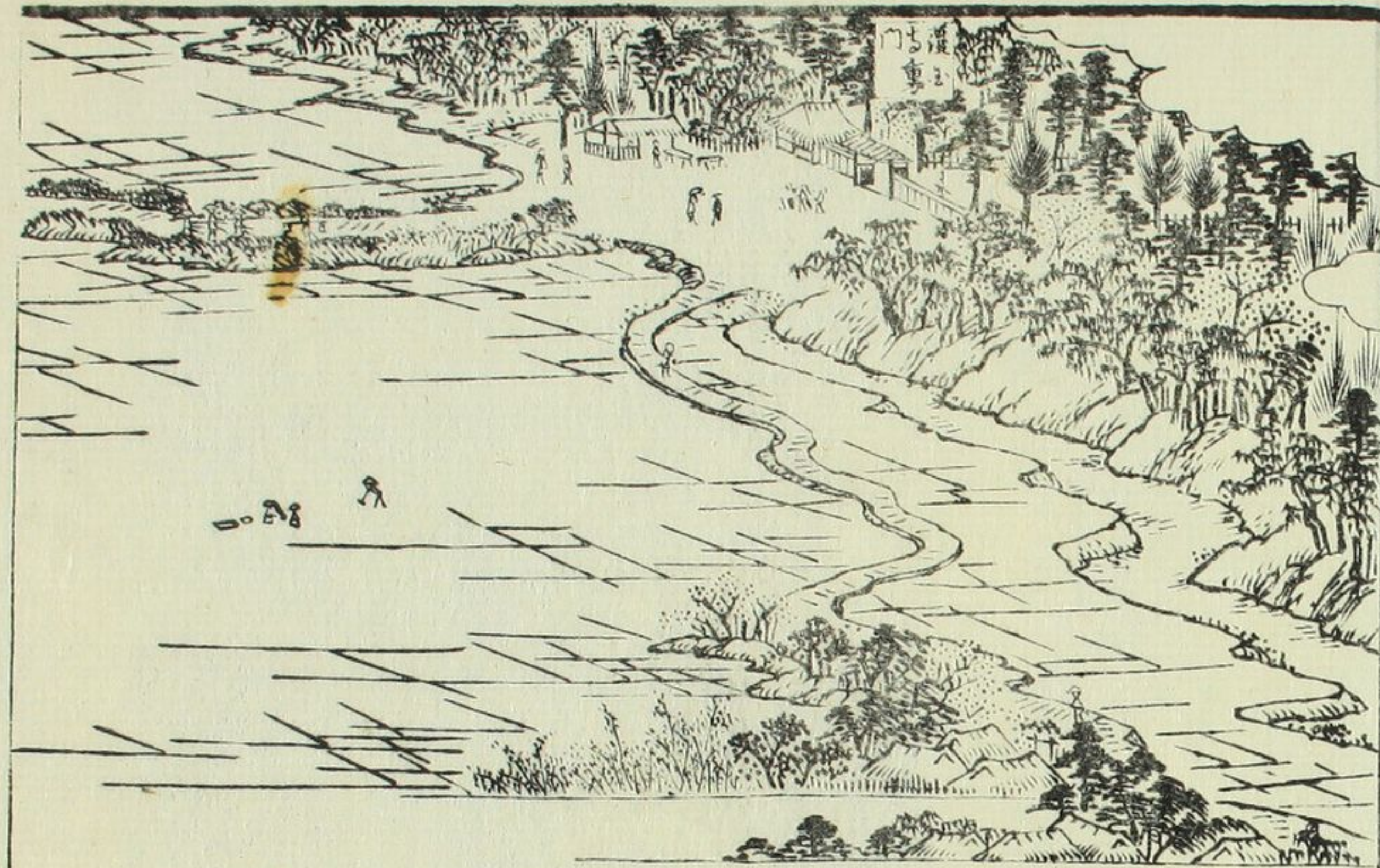
帯し真言新義四箇寺の支配り慶長の始 大神君の
嚴命を蒙り江城の護持所と定まされ同庚戌の年江戸
銀町小寺院を移し其地未考依光譽知足院を遷し宮建を同
癸亥年大坂御陣の項も光譽命を受く御陣中於て祈
禱を其後寛永三年丙寅 大猷公諸伽藍御建立あり
延宝二甲寅年 有廟御再修あり天和五年壬戌十二月
火災罹るより貞享元年甲子湯島切通へ移し今根生院の地なり
憲廟御御依浅く元禄任元の年神田橋外
武士屋敷の地へ移され松平若狭守仙石越前守命せられ
護摩堂祖師堂觀音堂徑堂灌頂堂鐘樓堂二天門坊舎小
至迄金銀をとりもめあり隆光を閑山と推僧正に任せし又
護持堂御建立あり釋迦佛を安せし同四年八月寺領千五
百石を附し御院家御列し關東新義惣録とせし色衣

免許のより當院より沙汰まると命し同五年壬申十二月十二日
寛綬上人贈官の時及び隆光改任し大僧正に昇進を同九年
元禄山護持院の号を賜り護摩堂の額護持院の三大字を
大樹自灑筆なり弘法大師自作の真像ハ濃州大野郡實
相院と云真言寺ありしと取寄り祖師堂小安置せしむ
觀音堂のなきハ 有廟御信敬の由守護佛なり大僧正隆光
の願より宝永四年丁亥二月廿五日退隱し駿河臺に
遷り成滿院と号を依護國寺住持快意僧正を後住とし
御成ありし繁昌先のめし宝永六年己丑八月六日隆光願に
あり大和國へ移る故小成滿院の跡快意ありし仍て爰に隱
居し後住ハ知積院小池房住職たりし命ありし入院す
然し享保二年丁酉正月廿二日火災ありし堂塔一字も不残焼
失しこれハ重項住持退隱の願より夫より後寺号及び食禄



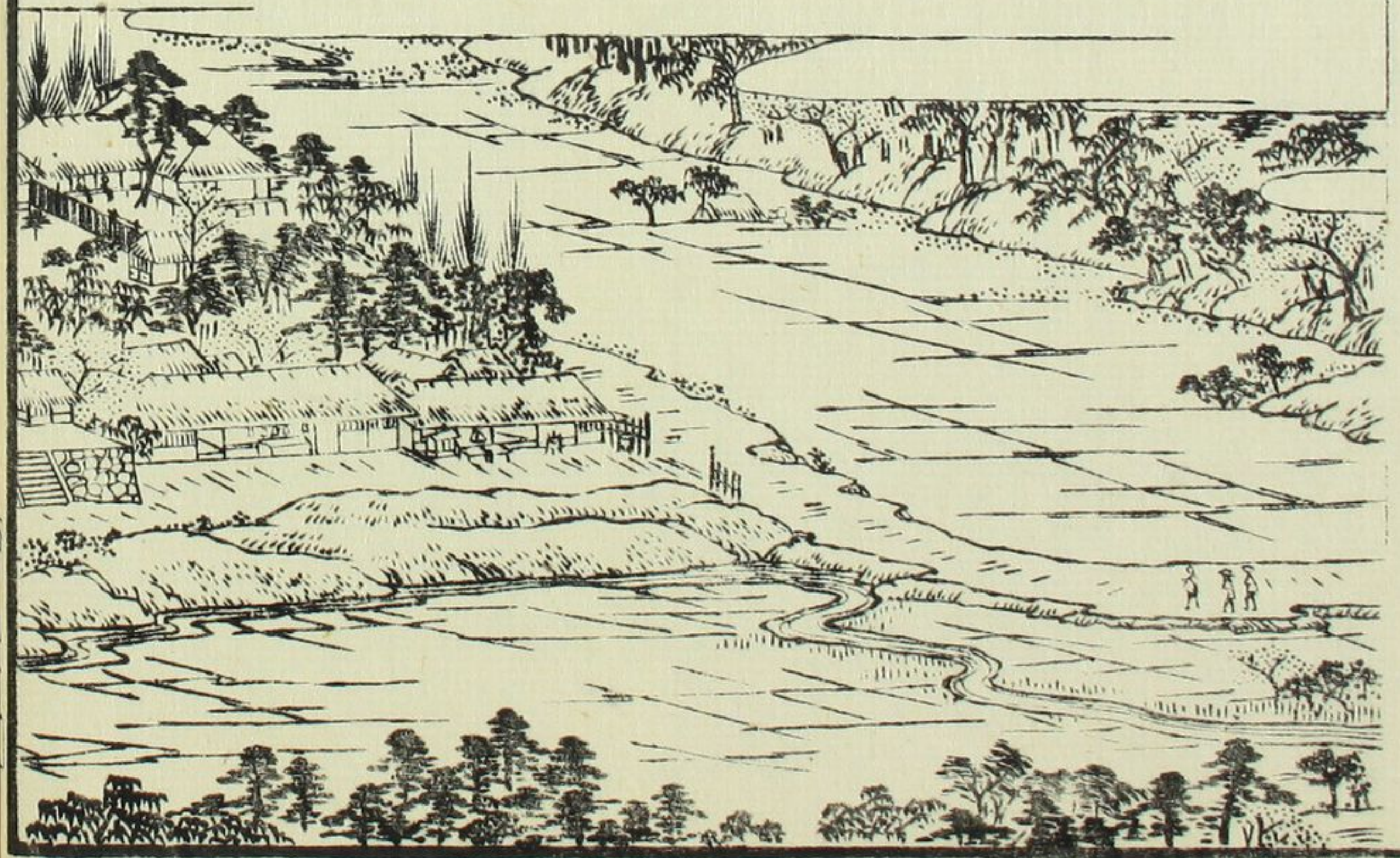
大塚
護持院





其三

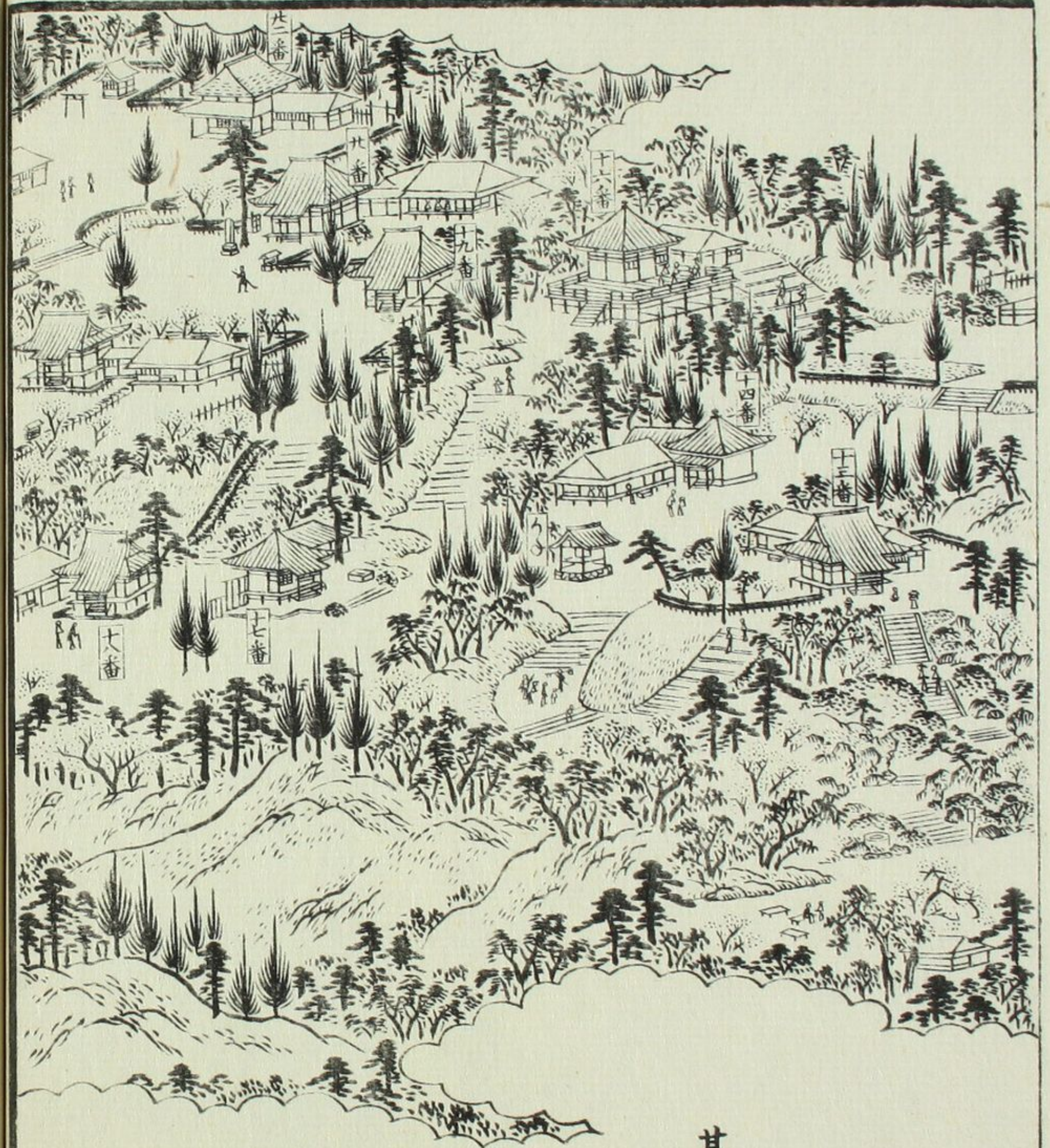
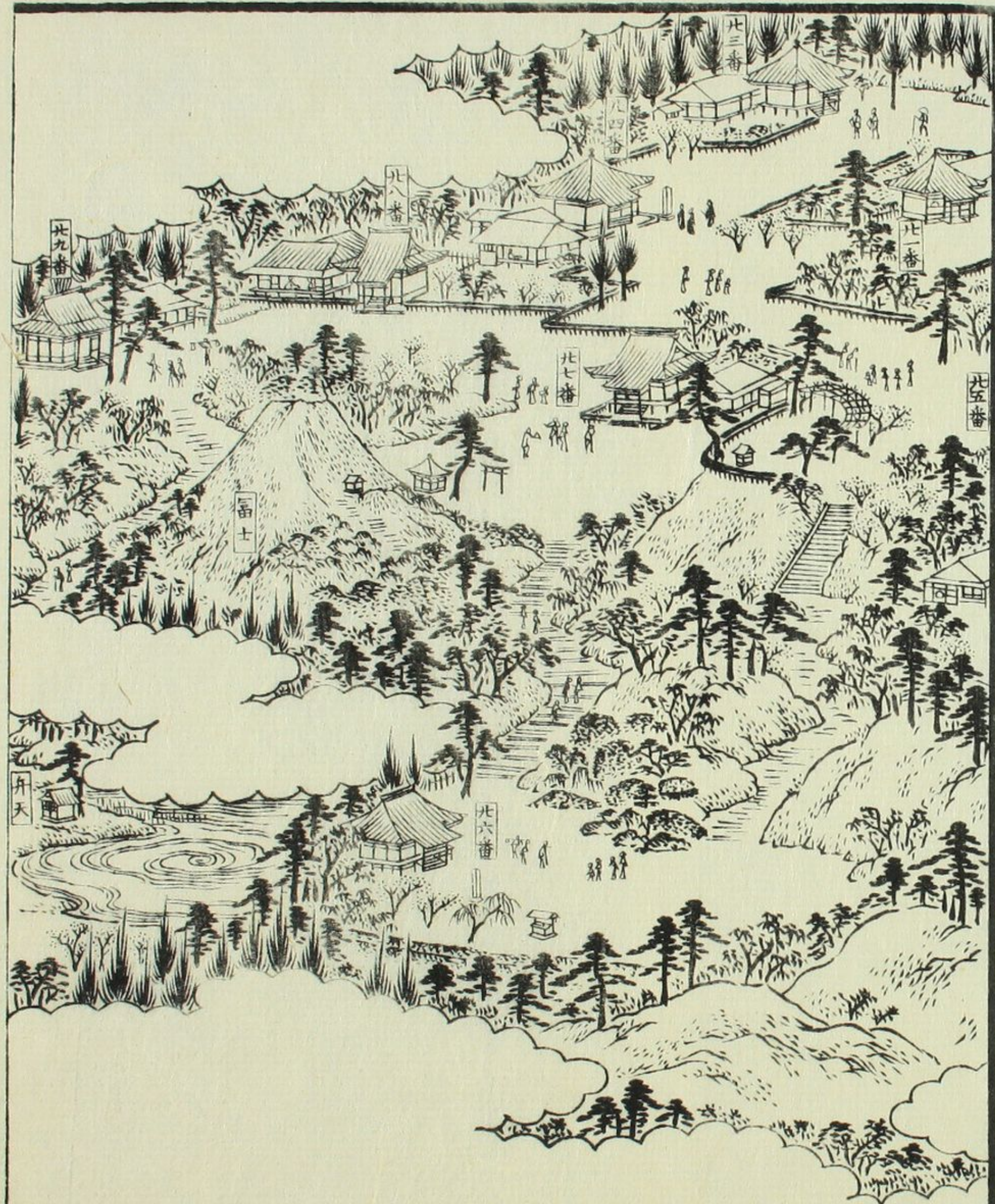
寺淨本



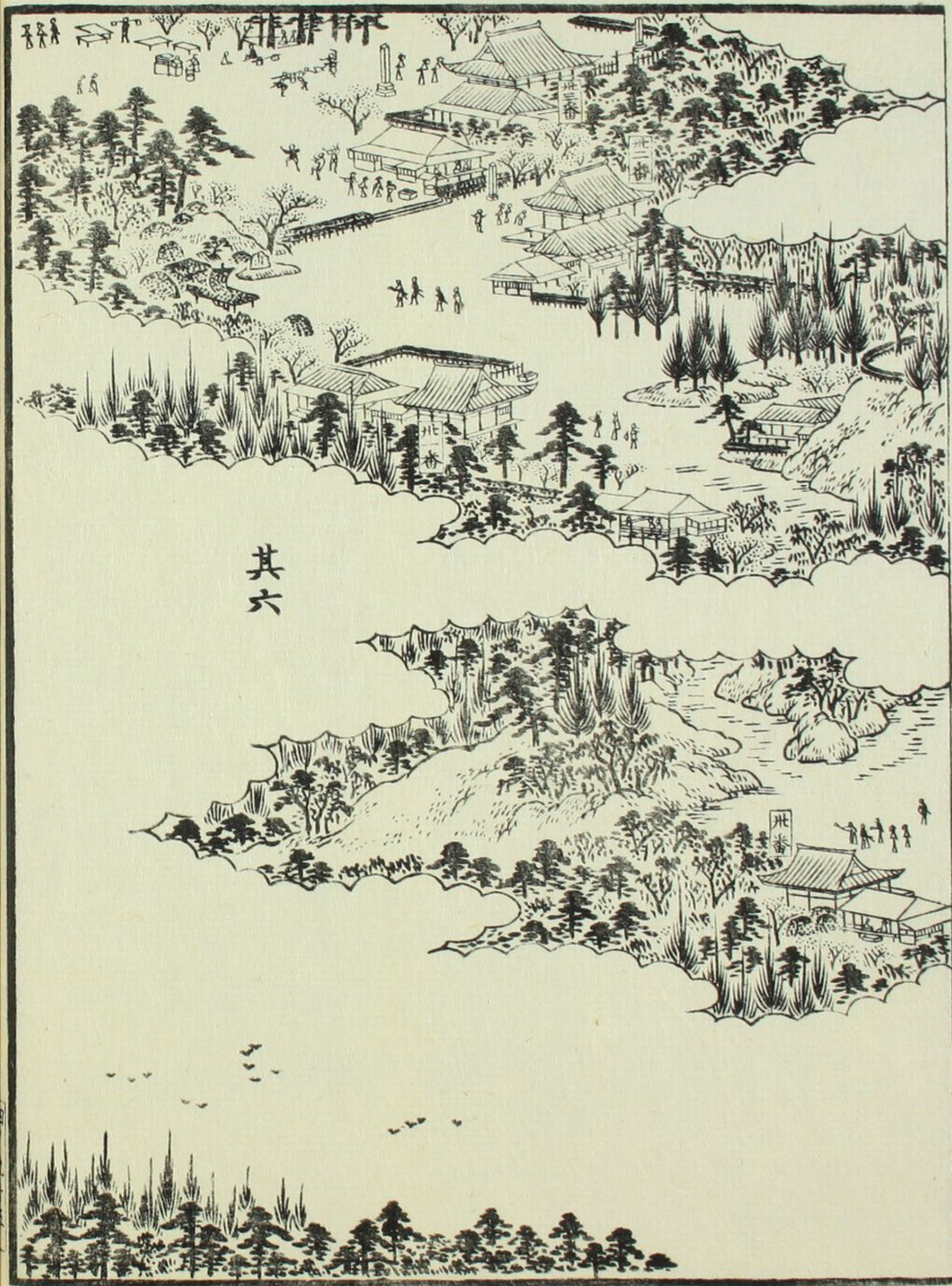


其四

護國寺境内
西國札所寫三十三所觀音の圖



其五



其六

護國寺おあひ大塚護國寺の内よ近一江城護持の法行

願所となき一ゆれ筑波山兼帯坊舎日輪院月輪院と云ひ

山開 毎年三月廿日弘法大師の御影供修行あり此日諸人お庭中の

神 嶺山護國寺 悉地院と号し音羽町の北よあり新義の真言

宗あり和州長谷小池坊よ属す閑山を亮賢僧正と号し公あり

寺領千二百石を附せられ盛大の地なり

像開基

本堂本尊如意輪觀世音 瑪瑙石中より天然のものを取り元禄半の頃

持しありしと黄葉隠元老師の弟子黒滝の潮音前川氏と師弟の縁あり

音は授与すそ後故あつて 柱昌一住尼公崇敬あり由事此合考よ

薬師堂 本堂左あり本尊茶師の昔當寺草創の時此地雙う池あり出現あり

西國三十三番順禮札所写 御堂より西の方の山間あり天明年間深林を伐

歡喜天 諸人の眼をよるこころを 境内寿命院お女を桂昌一位尼公の信の

天下安金の浴油の法を傳せられ寺産をあり

永代不退

仁王

仁王の裏に置所の廣目增長の今宮五社

當所鎮守と云天照大神宮ハ幡大神春日

大明神今宮大明神三部大権現五社と総稱す
音排町音排町横木町ホの鎮守なりと云儀
仁王の像ハ古ハ火災ノ災ヲ禊ル
仁王の像ハ古ハ火災ノ災ヲ禊ル
仁王の像ハ古ハ火災ノ災ヲ禊ル

當寺ハ延宝九年二月七日上野國八幡別當大聖護國寺の住持

法印亮賢小高田沙菜園の地と記ひく寺とす依く大聖護國

寺と号亮賢初 河在胎の時より沙彩禱をまじりて天和

元年 憲廟將軍の宣下蒙るゝ同年五月廿八日都下新

敷の大聖護國寺を仁和寺と録し院家と依く寺領三百石

を附し貞享二年十二月廿八日大聖護國寺住持法印賢廣

黄衣と許す後元禄年中 桂昌院殿一位尼公の沙志彩不

あつて沙菜園の地と記し其項沙建立あり江戸密乗最

大の梵宇あり結構佳なり春時ハ櫻花爛熳と云く頗る

地勢洛の沙室ハ鬘鬘と云く武江神時録云元禄十丁丑相馬陣此地元沙菜園

なりと後白山より云く此寺と沙建立ありと云り求涼亭云く當

寺ハ京の備水寺と摸し前ノ町を音排と云く又青柳町横木町

なりとあつて又音排町九丁あり涼亭と云く九条と云くその名あり

と云く昔の杖堂ハ今の舞臺と云くけり堂宇なりと云

當寺ハ桂昌一位尼公沙遺物を収らる今猶佳く関帳の項

諸人ハ拜せしむ金銀をとりしめ其結構言葉ものく尽く

星谷の井田地 護國寺の西の谷ハあり其地を星谷と号す往古

此地ハ星祭を修む行者あり本浄寺の裏ハ塚のこころと云

ありと星産と号け其傍ハ一ツの井ありと云く此井早魅也

水絶を涌出せし後埋む今も山々ハ其跡を存し符水

某水ハ求人多し此下流ハかゝる橋を星谷橋と号く

大野山本浄寺 護國寺の西小篠坂あり日蓮宗あり甲

斐の延嶺ハ屬せり真珠院日要上人 明渡上人ハ身延山頭を以て開

基とす始谷中ハありと云く宝永三年此地ハ移しと云く當寺ハ

宗祖上人の像あり

七面大明神 神懸を身延離形のまゝの像のまゝの古本山貫首日悦上人紫衣
是と謝せんる宝蔵に收る所の七面を大野氏に授けし今一部朝臣吉田兼連
書する所の額あり九月十八日祭祀あり前夜より参詣あり
大黒天 日蓮上人安房の清澄に在り 虚空蔵の御前より智慧を授けし讀經教の
及ひ 静梁香を焚く事あり其所を集む私安三年大黒天の像を造ら
るるり則背面より記を日蓮上人の真筆なりとあり

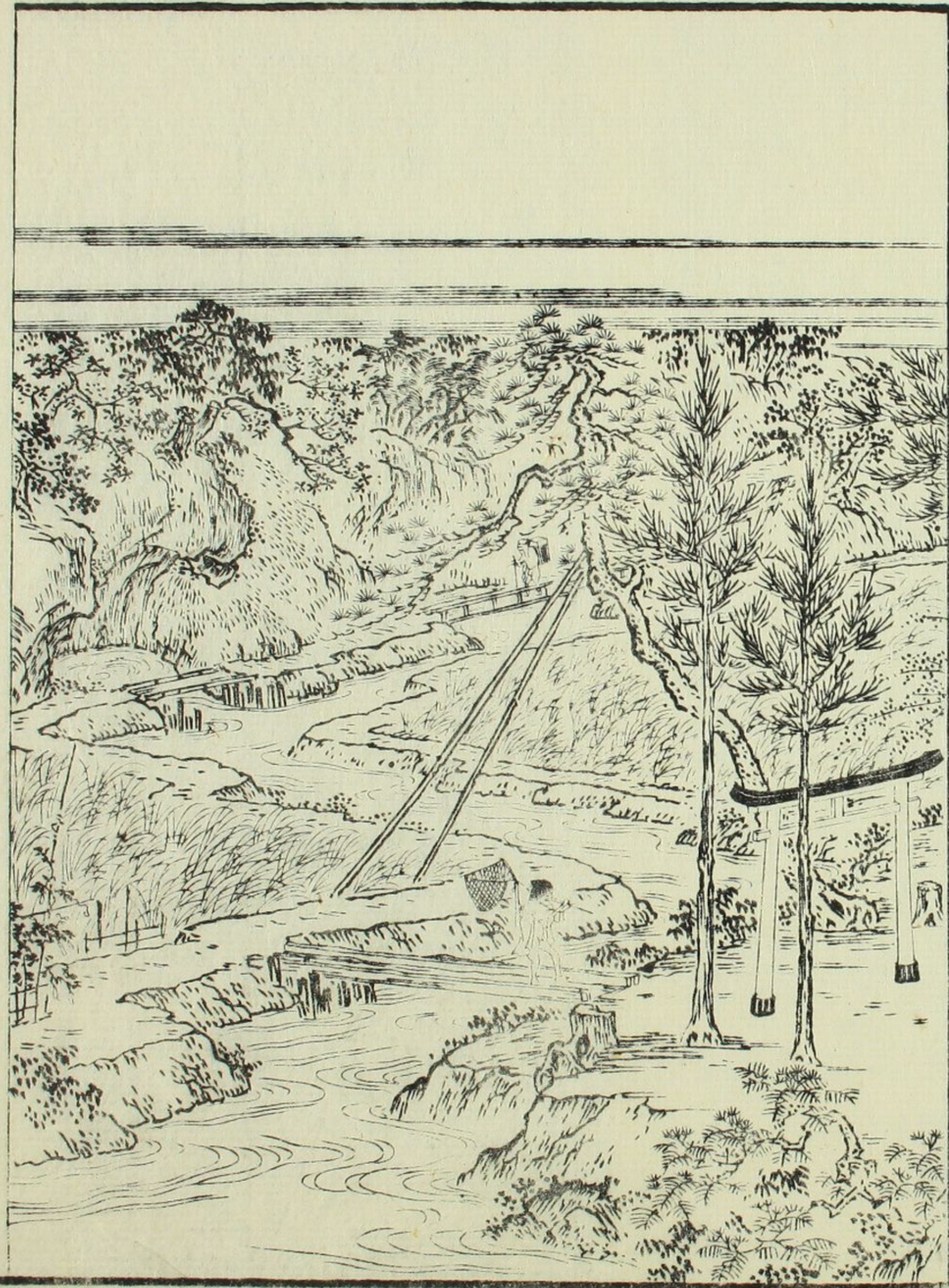
此經 尊日 蓮日 讀以 青龍 凍之 五百 滅後 流布
是生印

此靈像を日親上人感得あり證書を添らる後横井氏其當寺に收まると
の是生と日蓮大士清澄寺の道善と稱し 落飾法衣の後道善命をその名なり
御 巖山清立院 護國寺の裏門より 雜司ヶ谷鬼子母神へ移道の右
側小坂より傍らあり 雜司ヶ谷本竜寺の持とす 常唱
堂小安まゝの宗祖上人の靈像日法上人の真作なりとの相傳ふ
正嘉年間關東疫疾流行しる項行脚の沙門此草堂に投宿の間
此地の人此病患を救ひ又別れに臨むの時此靈像を止め置とんと
り 此靈像感得あり後世前小別像と造ると日法
上人作の像とこの新像の胎中より取むとあり 日親上人影堂常唱堂
の前より元和年間當寺の住僧日意師と 請雨松 堂前より千徳の年八農民
のつら感得せし影像なりとあり

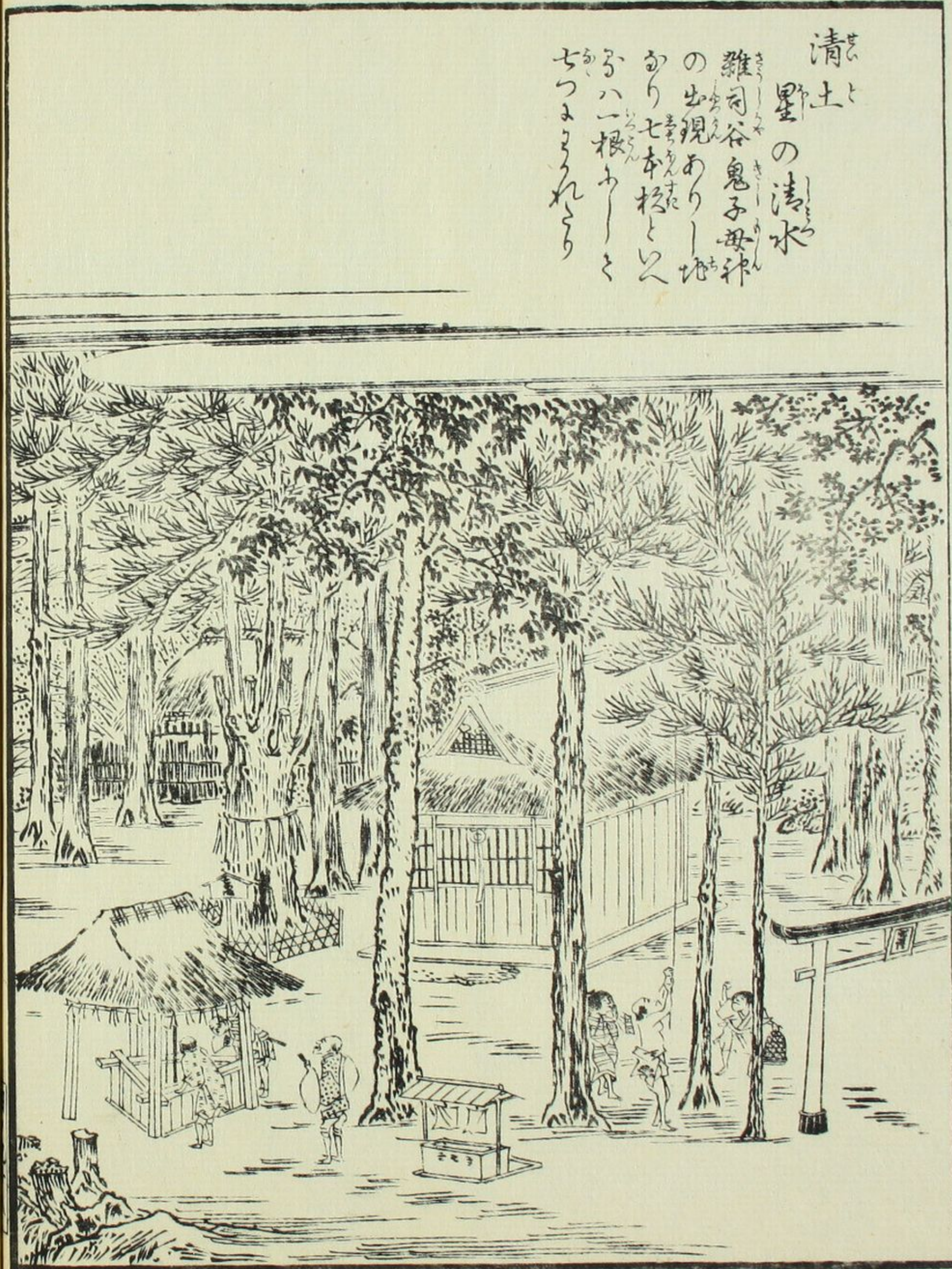
日蓮上人の影像ハ七雨又靈驗ありとて 樹下より存する所の石
像ハ日意師の影像あり 本浄寺より南あり此地を清土とのみ
雜司ヶ谷鬼子母神出現所 蒼林の中小社あり則雜司ヶ谷鬼子母神出現の地なり同一神と
鎮より社前ふある所の井泉を星の清水と号し往古鬼子母神出現
の項此井小星の影を頭現せしありとて 其井形
接あり 井と字せり

不動山宝城寺 清立院の西の小坂を隔てあり 豆州玉澤の法華
寺不属す當寺安置の日蓮大士の影像ハ大覚大僧正の作なりと
り 諸人結縁の爲正五九月の十三日内拜あり又毎年十月八日あり
十八日地法華經讀誦千部修行あり

妙永山本納寺 鬼子母神の堂前東の方此小路左の側にあり
法明寺に属せり當寺に九老僧の像を安んず 九老僧ハ日親上人の
日像 日輪 日典 日澄 日善 徒衆より所謂日印
日行 日乾 朗慶 等なり 當寺ハ慶安三年庚寅實藏院日相上



清土
 野の清水
 雞司谷鬼子母津
 の出現ありし地
 あり七本松と云
 ふハ一松ありと
 七つよりなれり





清立院
日親堂
請雨松
寶城寺



人開基天神地祇人鬼勸請 護法堂と号す 三室の諸尊なりひふ日月星の三

光天を安んず毎月十七日の夕より廿三日の曉より三光同時
昇天の旦と待終夜誦経唱題怠慢なり是と十夜待と

とり

鬼子母神堂 雜司谷より法明寺の支院大行院の持かり

木殿鬼子母神 銅像なり鬼子母神一名と相殿 同儀具足天鬼子母神の表

鷲大明神祠 堂前左のあり祭神詳あり或云出雲國神戶郡鷲

此神ハ疱瘡の守護神なり正徳の頃松平州侯神告は依り是と御請す

毎月初日を以て 稻荷明神祠 堂前右のあり祭神天照大神密と八幡大神

銀杏樹 社前あり世よ石像二王尊 初田戸山盛南山と云寺より自證

華表 本阿弥光悦の撰と云鬼子母神と書せり

正月十五日 集り法華經を讀誦す 同十六日 辰刻一山の僧徒本殿より

終り祝詞酒 同日奉射 土俗ひやと唱へテ音通す其式ハ射手六人各小

五献と号す

清取との間式あり後射手壺人やく夫六筋と放つ都て三拾六筋あり日記付

此間一山の僧侶又氏子の輩集會し酒五献あて終り此式天正文祿の頃す

同十八日 泥修羅 四月八日 敬衣 五月十八日 尼讀誦 六月十五日

此地の農夫集り社頭の 七月十五日 草角かど自修せり 九月十八日

草刈 刈拂ふ草雜り 衣替あり 今日より十八日まで 恭詣群集す 追難

尼讀誦 十月八日 是と會式詣と云近世ハ北三日まで 恭詣あり 院主以下一山の

當社の追難や々男女社壇に群集し誦経唱題をせし聲尤響り 院主以下一山の

僧徒内陣小候一陀羅尼品と誦す夕十三巻終て前前の供豆瓜打出を群集

の男女争て

縁起云此本尊ハ永祿四年辛酉五月十六日此地山本氏田口氏あり者

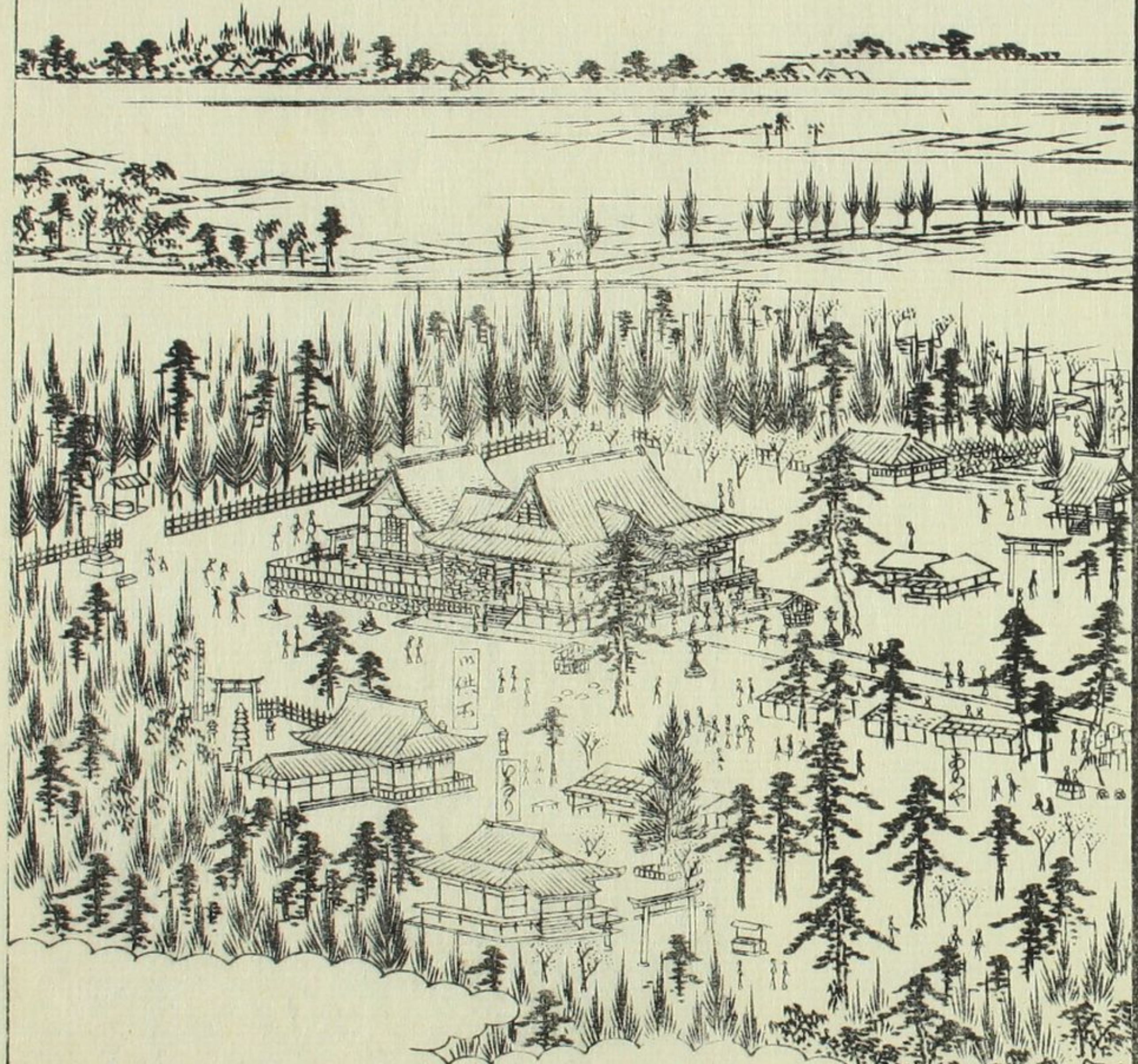
連綿たり 池水小星の現をもとん後平地を穿ち鉄下は是哉

得たりしあり 今護國寺の西に其出現の 依東陽坊第五世日性師

贈大行院の乃佛殿は安んずも十有余年を歴り然る安房

國の沙門某 日性師は仕へる思ひん密小此靈像を

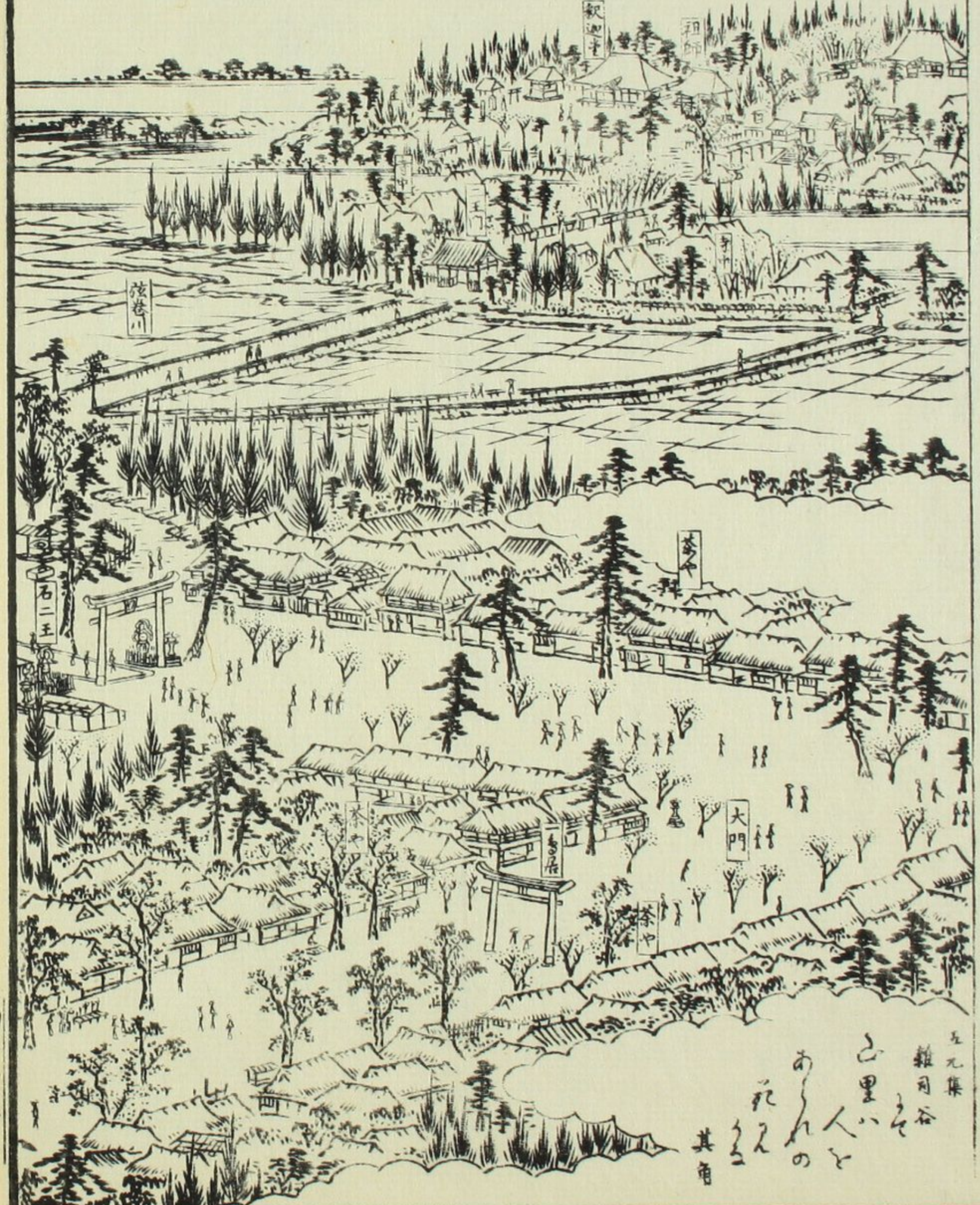
雑司谷鬼子母神堂



門前
酒肉
作
今



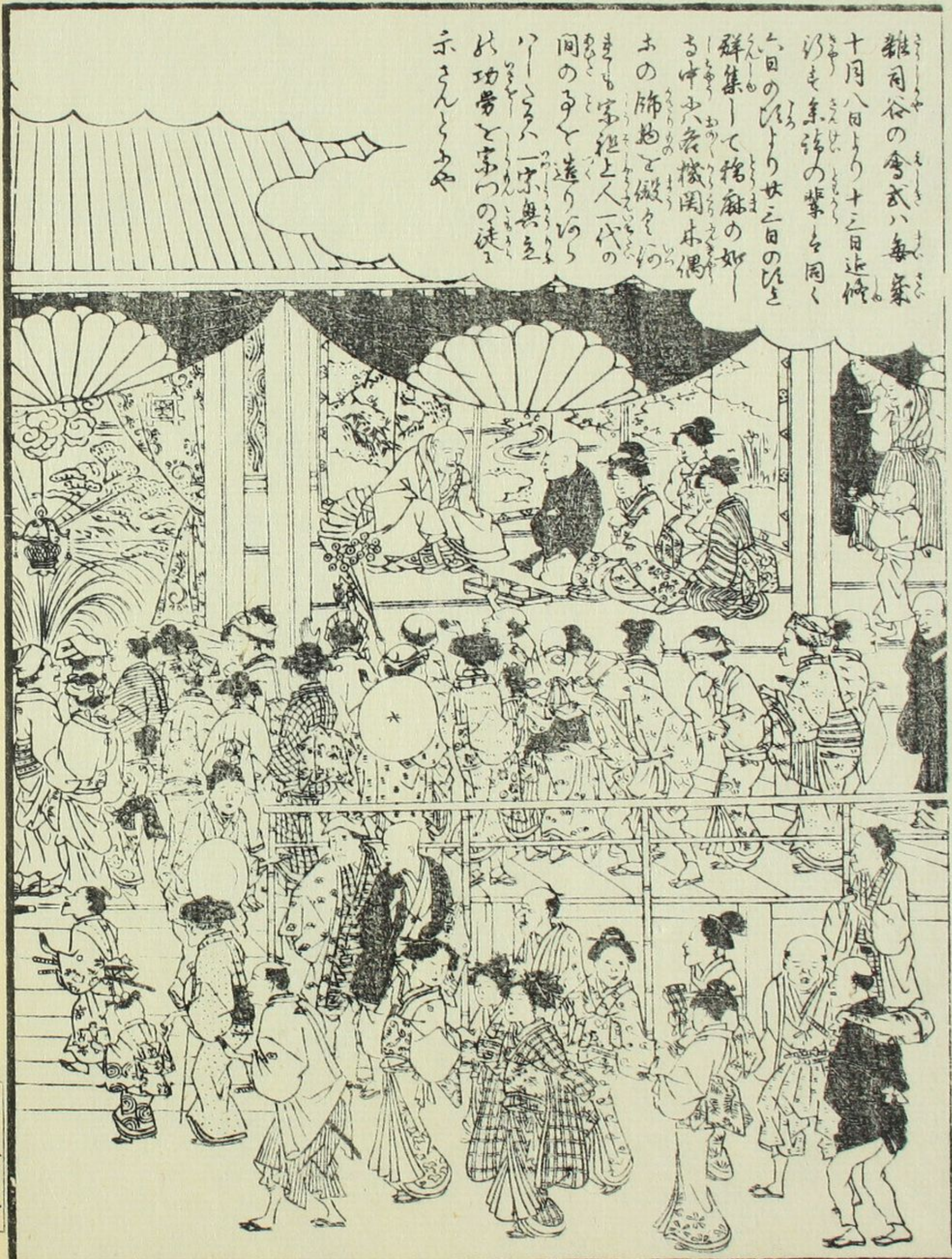
法明寺



五元集
雑司谷
と里
あんの
其角

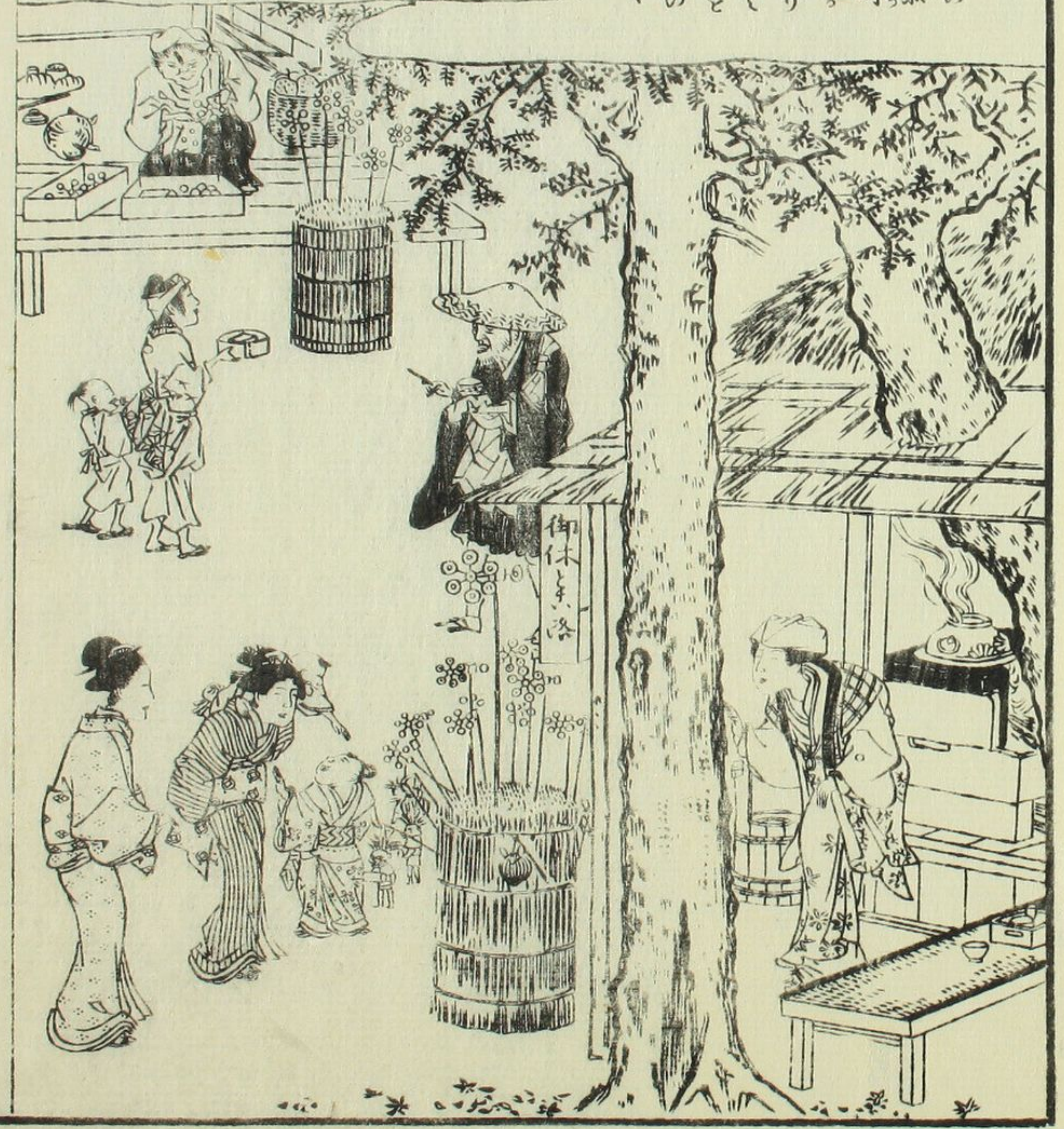


雑司谷の舎式ハ毎集
 十月八日より十三日迄
 仍き集の集を同く
 六日の比より廿二日の比と
 群集して物麻の如
 中少者概園本偶
 赤の飾物と似る
 まも字絶と人一代の
 間の事と遠り何
 功勞と家門の徒
 示さんともや



盜之故郷に帰る其年夫正五年あり 忽病を發し一日自口をくちりて
 我ハ元武州雜司谷あり彼地の衆生機縁既ニ熟シ正小濟度ニ
 在リ時をぬき泥土より出現せしと云ふ移まらぬ我意よりあり
 直小元の地ニ歸せしとあり時ニ村人大ニ怖レ畏レ再ハ東陽
 坊ニ遷シ今ノ本殿是なり 仍諸人靈威ありしを知らむ川ノ草堂を營え
 往古より指荷の社跡と云傳へし叢林を闢き竟ハ天正六年
 戊寅四月十日ニ始ク斧を下し同五月朔日徑營落成しあふ
 安置せし後寛文六年ニ至シ自證院殿新ニ寶殿を造立せし
 今ノ本殿是なり自昌院殿ハ加州
 黄門の息女安藝美守の令室
 此地ハ遙小都下と離るる事鬼子母神の靈驗著明く諸頭
 ありて協あり常ニ詣人絶えを依り門前の左右を
 貨食店軒端を連ねり十月の會式ハ殊更群集絡繹とて
 織織風車麥稟細工の獅子川口屋の飴を此地の名産と云

此地にて製する所の
 麥葉細工の角を束
 獅子ハ昔より田舎町
 小徑ニ久米女といふ
 者そ人の母ニ孝あり
 家元より貧しを
 孝養のすまふと
 かけざるは南無の
 鬼子母神法 諸
 寛文二年の夏より
 ありては麥葉
 前々獅子の形と
 送り等とありて
 商ひのありしを
 人競い竟よの
 獅子の爲よの
 業ハ容易く母
 ありしは母の
 も作の裏より
 ひりのかき



又當山ハ花の名所あり近年境内ニ櫻教多植ク往昔ニ復セ

シメト凡ヒ茶家分限帳江戸雜司谷

麥藁細工角兵衛獅子ハ昔高田四ツ家町ニ住ル余トシ

女子製し初ルルニ此余女ニ母一人ありリ家貧しく孝

養心ノモウツリシヲモウツリシヲモウツリシヲモウツリシヲ

詣ル深ク此ヲ祈願シテ其至孝ノ冥慮ニウツルルル

有ル寛延二年ノ夏麥藁ト以テ角兵衛獅子ノ形ヲ造リ

テモウツリテ頂雜司谷ノ鬼子母神ニテ參詣多ク其頂

前見ハ此獅子ヲ買ハ人夥しく竟ル麥藁細工ノメニ身

テモウツリテハ夫あり後ハ心也モウツリテ母ヲ考メテ

百度泰 寄願ありトテ社前ニ往返シテ百度泰拜ト是ヲ俗ニ百

度泰ト云フハ或人云ク此ハ當社鬼子母神ト以テ權輿トシ

テテ取リ百度詣テモウツリテテテテテテテテテテテテ

威光山法明寺 同北の方より支院八字あり最古刹あり

寂々寺院なり 庫裡ハ鉦作アリ

釋迦堂 余堂中ニ代駒像ヲ安テ

銀杏樹 同堂前より古樹あり

祖師堂 同釈迦堂ノ右ニ並ニ中ノ宗祖

安國論漢説ノ解想アリトモ當寺時源上人ノ列中ニ

増城トモシテ應永十二年ノ酉ノ一再ハ此影像ノ彩色ヲ加テ

堂仁九年戌戌飛輝匠作アリトモ大古當寺真言宗ノ時源家累代ノ

昔ノまふ存セリ 釋迦如來石像 推古或武夫横死ノ難ヲ道

記セテ石碑ヲ建テ 鯨鐘 同古あり寛永二十二年甲申鑄

盤ノ形ヲ鑄付テ 諸人見テ奇異ナリトモ按テ度量衡ノ意

時ノ新クも亦教不預テテ此形ヲ鑄付テリテ人ハ京師鴨川ノ東岸今出川

二王門 左右ニ金剛密迹ノ像ヲ置ク

正月元日 同三日迄本坊より同十三日 釈迦堂より同十五日 涅槃

音樂練 四月八日 誕生繪上同同日より 五月十三日 釈迦堂より同日

七日虫拂 九月十三日 讀誦修修羅尼 十月六日 同七日ハ相地ノ同 同日

同十三日御影供俗談くちのり八日あり止三日迄未供

相傳ふ當寺ハ弘仁元年庚寅草創なり往古ハ真言宗の

道場あり或云慈覺大師正嘉元年丁巳嚴譽律師駿州岩

本の実相寺なり日蓮上人の法を聞直ハ宗風を持上人の

弘法乃法号を嚴譽院日源と称す當寺開山是也中

堅秀坊乃の實相寺賀島の実相寺ハ住持を学行群秀とのり

弦當寺ハ玉門の前を東流す細き溝川を引く古ハ布引川とも唱へたる

大行院 鬼子母神の別當なり 往古ハ東陽坊と云天正年間

加州侯の始祖前田利家朝臣建立せられ堂内ハ

日蓮上人の徒弟六老僧の影像を安置せ日像日照日興日向

或人云く此像ハ始谷中感應寺ハあり小畑勘兵衛尉景憲檀那

彼寺改宗の頃一軒焼失ハれ残を當寺へ移す寺なり彫刻ハ何むハあり又自らの肖像ハあり牌堂ハ

當院ハ宗祖歴代の真筆ハハハ上古の調度等ハを收藏す

蓮成寺 同東ハ隣る當寺ハ本山十三世日延上人の開創なりト

ハハ十八老僧の像を安ハ日源日家日保日弁日法日傳日位日秀

日忍日門以上 十八人なり

其餘深草不可思儀の

